元総社蒼海遺跡群（133）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

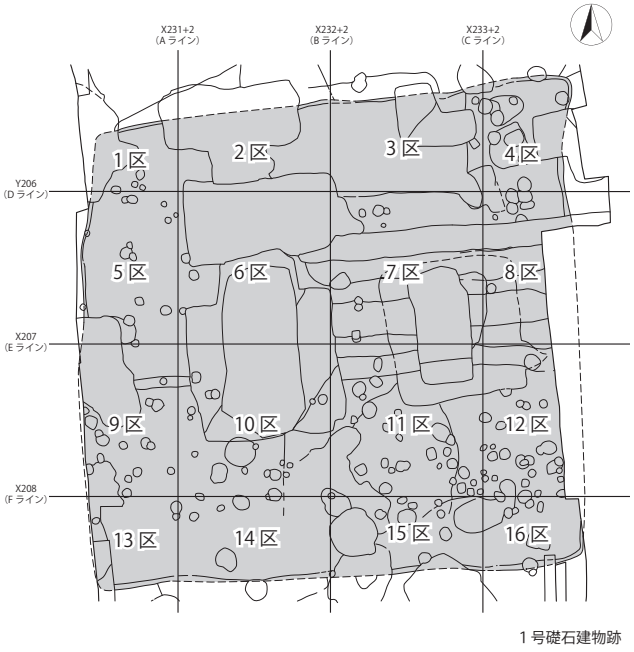
2022.3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（133）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書



2022.3

前橋市教育委員会

1　元総社蒼海遺跡群（133）から南を望む

2　調査区全景（上が北）

巻頭図版 2

3　１号礎石建物跡版築

4　調査区全景（最終）（北東から）

5　１号掘立柱建物跡全景（東から）

6　１号溝跡全景（東から）

7　２号溝跡全景（北東から）

は　じ　め　に

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、上毛三山の赤城山を背にして利根川と広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、はるか昔から人々が生活を営んできました。そんな先人の息吹を感じられる生活のあとが、市内のいたる所に遺跡や史跡として多く存在しています。古代において前橋台地には、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめたくさんの首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に建てられました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（133）は、上野国府の推定地内に位置しています。発掘調査の結果、上野国府が存在した時期に建てられたと考えられる規模の大きな建物跡が確認されました。この建物が上野国府に深く関係するものなのか、それは今後の検討に委ねるところもありますが、今は一本の糸に過ぎない調査成果であっても、織り上げて行けば国府の解明へと繋がるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮や、地元の皆様のご協力や声援の結果といえます。また、極暑、極寒の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和４年３月

前橋市教育委員会

教育長　　吉　川　真由美

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群(133)発掘調査報告書である。

2．調査主体は、前橋市教育委員会である。

3．発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名称	元総社蒼海遺跡群(133)(遺跡コード：1A242)
調査場所	群馬県前橋市元総社町 2107 番 1 号
発掘調査期間	令和元年 6 月 14 日～令和元年 12 月 20 日
整理・報告書作成期間	令和 2 年 1 月 8 日～令和 4 年 3 月 18 日
発掘・整理担当者	阿久澤　智和・齋藤　颯・梅澤　克典（埋蔵文化財係）

4．本書の原稿執筆・編集は齋藤・梅澤・阿久澤が行った。

5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

市村政夫、碓井俊夫、桑原和衛、小池賢、小林千恵美、齋藤簡詳、奈良啓子、羽田郁子、町田妙子、松岡利雄、森泉芳昭、山川明男、吉澤智子

6．調査および報告書作成にあたっては下記の諸機関・諸氏の御教示・御指導をいただいた。

群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市都市計画部区画整理課

出浦崇、井上唯雄、梅澤重昭、大橋泰夫、神谷明、桜岡正信、須田勉、田中広明、田辺芳昭、永井智教、能登健、橋本淳、林部均、文挾健太郎、前澤和之、松島榮治、松田猛、右島和夫

7．発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．挿図に国土交通省国土地理院発行の 1：200,000 地形図（宇都宮、長野）、1：25,000 地形図（前橋）、1：6,000 前橋市現形図を使用した。

3．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳時代～平安時代の竪穴建物跡　HN…版築層　B…建物跡（礎石建物跡、掘立柱建物跡）

T…竪穴状遺構　W…溝跡　I…井戸跡　O…落ち込み　D…土坑　DB…土壙墓

P…ピット・柱穴・貯蔵穴

4．遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構　全体図…1/100、建物跡（礎石建物跡、掘立柱建物跡）、竪穴建物跡、竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1/60、竈・炉断面図…1/30

遺物　土器…1/4、石製品…1/1、銅製品…1/2、鉄製品…1/3

5．計測値については、現存値を表す。

6．セクション注記と遺物観察表の色調について新版標準土色帳（小山・竹原 1967）を基準とした。

7．遺構平面図の - - - - - - - - は推定線を表す。

8．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図　焼土…　粘土…　炭化物・灰…

遺構断面図　硬化面(層)…

遺物実測図　須恵器断面…　灰釉陶器表面…　緑釉陶器表面…

黒色処理…　煤・炭化物付着…　白磁表面…

酸化土砂…　鉄銹化…

９．主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108 年）

As-C（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半～中葉）

目　　次

はじめに

例言

凡例

目次

図版目次・挿図目次・表目次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1

　1　遺跡の立地 …… 1

　2　歴史的環境 …… 1

Ⅲ　調査方針と経過 …… 7

　1　調査方針 …… 7

　2　調査経過 …… 7

Ⅳ　基本層序 …… 8

Ⅴ　遺構と遺物 …… 16

Ⅵ　まとめ …… 55

写真図版

抄録

奥付

写真図版目次

【巻頭図版】

1　元総社蒼海遺跡群（133）から南を望む
2　調査区全景（上が北）
3　１号礎石建物跡版築
4　調査区全景（最終）（北東から）
5　１号掘立柱建物跡全景（東から）
6　１号溝跡全景（東から）
7　２号溝跡全景（北東から）

【遺構写真】

PL.１－１　１号礎石建物跡Ａライン北半掘込地業
　　2　１号礎石建物跡Ａライン南半掘込地業
　　3　１号礎石建物跡Ｂライン北半掘込地業
　　4　１号礎石建物跡Ｂライン中央部掘込地業
　　5　１号礎石建物跡Ｂライン南半掘込地業
　　6　１号礎石建物跡Ｃライン北半掘込地業
　　7　１号礎石建物跡Ｃライン南半掘込地業
　　8　１号礎石建物跡Ｄライン西半掘込地業

PL.２－１　１号礎石建物跡Ｄライン東半掘込地業
　　2　１号礎石建物跡Ｅライン西半掘込地業
　　3　１号礎石建物跡Ｅライン中央部掘込地業
　　4　１号礎石建物跡Ｅライン東半掘込地業
　　5　１号礎石建物跡Ｆライン西半掘込地業
　　6　１号礎石建物跡Ｆライン中央部掘込地業
　　7　１号礎石建物跡Ｆライン東半掘込地業
　　8　１号掘立柱建物跡Ｐ$_1$全景（東から）

PL.３－１　１号掘立柱建物跡Ｐ$_1$土層堆積
　　2　１号掘立柱建物跡Ｐ$_2$全景（東から）
　　3　１号掘立柱建物跡Ｐ$_2$土層堆積
　　4　１号掘立柱建物跡Ｐ$_3$全景（東から）
　　5　１号掘立柱建物跡Ｐ$_3$土層堆積
　　6　１号竪穴建物跡全景（南から）
　　7　１号竪穴建物跡礫出土状態（南から）
　　8　１号竪穴建物跡鉈尾出土状態（西から）

PL.４－１　１号竪穴建物跡竈全景（北西から）
　　2　２号竪穴建物跡全景（西から）
　　3　３号竪穴建物跡全景（北東から）
　　4　３号竪穴建物跡竈全景（南西から）
　　5　４号竪穴建物跡全景（北西から）

6　５号竪穴建物跡全景（西から）
7　５号竪穴建物跡竈全景（西から）
8　５号竪穴建物跡礫出土状態（東から）

PL.５－１　６号竪穴建物跡全景（南から）
2　６号竪穴建物跡灰検出状態（上が北）
3　７号竪穴建物跡全景（東から）
4　９号竪穴建物跡竈全景（東から）
5　９号竪穴建物跡全景（東から）
6　10号竪穴建物跡全景（東から）

PL.６－１　10号竪穴建物跡礫出土状態（西から）
2　11号竪穴建物跡全景（西から）
3　１号竪穴建物跡竈全景（西から）
4　12号竪穴建物跡遺物出土状態（南から）
5　１号溝跡土層堆積状態（東から）
6　２号溝跡土層堆積状態（北東から）
7　３～６号溝跡全景（東半）（北から）
8　３～６号溝跡全景（西半）（西から）

PL.７－１　１号竪穴状遺構全景（南から）
2　２号竪穴状遺構全景（北から）
3　１号井戸跡全景（南から）
4　１号落ち込み全景（南から）
5　１号落ち込み遺物出土状態（南から）
6　１号土壙墓全景（北西から）
7　104号ピット全景（南西から）
8　168号ピット全景（北から）

PL.８　出土遺物（１）
１号礎石建物跡（掘込地業内）、
竪穴建物跡（１号～６号・11号）

PL.９　出土遺物（２）
12号竪穴建物跡、溝跡（２号・３号・５号）
１号落ち込み、土坑（２号・７号）
59号ピット、表採

挿　図　目　次

Fig.１　元総社蒼海遺跡群位置図 …… 3
Fig.２　周辺遺跡図 …… 4
Fig.３　１号礎石建物跡グリッド設定図 …… 8
Fig.４　土層柱状図 …… 8
Fig.５　周辺調査地点とグリッド設定図 …… 9
Fig.６　元総社蒼海遺跡群（133）全体図 ……10
Fig.７　元総社蒼海遺跡群（133）全体図（ピット）
……11
Fig.８　遺構分布図（古代・１号礎石建物下層） …12
Fig.９　遺構分布図（古代・１号礎石建物相当期）
……13
Fig.10　遺構分布図（古代・１号礎石建物上層） …14
Fig.11　遺構分布図（中世以降） ……15
Fig.12　１号礎石建物跡（１） ……29
Fig.13　１号礎石建物跡（２） ……31
Fig.14　１号礎石建物跡（３） ……32
Fig.15　１号掘立柱建物跡 ……33
Fig.16　１・２号竪穴建物跡 ……34
Fig.17　３・４号竪穴建物跡 ……35
Fig.18　５・６号竪穴建物跡 ……36
Fig.19　７・８・９・10号竪穴建物跡 ……37
Fig.20　11・12号竪穴建物跡 ……38
Fig.21　１号溝跡 ……39
Fig.22　２号溝跡 ……40
Fig.23　３・４・５・６号溝跡、１号竪穴状遺構
……41
Fig.24　２号竪穴状遺構、1・２号井戸跡 ……42
Fig.25　１号落ち込み、１～５号土坑 ……43
Fig.26　６～８号土坑、１号土壙墓、１～５・
９～16・22・39・164号ピット ……44
Fig.27　17～21・23～26・28～30・36～38・72～83・
87・88・135・150・153号ピット ……45
Fig.28　27・40～57・62～67・70・71・100～104・
115・159・160・170～172号ピット ……46
Fig.29　31～35・58～61・68・69・85・86・
112～114・117・141・167号ピット ……47
Fig.30　84・89～99・106～111・118～123・131・
132・137・142・158・162・165号ピット ……48
Fig.31　105・116・124・127～130・133・134・139・
140・144～149・151・152・154～157・161・
166・169・173～175・177～179号ピット …49
Fig.32　出土遺物
（１号礎石建物跡、１～３号竪穴建物跡）…50
Fig.33　出土遺物（４～６号竪穴建物跡） ……51
Fig.34　出土遺物
（10・11号竪穴建物跡、１・２号溝跡）……52
Fig.35　出土遺物
（２・３・５・６号溝跡、１号落ち込み）…53
Fig.36　出土遺物（１号落ち込み、２・７号土坑、
59号ピット、グリッド、表採） ……54
Fig.37　総地業の土層比較 ……56

表　目　次

Tab.１　周辺遺跡一覧 …… 5
Tab.２　遺構計測表 ……21
Tab.３　遺物観察表 ……25

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、調査実施年度で 21 年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

令和元年６月３日付けで、前橋市長　山　本　　龍より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会では実施について協議を行い、これを受諾し、令和元年６月４日付けで、調査依頼者である前橋市長　山　本　　龍に対し前橋市教育委員会による発掘調査を実施する旨の回答を行った。これを受け令和元年度の元総社蒼海遺跡群の発掘調査は６月 11 日から開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群 (133)」（遺跡コード：1A242）の「元総社蒼海遺跡群」は、区画整理事業名を採用し、数字の「(133)」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という４つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約 24,000 年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約 3㎞の地点、前橋市総社町総社、元総社町地内に所在している。南東へ約 1㎞の所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道 17 号線、県道足門・前橋線が東西に、東側には主要地方道前橋・安中・富岡線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

２　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の地割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡群の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するもの

には、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、仏教文化の影響を強く受けたと考えられる家形石棺をもつ方墳の宝塔山古墳、県内古墳最終末期に築造された蛇穴山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500 mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。なお、山王廃寺跡は平成 18 年度から 5 カ年計画で山王廃寺範囲内容確認調査が実施され、平成 18 年度は講堂と回廊の北東部分、平成 19 年度は金堂と回廊の西側部分、平成 20 年度は塔の基壇周辺、平成 21 年度は回廊中門と考えられる遺構と回廊の南西部分を調査した。平成 22 年度には、回廊北西部付近で北西にやや傾く版築基壇が新たに確認され、昭和の発掘調査時から確認されている同方向に傾く掘立柱建物と一括して、「山王廃寺下層建物群」として捉えられるに至っている。この建物群の性格については車評衙など存在するが、いまだその確定には至っていない。

奈良時代になると、上野国分僧寺・尼寺の建立など、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。国分僧寺は大正 15 年に国指定史跡となり、昭和 40 年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和 55 年 12 月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和 44・45 年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成 12 年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。なお上野国分僧寺と国分尼寺の中間地域では、関越自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、上野国府については、その位置が現段階では不明であるが、元総社小校庭遺跡や昌楽寺周辺で実施された確認調査を皮切りに、元総社蒼海遺跡群（9）・(95）で掘立柱建物跡が確認されている。また、元総社寺田遺跡から「國厨」「曹司」「国」「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土しているほか、元総社明神遺跡や元総社蒼海遺跡群で当時の役人が用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具)、緑釉陶器が出土している。さらに、国府域の区画溝と推定される古代の大溝が閑泉樋遺跡をはじめとして元総社明神遺跡や元総社蒼海遺跡群で確認されている。これらの過去からの調査成果の積み重ねにより、元総社町付近に上野国府が設置されていた可能性は非常に高いと考えられる。

なお、高崎市内の調査事例や地割による研究により、本遺跡から約 1.5km 南の地点にＮ－ 64°－Ｅ方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。

中世に至り、永享元年（1429)、上野国守護代の長尾氏によって上野国府中（旧国府）に築かれたと伝えられる蒼海城は、県内でも最古級の城郭に位置づけられ、城下町も存在していたと推定されている。しかしながら慶長年間に秋元氏により総社の地へ城および城下町が移転している。

このように総社・元総社地区は特に古代から上野国の中心部として政治の中心として重要な地域であった。特に、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社町は注目される。元総社町は元総社蒼海土地区画整理事業の進捗に伴い平成 11 年から継続的に発掘調査が行われている。また、平成 23 年度から上野国府等範囲内容確認調査も元総社町内を中心に実施していることから、今後、これら調査の進捗によって上野国府が解明されていくことを期待する。

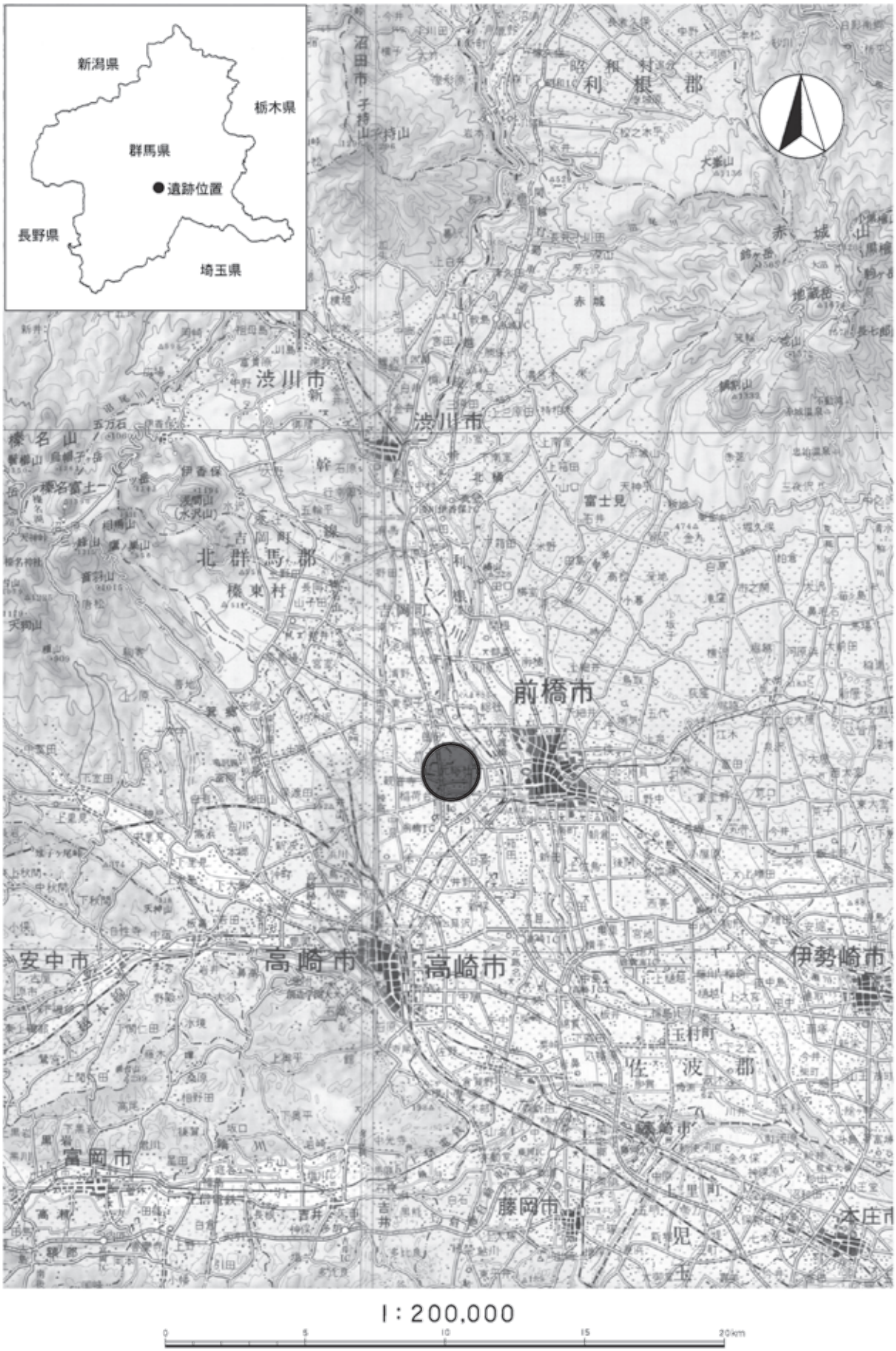


Fig.1　元総社蒼海遺跡群位置図

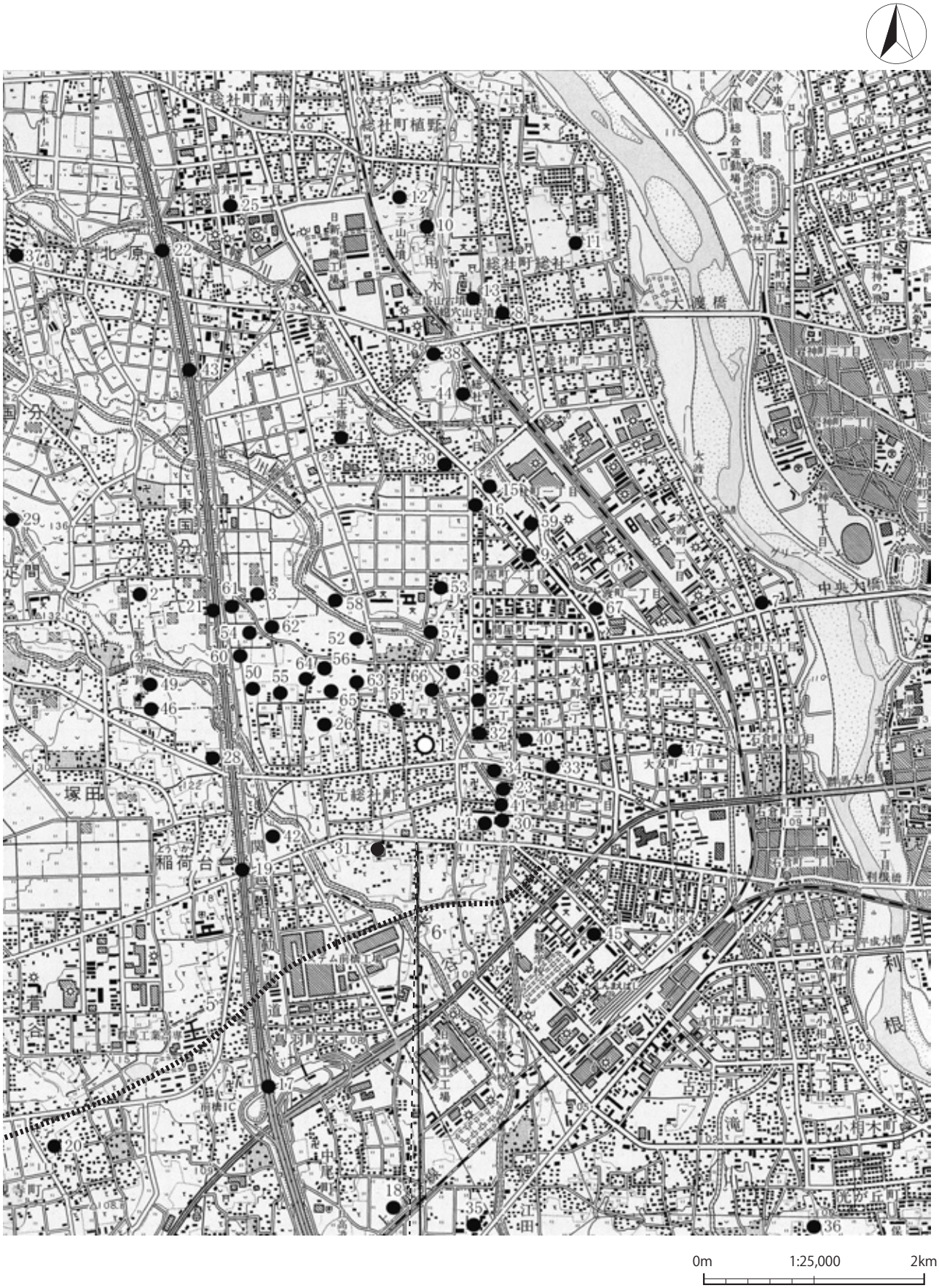

総社町植野
総社町高井
総社町総社
大渡橋
中央大橋
東国分
国分
塚田
稲荷台
元総社町
大友町一丁目
小相木町
0m
1:25,000
2km

Fig.2　周辺遺跡図

Tab.1　周辺遺跡一覧

番号	遺　跡　名	調査年度
1	元総社蒼海遺跡群 (133)	2019
2	上野国分寺跡	1980 ～ 88
3	上野国分尼寺跡	（1999）
4	山王廃寺跡	（1974）
5	東山道駅路国府ルート（推定）	-
6	日高道（推定）	-
7	王山古墳	1972
8	蛇穴山古墳	1975
9	稲荷山古墳	1988
10	愛宕山古墳	1996
11	遠見山古墳	-
12	総社二子山古墳	-
13	宝塔山古墳	-
14	元総社小学校校庭遺跡	1962
15	産業道路東遺跡	1966
16	産業道路西遺跡	1966
17	中尾遺跡	1976
18	日高遺跡	（1978）
19	鳥羽遺跡	1978 ～ 83
20	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ	1979 ～ 1981
21	上野国分寺・尼寺中間地域	1980 ～ 83
22	北原遺跡（群馬町）	1982
23	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982 ～ 96
24	閑泉樋遺跡	1983
25	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983、88
26	草作遺跡	1984
27	閑泉樋南遺跡	1985
28	塚田村東遺跡（群馬町）	1985
29	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ	1985 ～ 87
30	寺田遺跡	1986
31	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986、88
32	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986、95
33	堰越遺跡	1987
34	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987
35	勝呂遺跡	1987
36	五反田遺跡	1987
37	熊野谷遺跡	1988
	熊野谷Ⅱ遺跡	1989
38	村東遺跡	1988
39	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988
40	堰越Ⅱ遺跡	1988
41	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988 ～ 91
42	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989、95
43	国分境遺跡（事業団）	1990
	国分境Ⅱ遺跡	1991
	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991
44	大屋敷Ⅰ～Ⅳ遺跡	1992 ～ 2000
45	元総社稲葉遺跡	1993
46	上野国分寺参道遺跡	1996
47	大友宅地添遺跡	1998
48	総社閑泉明神北遺跡	1999
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001
49	元総社西川遺跡（事業団）	2000
50	元総社小見遺跡	2000
51	元総社宅地遺跡１～ 23 トレンチ	2000
52	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001
53	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	
54	元総社小見Ⅱ遺跡	2002
55	元総社小見Ⅲ遺跡	2002
	元総社草作Ⅴ遺跡	
56	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002
	元総社小見Ⅳ遺跡	2003
57	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002
	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003
58	元総社北川遺跡	2002 ～ 04
59	稲荷塚道東遺跡	2003

番号	遺　跡　名	調査年度
60	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002
	元総社小見内Ⅳ遺跡	2003
61	元総社小見Ⅴ遺跡	2003
62	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003
63	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003
64	元総社小見Ⅸ遺跡	2004
	元総社小見内Ⅸ遺跡	
65	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004
66	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004
67	大渡道場遺跡	2005
-	元総社蒼海遺跡群（１）	2005
-	元総社蒼海遺跡群（２）	2005
-	元総社蒼海遺跡群（３）	2005
-	元総社蒼海遺跡群（４）	2005
-	元総社蒼海遺跡群（５）	2005
-	元総社蒼海遺跡群（６）	2005
-	元総社蒼海遺跡群（７）	2005
-	元総社蒼海遺跡群（８）	2006
-	元総社蒼海遺跡群（９）（10）	2006
-	元総社蒼海遺跡群（11）	2006
-	元総社蒼海遺跡群（12）	2006
-	元総社蒼海遺跡群（13）	2008
-	元総社蒼海遺跡群（14）	2008
-	元総社蒼海遺跡群（15）	2008
-	元総社蒼海遺跡群（16）	2008
-	元総社蒼海遺跡群（17）	2008
-	元総社蒼海遺跡群（18）	2008
-	元総社蒼海遺跡群（19）	2008
-	元総社蒼海遺跡群（20）	2008
-	元総社蒼海遺跡群（21）	2009
-	元総社蒼海遺跡群（22）	2009
-	元総社蒼海遺跡群（23）	2009
-	元総社蒼海遺跡群（24）	2009
-	元総社蒼海遺跡群（25）	2009
-	元総社蒼海遺跡群（26）	2009
-	元総社蒼海遺跡群（27）	2009
-	元総社蒼海遺跡群（28）	2009
-	元総社蒼海遺跡群（29）	2009
-	元総社蒼海遺跡群（30）	2009
-	元総社蒼海遺跡群（31）	2009
-	元総社蒼海遺跡群（32）	2010
-	元総社蒼海遺跡群（33）	2010
-	元総社蒼海遺跡群（34）	2010
-	元総社蒼海遺跡群（35）	2010
-	元総社蒼海遺跡群（36）	2010
-	元総社蒼海遺跡群（37）	2011
-	元総社蒼海遺跡群（38）	2012
-	元総社蒼海遺跡群（39）	2012
-	元総社蒼海遺跡群（40）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（41）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（42）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（43）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（44）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（45）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（46）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（47）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（48）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（49）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（50）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（51）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（52）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（53）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（54）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（55）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（56）（61）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（57）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（58）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（59）	2014

番号	遺　跡　名	調査年度
-	元総社蒼海遺跡群（60）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（62）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（63）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（64）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（65）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（66）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（67）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（68）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（72）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（73）	2013
-	元総社蒼海遺跡群（74）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（75）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（76）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（77）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（78）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（79）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（80）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（81）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（82）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（83）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（84）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（85）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（88）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（89）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（90）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（91）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（92）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（94）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（95）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（96）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（97）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（98）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（99）・上野国府等範囲内容確認調査 33・34 トレンチ	2015
-	元総社蒼海遺跡群（100）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（101）	2014
-	元総社蒼海遺跡群（102）	2015
-	元総社蒼海遺跡群（103）	2015
-	元総社蒼海遺跡群（116）	2016
-	元総社蒼海遺跡群（117）	2016
-	元総社蒼海遺跡群（118）	2016
-	元総社蒼海遺跡群（120）	2016
-	元総社蒼海遺跡群（121）	2016
-	元総社蒼海遺跡群（122）	2016
-	元総社蒼海遺跡群（123）	2016
-	元総社蒼海遺跡群（124）	2017
-	元総社蒼海遺跡群（126）	2017
-	元総社蒼海遺跡群（127）	2018
-	元総社蒼海遺跡群（128）	2018
-	元総社蒼海遺跡群（129）	2018
-	元総社蒼海遺跡群（130）	2018
-	元総社蒼海遺跡群（131）	2018
-	元総社蒼海遺跡群（135）	2019
-	元総社蒼海遺跡群（136）	2019
-	元総社蒼海遺跡群（137）	2019
-	元総社蒼海遺跡群（138）	2019
-	元総社蒼海遺跡群（139）	2019
-	元総社蒼海遺跡群（140）	2020
-	元総社蒼海遺跡群（141）	2020
-	元総社蒼海遺跡群（145）	2020
-	元総社蒼海遺跡群（17 街区）	2015
-	元総社蒼海遺跡群（75 街区）	2015
-	元総社蒼海遺跡群（75 街区）No.2	2020
-	元総社蒼海遺跡群（93 街区）	2016
-	元総社蒼海遺跡群（94 街区）	2017
-	元総社小見遺跡	2000
-	元総社小見Ⅱ遺跡	2002
-	元総社小見Ⅲ遺跡	2002
-	元総社小見Ⅳ遺跡	2003

番号	遺　跡　名	調査年度
-	元総社小見Ⅴ遺跡	2003
-	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001
-	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002
-	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003
-	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003
-	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003
-	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004
-	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004
-	元総社草作遺跡	1984
-	元総社草作Ⅴ遺跡	2002
-	元総社宅地遺跡 1 ～ 8 トレンチ	2000
-	元総社宅地遺跡 9 ～ 18・21 トレンチ	2000
-	元総社宅地遺跡 19 トレンチ	2000
-	元総社宅地遺跡 20 トレンチ	2000
-	元総社宅地遺跡 22・23 トレンチ・上野国府等範囲内容確認調査 13 トレンチ	2000・2012
-	上野国府等範囲内容確認調査 1 ～ 7 トレンチ	2011
-	上野国府等範囲内容確認調査 8 ～ 11・13・14・28 トレンチ	2012
-	上野国府等範囲内容確認調査 12 トレンチ	2012
-	上野国府等範囲内容確認調査 27 トレンチ	2016
-	上野国府等範囲内容確認調査 28 トレンチ	2016
-	上野国府等範囲内容確認調査 29 トレンチ	2016
-	上野国府等範囲内容確認調査 40 トレンチ	2017
-	上野国分尼寺（上野国分尼寺寺域確認調査）	1969・1970・1999・2000
-	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001
-	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001
-	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002
-	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003
-	総社閑泉明神北遺跡	1999
-	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001
-	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002
-	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡	2002 ～ 04
-	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004
-	閑泉樋遺跡	1983
-	閑泉樋南遺跡	1985
-	元総社北川遺跡	2002 ～ 04
-	元総社牛池川遺跡	2002 ～ 04
-	元総社中学校遺跡	2016
-	元総社北小学校遺跡	2020

Ⅲ　調査方針と経過

１　調査方針

発掘調査を依頼された箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い整備される宅地用地で、調査面積は 204㎡である。遺構番号は、調査区ごとに個別に付番することとし、133 －Ｈ－ 1 号竪穴建物跡のように、遺構の前に必ず遺跡番号を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）Ｘ＝＋ 44000・Ｙ＝－ 72200 を基点（Ｘ０・Ｙ０）とする 4 ｍピッチのものを使用し、西から東へＸ 230、231、232…、北から南へＹ 204、205、206…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

元総社蒼海遺跡群（133）のＸ 232・Ｙ 207 の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	Ｘ＝＋ 43,172.000	Ｙ＝－ 71,272.000	
緯　　度	36° 23’11″.2739	経　　度	139° 02’20″.0191

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的に As- Ｃ軽石、Hr-FP 軽石、As- Ｂ軽石が混入する土層を手がかりとした。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として 1/20、竪穴建物跡竈は 1/10 の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

２　調査経過

本調査は令和元年６月 14 日から開始し、令和元年 12 月 20 日まで行った。調査経過は以下のとおりである。

本調査区は元総社蒼海遺跡群（127）の北に位置する。蒼海（127）の調査では基壇建物跡（掘込地業）の一部が検出されたことから、今回の調査ではその全体を把握するために、蒼海（127）で検出した掘込地業の再調査も行った。

６月 14 日､表土掘削を行う。遺構確認を行ったところ攪乱が散見されたが､掘込地業（蒼海（127）の基壇建物）や、それよりも新しい遺構を確認することができた。調査は掘込地業の範囲確認を行いながら、それよりも新しい遺構の掘り下げ・記録作業を進めた。掘込地業よりも新しい遺構は比較的多かったため、多くの時間を費やしたが、８月の終わり頃には蒼海（127）の掘込地業の再調査も含めて、概ね掘込地業の範囲を把握することができたことから、９月 11 日に調査区の空撮を行った。

また、本調査区で検出された掘込地業は上野国府や地域史を考える上でも重要な遺構であることから、９月５日に第 27 回上野国府等調査委員会を開催し、検出された掘込地業の検討を行ったほか、９月７日には地元在住の方々を中心に現地説明会を開催し普及啓発にも努めた。

９月中には掘込地業の範囲確認と、それよりも新しい遺構の掘り下げ・記録が終了したことから、10 月からは掘込地業の掘り下げを行い、その下層の遺構の調査を始めた。

掘込地業の掘り下げにあたっては、元総社蒼海遺跡群のグリッドに準じて掘込地業掘り下げのためのグリッドを設定し、グリッドのラインに合わせてベルトを設定し版築の状態を把握しながら面的な掘り下げを行った。このグリッドの設定状況は Fig. ３のとおりである。なお、掘込地業の掘り下げにあたっては、グリッド一括で取り上げた遺物と、３次元の位置を記録して取り上げた遺物がある。当初は版築の意味の「HN」の仮の遺跡略称を使用していたが、遺物に注記する段階で、本来の遺構名である１号礎石建物跡の略称「B-1」へと変更した。

掘込地業の掘り下げは 11 月６日に概ね終了し、その下層の検出作業を行ったところ、当初から確認されてい

た溝跡のほか、竪穴建物跡が数軒検出された。これら遺構の掘り下げ・記録作業も 12 月上旬には終了し、最終的な調査区の全景写真の撮影を 12 月 13 日に行った。その後、最終的な仕上げの測量作業を行い、12 月 20 日に調査区を埋め戻して調査を終了した。

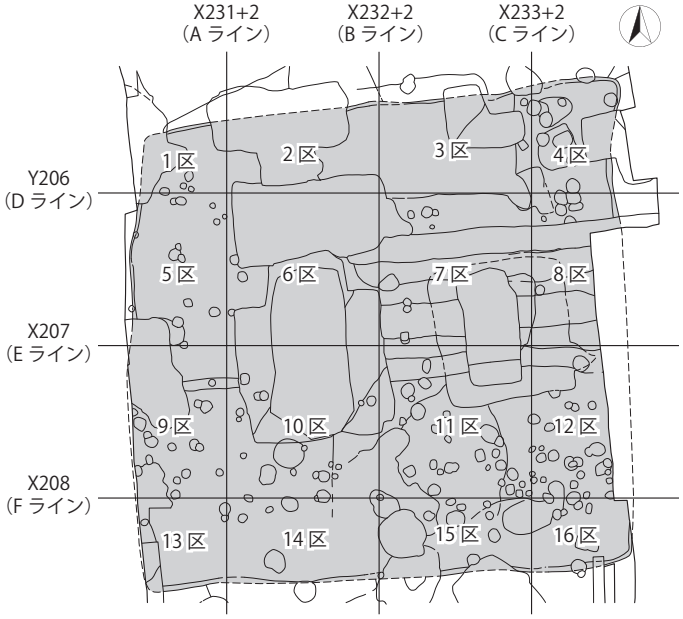
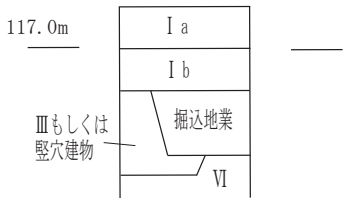


Fig.3　1 号礎石建物跡グリッド設定図

Ⅳ　基本層序

本調査区の位置する地点は現状で周囲よりも若干高くなっており、遺構の残存状況は良好といえる。逆に、遺構が密集するあまり総社・元総社地区で見られる基本層序のうちの各層の確認は難しく、特に浅間Ｃ軽石を包含する黒色土層（基本層序Ⅳ層）は、竪穴建物や掘込地業によりほぼ確認できない状態だった。表土と浅間Ｂ軽石混入土層（Ｉｂ層）の下層で、掘込地業の面とそれを掘り込んだ遺構の確認ができた。掘込地業は総社砂層（Ⅵ層）に達する程に掘り下げられて構築されていた。

以下に本調査区の基本土層を記し、本調査区のモデルとして柱状図を示す。



基本層序説明

Ⅰ層		As-B 軽石が混入する耕作土・表土層。 混入土の多寡により、a（新）・b（旧）に分けられる。 Ⅰａ層：灰黄褐色砂質土。現在の表土・耕作土。 Ⅰｂ層：灰黄褐色砂質土。旧表土・耕作土。いわゆる As-B 混土層。
Ⅱ層	As-B 軽石純層	
Ⅲ層	褐色土	As-C、Hr-FP などの軽石粒を５～ 10%程度含む。 場所により粘性が変化する。（奈良・平安時代の遺物包含層）
Ⅳ層	黒褐色土	As-C を 10 ～ 30%程度含む。場所により粘性が変化する。
Ⅴ層	総社砂層への漸位層	上部黒色土（a）から下へ行くにつれて、黄褐色土（ｂ）へ漸位する。
Ⅵ層	総社砂層	場所により色調・土質が異なり、黄褐色土でロームに近いところと、明褐色もしくは白色に近い色調を呈する粘質土のところがある。

Fig.4　土層柱状図

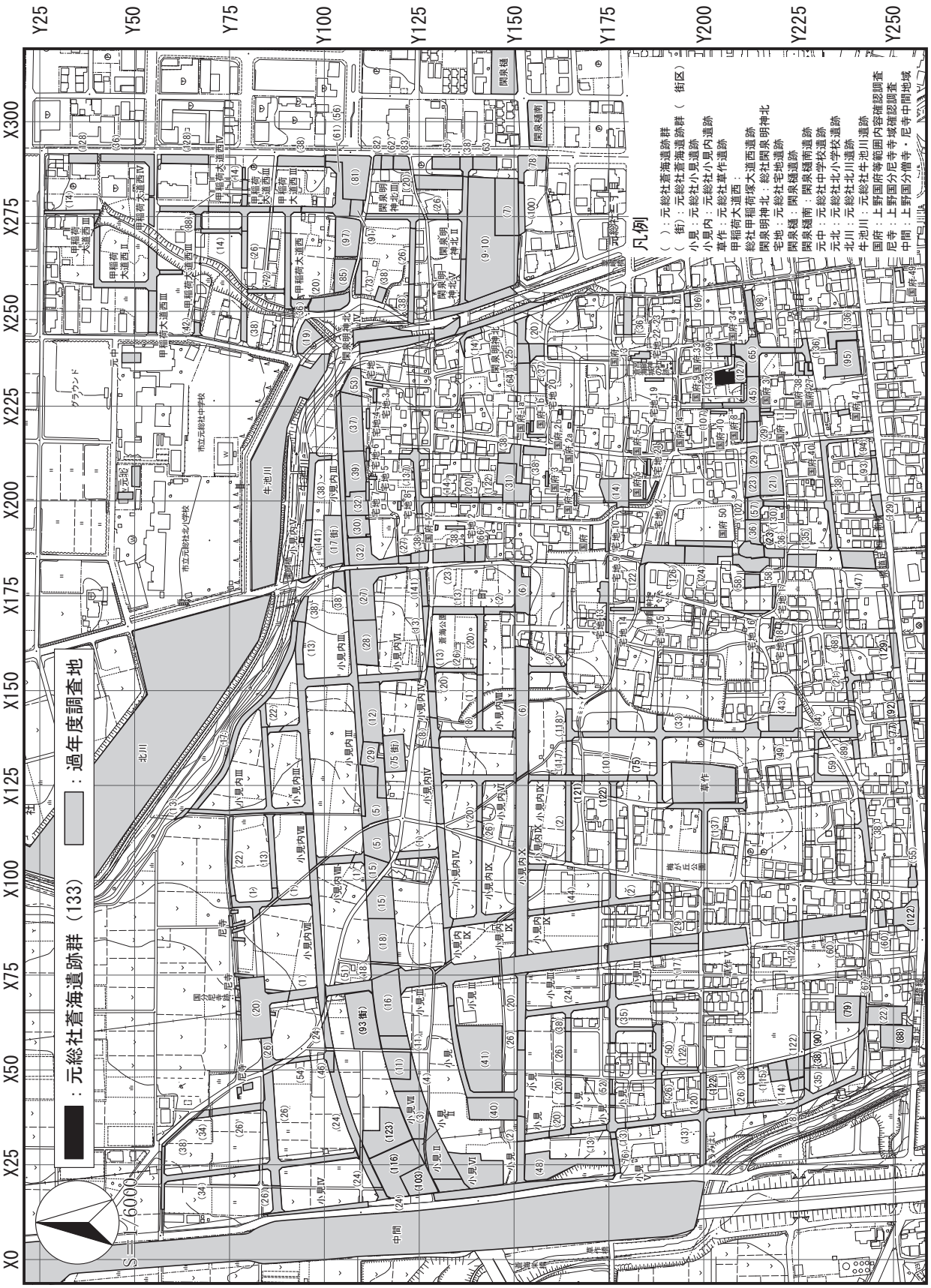


Fig.5　周辺調査地点とグリッド設定図

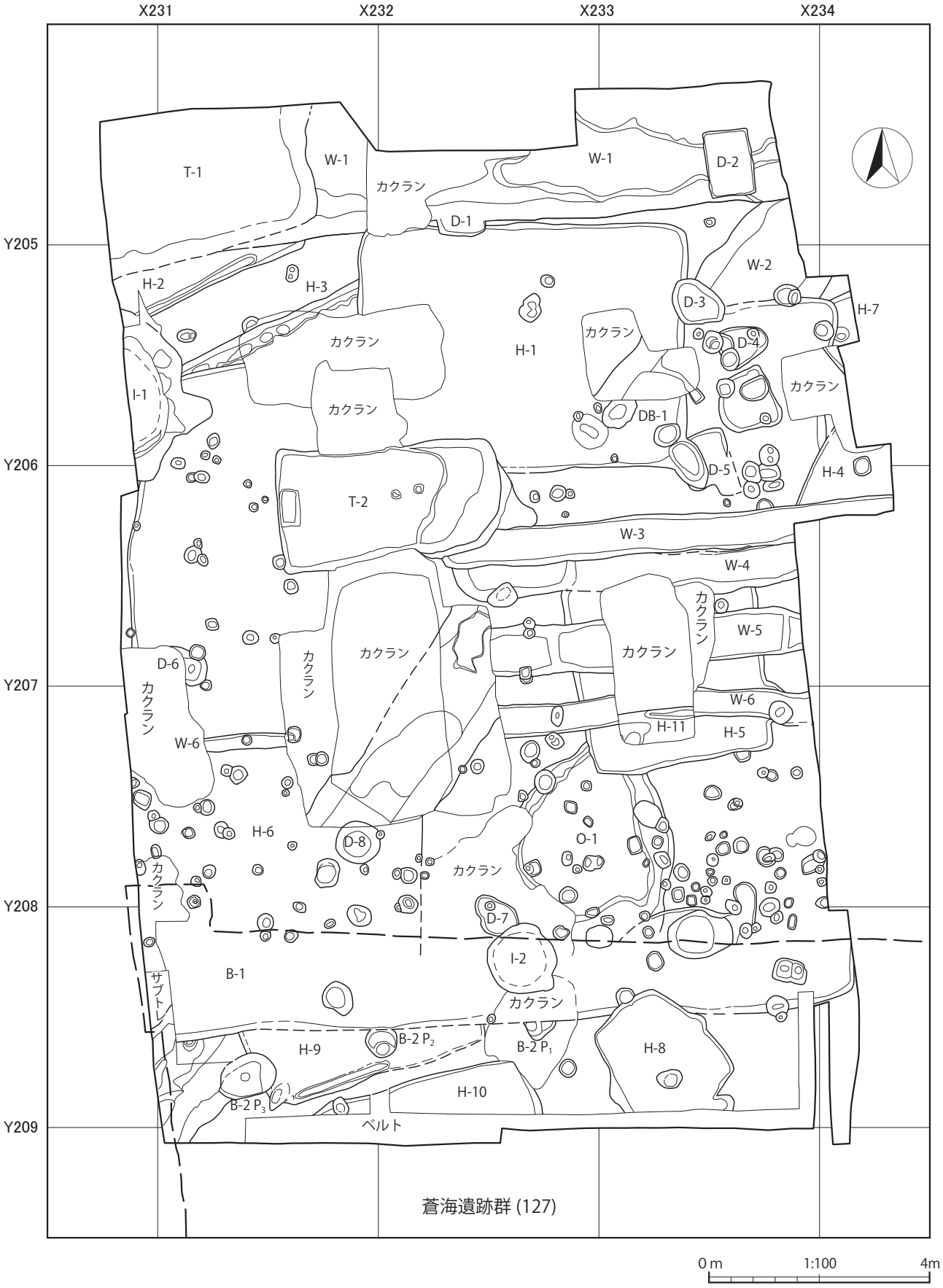


Fig.6　元総社蒼海遺跡群（133）全体図

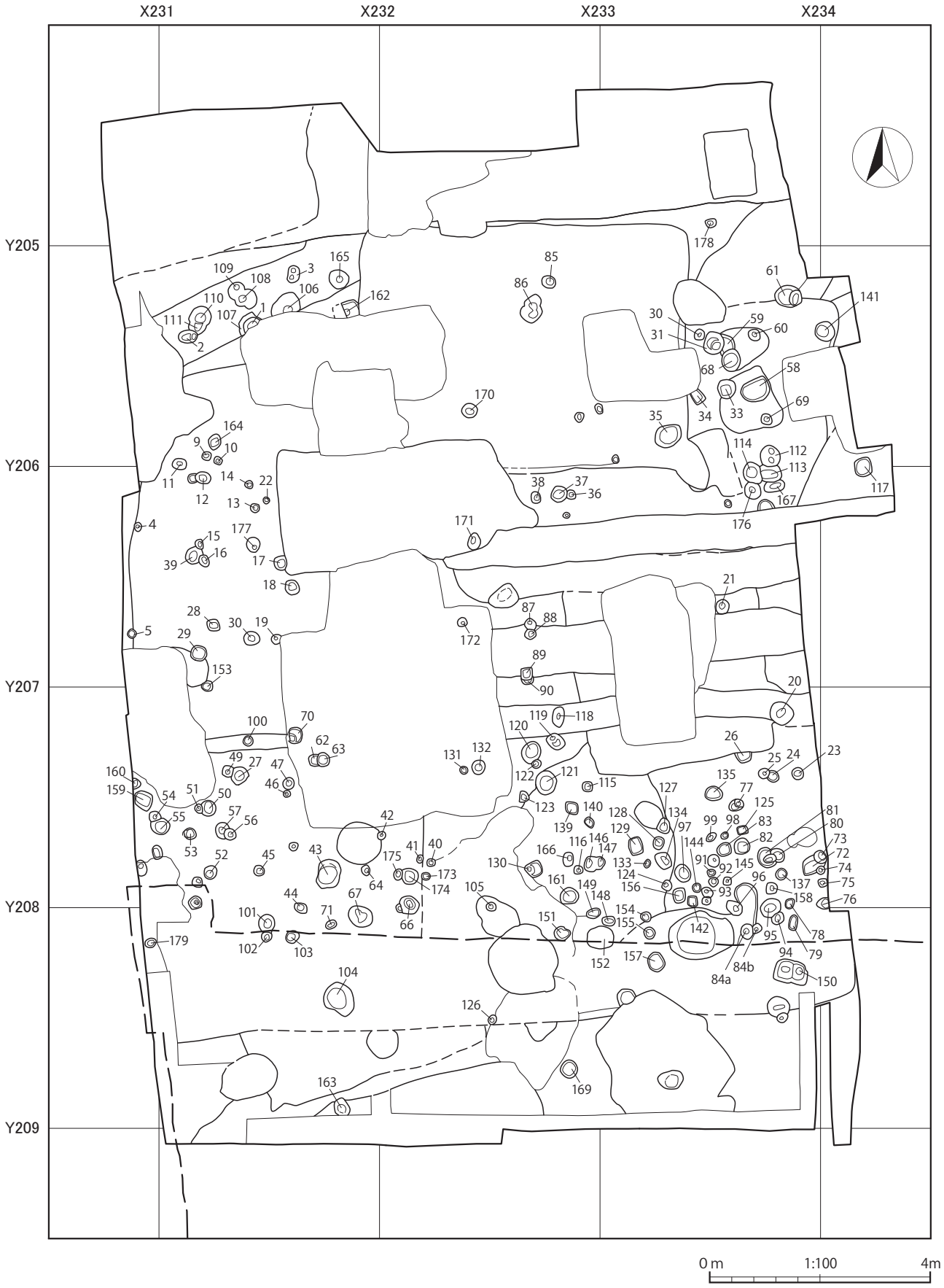


Fig.7　元総社蒼海遺跡群（133）全体図（ピット）

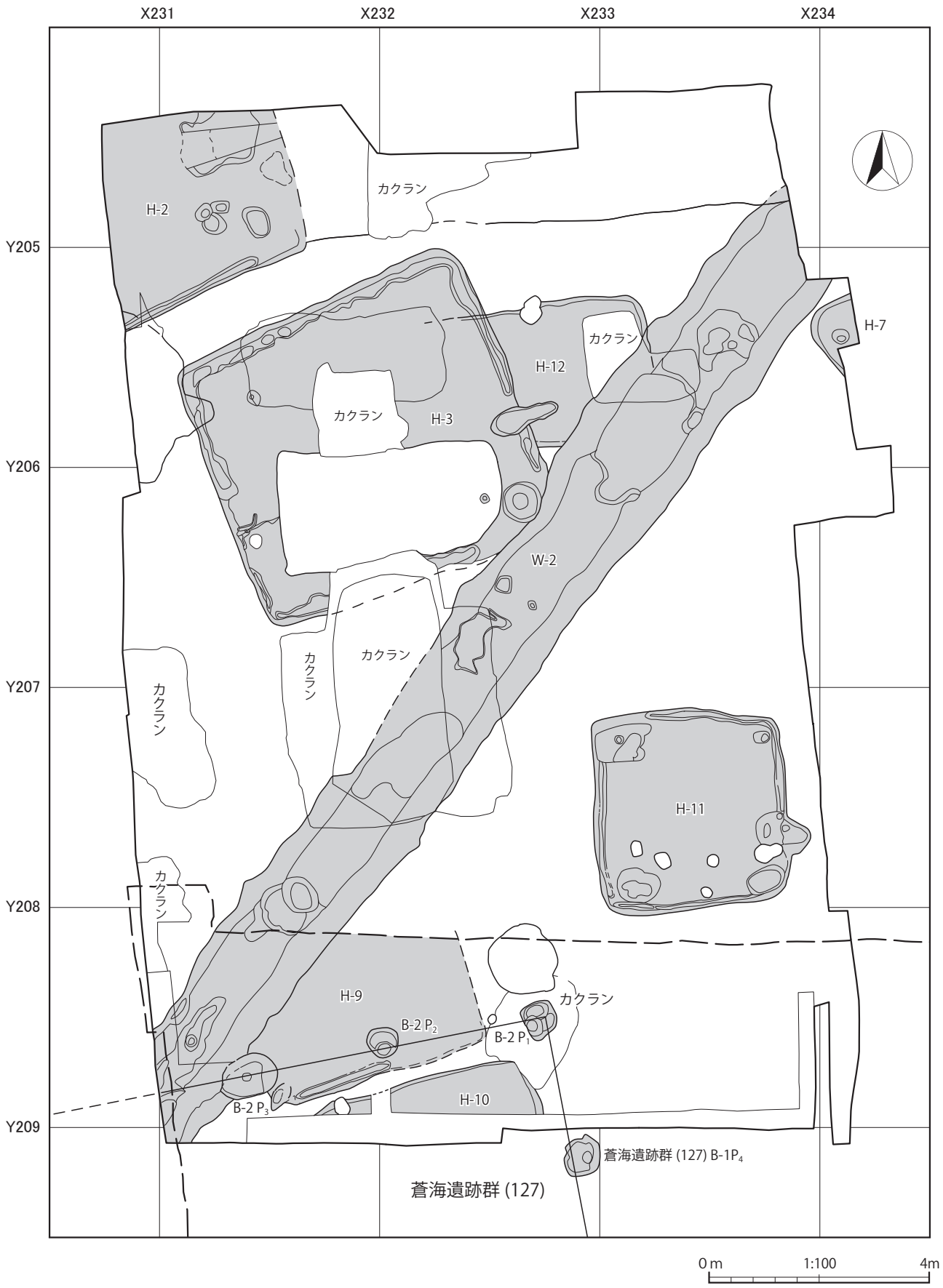
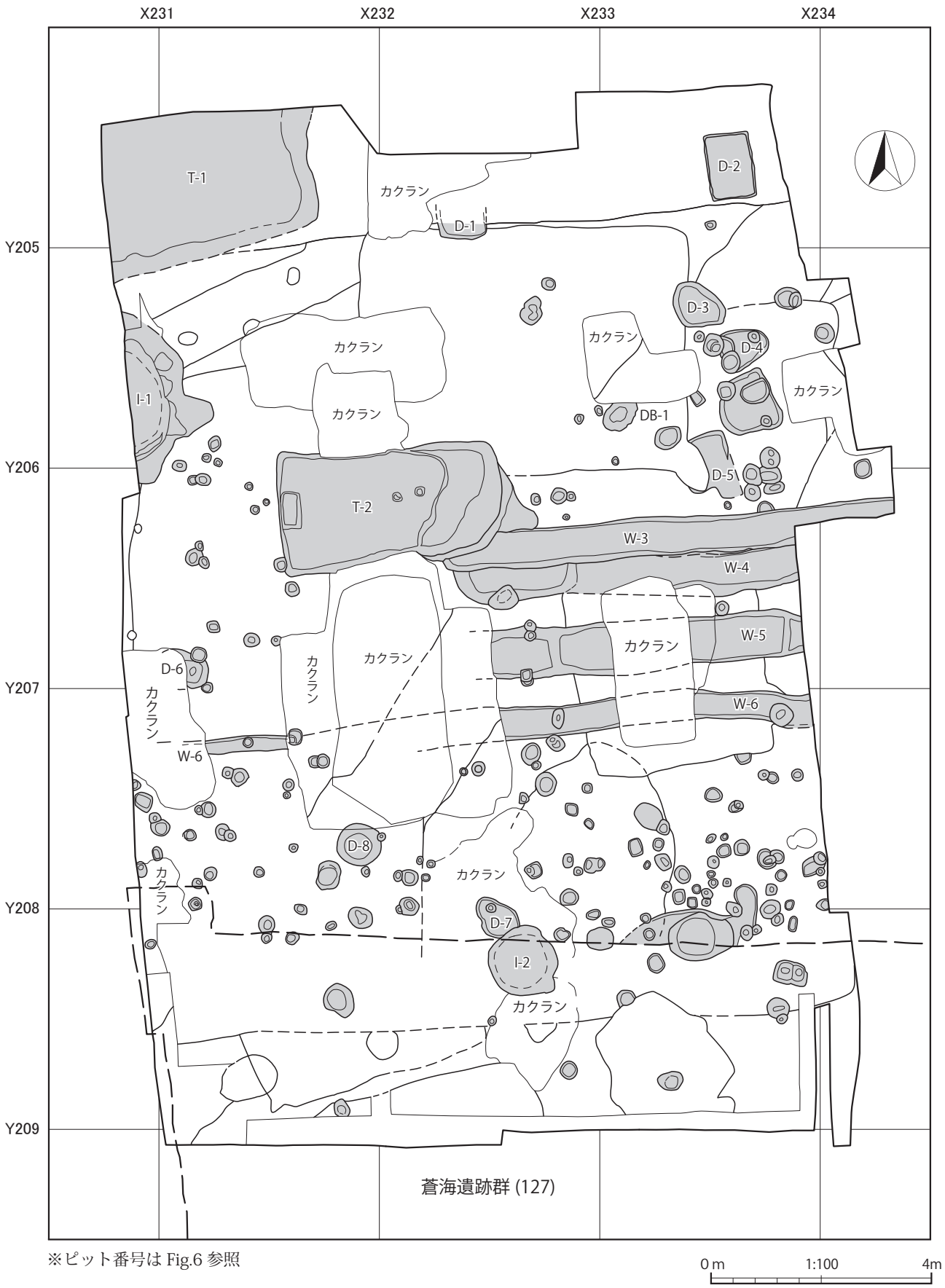


Fig.8　遺構分布図（古代・１号礎石建物下層）

Fig.9　遺構分布図（古代・１号礎石建物相当期）

※ピット番号は Fig.6 参照

Fig.10　遺構分布図（古代・１号礎石建物上層）



※ピット番号は Fig.6 参照

0 m　1:100　4m

Fig.11　遺構分布図（中世以降）

Ⅴ　遺構と遺物

（1）礎石建物跡・掘立柱建物跡

1号礎石建物跡（遺構：Fig.12・13・14　巻頭図版1、PL.1・2/ 遺物：Fig.32）

位置　X 230 ～ 234、Y 205 ～ 208 グリッド。**主軸**　N － 2°－W。**形状等**　掘込地業（総地業）を検出。平面形状は正方形に近く北西隅がやや歪む。規模は東西 12.7 m、南北 12.6 m。総地業の上部は削り取られ礎石やその据え付け痕等は確認できなかった。ただし、調査区内の竪穴建物の竈の構築材や遺構の床面から川原石が出土していることから礎石建ちであったと推定される。**掘込地業**　本遺構よりも新しい遺構に破壊されていたほか、上部は削り取られているが、残存する最大の厚さは掘り形底面から 40㎝を測る。掘り形底面は総社砂層（基本層序Ⅵ層）に達し、平坦に掘削されているが約 10㎝の幅で起伏が見られる。深く掘削した部分は砂層土ブロックを混ぜた土を入れて整地したうえで版築を行っていた。版築は層毎に明瞭でないが浅間Ｃ軽石の包含量に差が認められた。黄色土（総社砂層土か）はブロック・細粒状態ともに包含するが、互層となっていなかった。版築は全体的に固く締まる。**出土遺物**　本遺構に直接的に関連する遺物は認められなかったが、掘込地業内から土師器（坏・甕）破片、須恵器（甕）破片、石製模造品（臼玉）、埴輪（人物）破片が出土している。**重複関係**　主な遺構とは、本遺構以前では 3 号・7 号・9 号・11 号・12 号竪穴建物跡、1 号掘立柱建物跡、2 号溝跡が該当し、本遺構以後では 1 号・4 号・5 号・6 号竪穴建物跡、1 号落ち込み、1 号井戸跡、2 号竪穴状遺構が該当する。その他に版築層上面には中世のピットが多数認められる。**時期**　重複する遺構の新旧関係から 8 世紀代に建てられ、10 世紀代には廃絶していたと推定される。**その他**　蒼海遺跡群 (127) 基壇建物跡と同一の遺構。

1号掘立柱建物跡（遺構：Fig.15、PL.2、3）

位置　X 231 ～ 232、Y 208 グリッド。**主軸**　N － 20°－W。**形状等**　蒼海（127）1 号掘立柱建物跡と同一の遺構。蒼海 (127) より、東西方向に長軸をとる掘立柱建物と推定される。本調査では、先の調査においてプランでのみ確認されていた桁行北列の柱穴 2 間分を再調査した。桁行の柱間は東から 2.7 m、2.5 mを測る。**柱穴**　P_1 は長軸 64cm、短軸 58.5cm のほぼ正方形を呈している。深さ 61.5cm。P_2 は最大径 59cm の円形、深さ 53.5cm。P_3 は最大径 104cm、深さ 39cm で桁行方向に長軸をとる楕円形。**重複関係**　1 号礎石建物跡、2 号溝跡、9 号竪穴建物跡と重複。1 号礎石建物跡よりも古く、2 号溝跡、9 号竪穴建物跡よりも新しい。**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（甕・高坏）破片、が柱穴から出土。**時期**　蒼海（127）と遺構の新旧関係に関する見解が異なるため、時期の判断が非常に難しいが、重複する遺構等から、8 世紀初頭頃を想定したい。

（2）竪穴建物跡

1号竪穴建物跡（遺構：Fig.16、PL.3、4/ 遺物：Fig.32）

位置　X 231 ～ 233、Y 204 ～ 206 グリッド。**主軸方向**　N － 90°－ E。**形状等**　長方形を呈している。東西 5.9 m、南北 4.4 m、壁高 32cm。**床面**　1 号礎石建物跡の掘込地業内に構築されたため、床は堅く締まる。また、中央付近で灰の分布が認められた。**竈**　南東隅で検出。主軸方向はN － 145°－ E。全長 92㎝、最大幅 52㎝、焚き口幅 60㎝を測る。**ピット等**　1 基検出した。最大径 69.5cm の円形で、深さ 28.5cm を測る。**重複関係**　1 号礎石建物跡、12 号竪穴建物跡、1 号壙墓と重複する。1 号壙墓よりも古い。それ以外の遺構よりも新しい。**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（坏・甕）破片、土師質土器（坏）破片、土釜破片、白磁（埦）破片、石製品（砥石）、金属製品（銅製鉈尾）、鉄滓、椀型滓が出土。**時期**　11 世紀代と考えられる。

2号竪穴建物跡（遺構：Fig.16、PL.4/ 遺物：Fig.32）

位置　X 230･231、Y 204･205 グリッド。**主軸方向**　N－66°－E。**形状等**　方形を呈すると思われる。北辺、西辺は調査区外。東西（3.65）m、南北（3.75）m。壁高 29cm。**床面**　貼床と思われる。1 号竪穴状遺構によって失われているため掘り方のみを検出。**竈**　1 号竪穴状遺構に破壊されていたが、東壁部付近に粘土の分布が確認できたため、竈の痕跡と判断した。**周溝**　検出できた南壁で検出。周溝の規模は最大上幅 22cm、最大下幅 10cm。**ピット等**　4 基検出。そのうち P_1、P_2、P_3 は柱穴、P_4 は貯蔵穴と考えられる。規模等は Tab. 2 のとおり。**重複関係**　1 号溝跡、1 号竪穴状遺構と重複。本遺構が最も古い。**出土遺物**　土師器（坏・高坏・甕）破片、須恵器（坏・甕）破片が出土。**時期**　出土遺物が少ないため時期特定が難しいが、6 世紀代と考えられる。

３号竪穴建物跡（遺構：Fig.17、PL.4/ 遺物：Fig.32）

位置　X 231･232、Y 205･206 グリッド。**主軸方向**　N－70°－E。**形状等**　方形。東西 5.8 m、南北 5.6 m、壁高 57cm。**床面**　貼床。西壁中央付近で床面に段差があり、南側が低くなっている。周溝もその段差に沿うように確認され、段差部分には小ピットを 2 基検出した。**竈**　東壁中央に構築。主軸方向はN－71°－E。全長 130cm、最大幅 32cm、焚き口 49cm。**貯蔵穴・柱穴**　P_1 は長軸 42.5cm の円形で深さ 38cm。P_2 は長軸 29cm の円形で深さ 45.5cm。P_3 は長軸 17cm の円形で深さ 35cm。P_4 は貯蔵穴と推定され、長軸 68cm で方形に近く、深さ 70.5cm。**周溝**　南壁中央、南東隅が攪乱や別遺構によって失われているが、全周すると思われる。周溝の規模は最大上幅 37cm、最大下幅 18cm。北壁では一部ピット状に深く掘り込んでいる箇所が確認された。**重複関係**　1 号礎石建物跡、1 号竪穴建物跡、2 号溝跡、1 号井戸跡と重複。本遺構が最も古い。**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（坏・甕）破片、石製品（臼玉）が出土。**時期**　出土遺物より 7 世紀前半と考えられる。

４号竪穴建物跡（遺構：Fig.17、PL.4/ 遺物：Fig.33）

位置　X 234、Y 205・206 グリッド。**主軸方向**　N－22°－E。**形状等**　西壁及び床面のみを検出したため形状は不明。東西（1.75）m、南北（0.85）m。**床面**　地山床。**重複関係**　1 号礎石建物跡、3 号溝跡と重複。重複関係は 1 号礎石建物跡より新しく、3 号溝跡より古い。**出土遺物**　土師器（手の字状口縁皿）、須恵器（坏・甕）破片、土師質土器（坏）破片が出土。**時期**　11 世紀代と推定される。

５号竪穴建物跡（遺構：Fig.18、PL.4/ 遺物：Fig.33）

位置　X 232･233、Y 206･207 グリッド。**主軸方向**　N－84°－E。**形状等**　正方形。東西 3.5 m、南北 3.6 m、壁高 40cm。**床面**　地山床。**竈**　東壁中央やや南に構築。主軸方向はN－80°－E。全長 54cm、最大幅 50cm、焚き口 60cm。**重複関係**　1 号礎石建物跡、4 号溝跡、5 号溝跡、6 号溝跡と重複。重複関係は 1 号礎石建物跡よりも新しく、4・5・6 号溝跡よりも古い。**出土遺物**　須恵器（甕・高盤）破片、土師質土器（坏・埦）破片、羽釜破片、石製品（碁石）が出土。**時期**　覆土や出土遺物より 10 世紀代後半と考えられる。

６号竪穴建物跡（遺構：Fig.18、PL.5/ 遺物：Fig.33）

位置　X 230 ～ 232、Y 207・208 グリッド。**主軸方向**　N－87°－E。**形状等**　長方形と推定される。北壁と東壁の一部、床面を検出。東西（5.2）m、南北（3.07）m。壁高 17cm。**床面**　地山床。中央付近に灰の広く分布する箇所が確認された。**ピット**　本遺構に伴う可能性のあるピットを 1 基検出。規模等は Tab. 2 に記載。**重複関係**　1 号礎石建物跡、2 号溝跡と重複。本遺構が最も新しい。**出土遺物**　土師器（手の字状口縁皿）破片、須恵器（甕）破片、土師質土器（坏）、羽釜破片、貝巣穴痕軟質泥岩、鉄滓が出土。**時期**　覆土や出土遺物より、11 世紀代と考えられる。

７号竪穴建物跡（遺構：Fig.19、PL.5）

位置　X 233･234、Y 205 グリッド。**主軸方向**　N－63°－E。**形状等**　方形と推定される。北西隅のみを検出。東西（0.7）m、南北（0.95）m。壁高 10cm。**床面**　貼床。**柱穴**　1 基検出。長軸 33cm、深さ 20cm の円形。**重複関係**　1 号礎石建物跡と重複。本遺構の方が古い。**出土遺物**　土師器（坏･甕）破片、須恵器（甕）破片が出土。**時期**　出土遺物や重複関係より 6 世紀代後半と推定される。

８号竪穴建物跡（遺構：Fig.19）

位置　X 233 Y 208 グリッド。**主軸方向**　N－50°－W。**形状等**　蒼海 (127) X－2 と同一の遺構。今回の調査では竪穴建物として扱った。歪んだ長方形を呈している。東西 1.35 m、南北 2.25 m、壁高 16cm。**床面**　掘り方のみ検出。**竈**　検出されなかった。**貯蔵穴・柱穴**　検出されなかった。**周溝**　検出されなかった。**重複関係**　1 号礎石建物跡と重複。本遺構の方が新しい。**時期**　10 ～ 11 世紀代と推定される。

９号竪穴建物跡（遺構：Fig19、PL.5）

位置　X 231･232、Y 208 グリッド。**主軸方向**　N－70°－E。**形状等**　蒼海(127)4 号竪穴建物跡と同一の遺構。正方形を呈するものと思われるが、大半が 1 号礎石建物跡によって失われている。東西（3.65）m、南北（1.65）m、壁高 12.5cm。**床面**　貼床。**竈**　南西隅で検出。主軸方向はN－148°－W。全長 69cm、最大幅 27cm、焚き口 35cm。**周溝**　南壁でのみ検出。周溝の規模は上幅 16cm、下幅 11cm。**重複関係**　1 号礎石建物跡、1 号掘立柱建物跡、2 号溝跡と重複。本遺構が最も古い。**出土遺物**　土師器（坏）破片、須恵器（坏・甕）破片が出土。**時期**　出土遺物が少なく時期特定が難しいが、6 世紀代と考えられる。

10 号竪穴建物跡（遺構：Fig.19、PL.5/ 遺物：Fig.34）

位置　X 231・232、Y 208 グリッド。**主軸方向**　N－75°－E。**形状等**　蒼海（127）1 号竪穴建物跡と同一の遺構。正方形を呈する。西壁・南壁は今回調査区外。東西（3.96）m、南北（0.95）m、壁高 15.5cm。**床面**　貼床。**竈**　調査区外。蒼海 (127) で調査・確認済み。**貯蔵穴・柱穴**　検出されず。**周溝**　検出されず。**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（甕）破片が出土。**時期**　7 世紀中葉。（蒼海（127）報告書より）

11 号竪穴建物跡（遺構：Fig.20、PL.6/ 遺物：Fig.34）

位置　X 233、Y 207 グリッド。**主軸方向**　N－82°－E。**形状等**　正方形を呈している。東西 3.6 m、南北 3.6 m、壁高 19.5cm。**床面**　貼床。**竈**　東壁中央よりやや南で確認。主軸方向はN－99°－E。全長 1.1 m、最大幅 65cm、焚き口 55cm を測る。**貯蔵穴・柱穴**　ピットを 4 基確認。P_1 は長軸 37cm、深さ 13.5cm。P_2 は長軸 103cm、短軸 62cm の不定形で、深さ 12.5cm。P_3 は長軸 77cm、深さ 12.5cm。P_4 は最大径 70cm、深さ 13cm。**周溝**　北西隅のみ明瞭ではなかったが、ほぼ全周する。周溝の規模は、最大上幅 18cm、最大下幅 7cm。**重複関係**　1 号礎石建物跡、5 号竪穴建物跡、1 号落ち込みと重複。本遺構が最も古い。**出土遺物**　土師器（坏･甕）破片、須恵器（坏･甕）破片、石製品（臼玉）が出土。**時期**　重複関係や出土遺物より、7 世紀後半と考えられる。

12 号竪穴建物跡（遺構：Fig.20、PL.6/ 遺物：Fig.34）

位置　X 232・233、Y 205 グリッド。**主軸方向**　N－82°－E。**形状等**　大部分が重複する遺構によって失われているが、南北の壁と北東の角が確認できたため、長方形を呈するものと思われる。東西 3.4 m、南北 2.5 m。壁高 10.5cm。**床面**　貼床。**竈**　検出されなかった。**重複関係**　1 号礎石建物跡、1 号竪穴建物跡、3 号竪穴建物跡、2 号溝跡と重複。3 号竪穴建物跡、2 号溝跡よりも新しく、1 号礎石建物跡、1 号竪穴建物跡よりも古い。**出土**

遺物　土師器（坏・甕）破片が出土。**時期**　重複関係や出土遺物より７世紀後半と考えられる。

（３）溝跡

１号溝跡（遺構：Fig.21、巻頭図版２、PL.6/ 遺物：Fig.34）

位置　X 230 ～ 234、Y 204 グリッド。**主軸方向**　N － 94°－ E。**形状等**　トレンチ内で検出された長さ 12.3 m、最大上幅 1.45 m。最大下幅 1.1 m。最大深さ 21.5㎝。断面は浅いU字型。**重複関係**　１号竪穴状遺構、２号竪穴建物跡と重複。２号竪穴建物跡よりも新しく、１号竪穴状遺構よりも古い。**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（坏・甕・高坏・鉢・円面硯？）破片、黒色土器破片が出土。**時期**　８世紀代と考えられる。

２号溝跡（遺構：Fig.22、巻頭図版 2、PL.6/ 遺物：Fig.34、Fig.35）

位置　X 230 ～ 234、Y 204 ～ 209 グリッド。**主軸方向**　N － 35°－ E。**形状等**　トレンチ内で検出された長さは 19.2 m、最大上幅 2.2 m。最大下幅 1.2 m。最大深さ 71.5㎝。断面は逆台形で、底面は平坦。覆土中に２面の硬化面を確認。終結部は調査区内では確認できず、推定上野国府 11 トレンチ 1 号溝跡、推定上野国府 37 トレンチ 1 号溝跡、蒼海（127）5 号溝跡と同一の遺構であり、南西・北東両方向へさらに続くと見られる。**重複関係**　1 号礎石建物跡、1 号・3 号・5 号・6 号・9 号・12 号竪穴建物跡と重複。3 号・9 号・12 号竪穴建物跡よりも新しく、1 号礎石建物跡、1 号・5 号・6 号竪穴建物跡よりも古い。**出土遺物**　土師器（坏・甕）、須恵器（坏・甕・高坏・鉢）破片が出土。**時期**　重複関係や出土遺物より７世紀後半と考えられる。

３号溝跡（遺構：Fig.23、PL.6/ 遺物：Fig.34）

位置　X 232 ～ 234、Y 206 グリッド。**主軸方向**　N － 85°－ E。**形状等**　トレンチ内で検出された長さ 8.3 m、最大上幅 65cm。最大下幅 55cm。最大深さ 27㎝。本遺構が 4 号溝跡を壊しており、主軸方向が同じであることから、本遺構は 4 号溝跡を作り替えたものである可能性が考えられる。断面形状は逆台形で、底面は平坦。終結部は攪乱によって失われており不明。**重複関係**　1 号礎石建物跡、4 号竪穴建物跡、4 号溝跡と重複。本遺構が一番新しい。**出土遺物**　土師器（坏）破片、須恵器（甕・坏）破片、土師質土器（坏・埦）破片、黒色土器破片、陶器小破片が出土。**時期**　中世以降。

４号溝跡（遺構：Fig.23、PL.6）

位置　X 232 ～ 234、Y 206 グリッド。**主軸方向**　N － 85°－ E。**形状等**　トレンチ内で検出された長さ 6.1 m、最大上幅 68cm、最大下幅 54cm。最大深さ㎝。断面形状はで浅いU字型で、底面は平坦。終結部は攪乱によって失われており不明。**重複関係**　1 号礎石建物跡、5 号竪穴建物跡、3 号溝跡と重複。1 号礎石建物跡、5 号よりも新しく、３号溝跡より古い。**出土遺物**　須恵器（甕）破片、土師質土器（坏）破片、平瓦破片が出土。**時期**　中世以降。

５号溝跡（遺構：Fig.23、PL.6/ 遺物：Fig.35）

位置　X 232 ～ 234、Y 206 グリッド。**主軸方向**　N － 85°－ E。**形状等**　トレンチ内で検出された長さ 5.6 m、最大上幅 98cm、最大下幅 65cm。最大深さ 26.5㎝。断面形状は逆台形で、底面は平坦。終結部は攪乱によって失われており不明。**重複関係**　1 号礎石建物跡、5 号竪穴建物跡と重複。本遺構の方が新しい。**出土遺物**　須恵器（坏・甕・円面硯）破片、土師質土器（坏・埦）破片、陶器小破片が出土。**時期**　中世以降。

６号溝跡（遺構：Fig.23、PL.6/ 遺物：Fig.35）

位置　X 231 ～ 234、Y 207 グリッド。**主軸方向**　N － 85°－ E。形状等　トレンチ内で検出された長さ 11 m、最大上幅 49㎝。最大下幅 36㎝。最大深さ 13㎝。断面形状は浅いU字型。終結部は不明だが、調査区外まで続いているものと思われる。**重複関係**　5 号竪穴建物跡、6 号竪穴建物跡と重複。本遺構が最も新しい。**出土遺物**　須恵器（坏・甕）破片、土師質土器（坏・埦）破片、陶器小破片が出土。**時期**　中世以降。

（4）竪穴状遺構

1 号竪穴状遺構（遺構：Fig.23、PL.7）

位置　X 230・231、Y 204・205 グリッド。**主軸**　N － 72°― E。**形状等**　長方形を呈すると推定される。北辺及び西辺は調査区外。東西（3.9）m、南北（2.0）m、壁高 17.5cm を測る。**重複関係**　2 号竪穴建物跡、1 号溝跡と重複。本遺構が最も新しい。**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（坏・甕）破片、土師質土器（坏）破片、平瓦片、陶器破片が出土。**時期**　中世以降。

2 号竪穴状遺構（遺構：Fig.24、PL.7）

位置　X 231･232、Y 205･206 グリッド。**主軸**　N － 86°－ E。**形状等**　ほぼ長方形を呈する。東西 4.12 m、南北 2.26 m、壁高 90.5cm。南北壁の中央部は攪乱によって壊されている。**ピット等**　柱穴とみられるピットが 3 基検出された。規模等は Tab. 2 のとおり。**重複関係**　1 号竪穴建物跡、1 号建物跡と重複。本遺構が最も新しい。**出土遺物**　須恵器（坏・甕）破片、土師質土器（坏）破片、陶器破片が出土。床面に扁平な礫を多数検出した。**時期**　近世以降。

（5）井戸、土坑、土壙墓、ピット、落ち込み

井戸が 2 基、土坑が 8 基、土壙墓が 1 基、ピットが 179 基、落ち込みが 1 ヶ所検出された（遺構：Fig.24 ～ 31、PL.7/ 遺物：Fig.35、Fig.36）。各遺構の規模等については遺構計測表（Tab.2）に記載した。

Tab.2　遺構計測表

1 号掘立柱建物跡

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
P_1	-	64.0	58.5	61.5	方形	土師器（甕）破片、須恵器（高坏）破片。	
P_2	-	59.0	55.0	53.5	円形	土師器（坏・甕）破片、須恵器（甕）破片。	
P_3	-	102.0	74.5	39.0	楕円形	なし。	

1 号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
P_1	南東	69.5	55.5	28.5	円形	須恵器（坏・甕）破片。	

2 号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
P_1	南東	48.0	37.0	33.0	円形	なし。	
P_2	南東	38.0	24.0	43.5	円形	なし。	
P_3	南東	27.5	21.0	52.5	方形	なし。	
P_4	南東	63.0	43.0	31.0	楕円形	なし。	

3 号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
P_1	北東	42.5	38.0	38.0	円形	なし。	
P_2	北西	29.0	24.0	45.5	円形	なし。	
P_3	南東	17.0	16.5	35.0	円形	なし。	
P_4	南東	68.0	59.0	70.5	方形	なし。	

6 号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
P_1	北	36.0	29.0	45.5	楕円形	須恵器（坏・甕）破片。	

7 号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
P_1	北西	33.0	29.0	45.5	楕円形	なし。	

11 号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
P_1	北東	37.0	21.0	13.0	楕円形	酸化焔焼成須恵器（坏）破片。	
P_2	北西	103.0	62.0	12.5	不定形	なし。	
P_3	南西	77.0	62.0	12.5	楕円形	なし。	
P_4	南東	70.0	42.0	13.0	楕円形	なし。	

2 号竪穴状遺構

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
P_1	西	67.5	47.0	27.5	方形	なし。	
P_2	中央	17.5	15.5	19.0	円形	なし。	
P_3	東	17.5	15.5	18.5	円形	なし。	

2 号溝跡

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
P_1	X231,Y208	22.5	21.0	17.0	円形	なし。	

土坑

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
D-1	X232,Y204	89.5	47.5	13.0	長方形	土師質土器（坏）破片。	
D-2	X233,Y204	117.5	83.5	9.0	長方形	須恵器（坏･甕）破片、土師質土器（坏）破片。	
D-3	X233,Y205	105.0	102.0	18.5	方形	土師器（坏･甕）破片、須恵器（坏･甕）破片、土師質土器（坏）破片。	
D-4	X233,Y205	63.0	62.0	10.5	楕円形	土師質土器（坏）破片。	
D-5	X233,Y205,206	124.0	48.0	18.5	不定形	土師質土器（坏・瓶）破片。	
D-6	X231,206	64.5	48.0	29.5	楕円形	土師質土器（坏・高坏）破片。	
D-7	X232,208	70.0	65.0	4.0	楕円形	土師質土器器（坏・椀）破片。	
D-8	X232,208	78.5	75.0	19.0	円形	土師質土器（坏）破片。	

ピット

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
P-1	X231,Y205	37.0	10.0	17.0	円形	須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片。	覆土に As-B 多量。
P-2	X231,Y205	35.0	14.0	16.0	円形	酸化焔焼成須恵器（坏）破片。	覆土に As-B 多量。
P-3	X232,Y206	30.0	20.0	22.5	円形	なし。	覆土に As-B 多量。
P-4	X230,Y206	18.0	13.0	8.0	円形	なし。	覆土に As-B 多量。
P-5	X230,Y206	19.0	16.0	13.0	円形	なし。	覆土に As-B 多量。
P-6	-	-	-	-	-	-	欠番
P-7	-	-	-	-	-	-	欠番
P-8	-	-	-	-	-	-	欠番
P-9	X231,Y205	18.0	15.0	10.0	円形	土師質土器小片。	
P-10	X231,205	17.0	15.0	14.0	円形	なし。	
P-11	X231,Y205,206	26.0	21.0	21.0	円形	なし。	

P-12	X231,Y206	30.0	20.0	20.5	円形	土師質土器小片。	
P-13	X231,Y206	17.0	14.0	9.5	円形	なし。	
P-14	X231,Y206	17.0	17.0	16.0	円形	なし。	
P-15	X231,Y206	18.0	13.0	14.5	円形	なし。	
P-16	X231,Y206	23.0	18.0	24.5	円形	土師器小片。	
P-17	X231,Y206	27.0	20.0	33.5	円形	なし。	覆土に As-B 多量。
P-18	X231,Y206	30.0	20.0	21.0	円形	須恵器（甕）破片、土師質土器（坏）破片。	
P-19	X231,Y206	20.0	20.0	26.0	円形	土師器小片。	
P-20	X233,Y207	42.0	38.0	29.5	円形	土師器小片。	覆土に As-B 多量。
P-21	X233,Y206	25.0	25.0	28.5	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。
P-22	X231,Y206	12.0	12.0	15.5	円形	なし。	
P-23	X233,Y207	22.0	20.0	16.5	円形	土師質土器小片。	
P-24	X233,Y207	20.0	20.0	13.5	円形	土師質土器小片、碁石。	
P-25	X233,Y207	20.0	20.0	24.0	円形	土師質土器小片	
P-26	X233,Y207	30.0	17.0	26.5	円形	なし。	
P-27	X231,Y207	30.0	30.0	43.5	円形	土師器小片。	覆土に As-B 多量。
P-28	X231,Y206	22.0	20.0	27.0	円形	羽釜破片。	覆土に As-B 多量。
P-29	X231,Y206	30.0	25.0	14.5	円形	須恵器（甕）破片、土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。
P-30	X231,Y206	30.0	25.0	37.5	円形	土師質土器（坏）破片。	覆土に As-B 多量。
P-31	X233,Y205	20.0	18.0	27.0	円形	なし。	覆土に As-B 多量。
P-32	X233,Y205	40.0	35.0	36.5	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。
P-33	X233,Y205	32.0	30.0	41.0	円形	土師質土器 (坏）破片。	覆土に As-B 多量。
P-34	X233,Y205	25.0	20.0	13.5	方形	なし。	覆土に As-B 多量。
P-35	X233,Y205	52.0	39.0	27.0	円形	土師器小片、土師質土器小片。	
P-36	X232,Y206	17.0	15.0	19.0	円形	なし。	
P-37	X232,Y206	30.0	28.0	27.0	円形	土師質土器（坏）破片。	
P-38	X232,Y206	20.0	18.0	14.5	円形	なし。	
P-39	X232,Y207	33.0	33.0	29.0	円形	なし。	
P-40	X232,Y207	15.0	15.0	33.0	円形	土師質土器小片。	
P-41	X232,Y207	15.0	10.0	42.5	円形	土師質土器小片。	
P-42	X231,232,Y207	15.0	15.0	25.5	円形	須恵器小片。	
P-43	X231,Y207	50.0	37.0	47.5	円形	土師器（坏）破片、須恵器（甕）破片、土師質土器小片。	
P-44	X231,Y207,208	27.0	20.0	18.5	円形	なし。	覆土に As-B 多量。
P-45	X231,Y207	17.0	15.0	34.5	円形	なし。	
P-46	X231,Y207	12.0	12.0	30.0	円形	土師質土器小片。	
P-47	X231,Y207	20.0	18.0	23.5	円形	土師質土器小片。	
P-48	X231,Y207	20.0	20.0	21.5	円形	土師質土器（坏）破片。	
P-49	X231,Y207	22.0	20.0	25.5	円形	土師質土器小片。	
P-50	X231,Y207	29.0	28.0	32.0	円形	なし。	
P-51	X231,Y207	18.0	13.0	24.0	円形	土師器小片、土師質土器小片。	
P-52	X231,Y207	25.0	23.0	20.0	円形	土師質土器小片。	
P-53	X231,Y207	25.0	20.0	34.5	円形	土師質土器小片。	
P-54	X230,231,Y207	20.0	17.0	28.5	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。
P-55	X230,231,Y207	35.0	30.0	27.5	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。
P-56	X231,Y207	22.0	10.0	34.5	円形	なし。	覆土に As-B 多量。
P-57	X231,Y207	29.0	24.0	27.0	円形	須恵器小片、土師質土器小片。	
P-58	X233,Y205	52.0	40.0	29.0	楕円形	土師質土器小片。	
P-59	X233,Y205	-	35.0	8.5	不定形	緑釉陶器（埦）破片。	
P-60	X233,Y205	25.0	18.0	29.0	円形	土師器小片。	
P-61	X233,Y205	52.0	38.0	39.5	円形	須恵器破片、土師質土器小片、羽釜破片。	
P-62	X231,Y207	20.0	18.0	19.0	円形	須恵器小片、土師質土器小片。	
P-63	X231,Y207	25.0	25.0	23.5	円形	なし。	
P-64	X231,Y207	20.0	15.0	15.5	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。
P-65	X232,Y207,208	15.0	10.0	33.0	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。
P-66	X232,Y207,208	35.0	30.0	23.0	円形	土師質土器小片。	
P-67	X231,Y208	44.0	37.0	29.0	円形	土師器小片、土師質土器小片。	
P-68	X233,Y205	40.0	32.0	40.0	円形	土師質土器小片。	
P-69	X233,Y205	22.0	18.0	32.0	円形	土師質土器小片。	
P-70	X231,Y207	29.0	23.0	25.0	方形	なし。	
P-71	X231,Y208	21.0	14.0	29.0	楕円形	土師質土器小片。	
P-72	X233,Y207	42.0	38.0	16.5	楕円形	なし。	
P-73	X233,234,Y207	23.0	21.0	50.5	円形	土師質土器小片。	
P-74	X233,234,Y207	14.0	13.0	27.5	円形	なし。	
P-75	X233,234,Y207	17.0	15.0	40.5	円形	土師質土器小片。	
P-76	X233,234, Y207,208	20.0	17.0	30.0	円形	土師質土器小片、鉄滓。	
P-77	X233,Y207	29.0	21.0	27.5	円形	土師質土器（埦）破片。	
P-78	X233,Y207	19.0	16.0	25.5	方形	なし。	
P-79	X233,Y208	28.0	15.0	13.0	楕円形	なし。	

P-80	X233,Y207	27.0	18.0	16.5	円形	なし。	
P-81	X233,Y207	37.0	26.0	60.0	円形	須恵器（坏）破片、土師質土器小片。	
P-82	X233,Y207	29.0	27.0	26.0	円形	なし。	
P-83	X233,Y207	25.0	23.0	13.5	方形	土師質土器小片。	
P-84a	X233,Y208	27.0	22.0	23.5	円形	土師質土器小片。	
P-84b	X233,Y208	181.0	14.0	20.0	円形	土師質土器小片。	
P-85	X232,Y205	27.0	23.0	14.5	円形	なし。	
P-86	X232,Y205	45.0	32.0	29.5	楕円形	土師質土器器小片。	
P-87	X232,Y206	22.0	18.0	32.0	円形	なし。	
P-88	X232,Y206	21.0	19.0	18.0	円形	なし。	
P-89	X232,Y206	20.0	17.0	-	方形	なし。	
P-90	X232,Y206	23.0	16.0	51.0	方形	なし。	
P-91	X233,Y207	15.0	11.0	23.5	円形	なし。	
P-92	X233,Y207	18.0	16.0	26.0	円形	なし。	
P-93	X233,Y207	16.0	14.0	16.5	円形	土師器（甕）破片、羽口破片。	
P-94	X233,Y208	23.0	22.0	43.0	円形	土師質土器小片。	
P-95	X233,Y207,208	38.0	28.0	29.5	円形	土師質土器小片。	
P-96	X233,Y207,208	62.0	49.0	13.5	不定形	土師質土器小片。	
P-97	X233,Y207	32.0	28.0	21.0	円形	土師質土器小片。	
P-98	X233,Y207	14.0	13.0	28.0	円形	なし。	
P-99	X233,Y207	21.0	18.0	17.5	楕円形	なし。	
P-100	X231,Y207	18.5	18.0	6.5	円形	土師質土器（坏）破片。	
P-101	X231,Y208	30.0	28.0	28.0	円形	なし。	
P-102	X231,Y208	18.0	16.0	34.5	円形	なし。	
P-103	X231,Y208	24.0	22.0	45.0	円形	なし。	
P-104	X231,Y208	62.0	54.0	33.5	円形	土師器小片、土師質土器小片。	
P-105	X232,Y207,208	17.0	15.0	23.5	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。
P-106	X231,Y205	54.0	36.0	35.5	円形	なし。	
P-107	X231,Y205	48.0	32.0	27.5	円形	なし。	
P-108	X231,Y205	35.0	32.0	36.0	円形	なし。	
P-109	X231,Y205	29.0	19.0	27.5	円形	なし。	
P-110	X231,Y205	39.0	30.0	25.0	円形	なし。	
P-111	X231,Y205	31.0	26.0	19.0	円形	なし。	
P-112	X233,Y205	39.0	35.0	-	円形	なし。	
P-113	X233,Y205,206	40.0	32.0	-	円形	なし。	
P-114	X233,Y205,206	36.0	28.0	-	円形	なし。	
P-115	X232,Y207	21.0	18.0	16.5	方形	なし。	
P-116	X232,Y207	17.0	16.0	21.0	円形	須恵器（甕）破片、土師質土器小片。	
P-117	X234,Y205,206	34.0	29.0	-	方形	須恵器（甕）破片。	
P-118	X232,Y207	36.0	11.5	20.0	楕円形	なし。	
P-119	X232,Y207	34.5	27.0	27.0	楕円形	土師器（坏）破片。	
P-120	X232,Y207	50.5	34.0	33.0	円形	土師器（坏）破片。	
P-121	X232,Y207	47.0	42.0	32.0	円形	土師質土器小片。	
P-122	X232,Y207	18.0	17.0	-	円形	土師質土器小片。	
P-123	X232,Y207	19.0	18.0	-	円形	なし。	
P-124	X233,Y207	16.0	14.0	-	方形	土師質土器小片。	
P-125	X233,Y207	19.0	14.0	-	方形	土師質土器小片。	
P-126	X232,Y208	16.0	15.0	9.0	円形	なし。	
P-127	X233,Y207	52.0	41.5	37.0	楕円形	土師器（甕）破片、土師質土器（坏）破片。	
P-128	X233,Y207	23.5	20.5	8.0	円形	土師質土器（埦）破片。	
P-129	X233,Y207	32.0	26.0	33.0	方形	土師質土器小片。	
P-130	X232,Y207	33.5	32.0	22.0	円形	なし。	
P-131	X232,Y207	16.0	15.0	14.0	円形	なし。	
P-132	X232,Y207	25.0	25.0	11.0	円形	なし。	
P-133	X233,Y207	14.0	12.5	11.5	円形	土師器（坏）破片。	
P-134	X233,Y207	28.0	25.5	61.0	円形	土師質土器（坏）破片。	
P-135	X233,Y207	31.0	26.0	13.0	円形	土師質土器小片。	
P-136	X233,Y208	-	-	9.0	-	なし。	
P-137	X233,Y207	20.5	19.0	11.0	円形	なし。	
P-138	X233,Y208	-	-	13.0	円形	なし。	
P-139	X232,Y207	26.0	22.0	32.5	方形	なし。	
P-140	X232,Y207	18.0	15.0	11.5	方形	土師質土器小片。	
P-141	X233,234,Y205	39.0	28.0	21.0	円形	土師器（甕）破片。土師質土器小片。	
P-142	X233,Y207	20.5	17.5	4.5	円形	なし。	
P-143	-	-	-	-	-	-	欠番
P-144	X233,Y207	17.5	14.5	5.5	円形	なし。	
P-145	X233,Y207	15.5	14.5	46.0	方形	土師質土器小片。	
P-146	X232,Y207	25.0	24.0	16.0	円形	なし。	
P-147	X232,233,Y207	21.0	17.0	17.5	円形	土師質土器小片。	
P-148	X232,Y208	27.0	18.0	31.5	楕円形	なし。	

P-149	X233,Y208	22.0	17.0	13.5	円形	土師質土器小片。	
P-150	X233,Y208	62.0	37.0	58.5	方形	なし。	
P-151	X232,Y208	32.0	27.0	18.5	円形	なし。	
P-152	X232,233,Y208	46.0	40.0	12.0	円形	土師器（坏）破片、須恵器小片、土師質土器（坏）破片。	
P-153	X231,Y206,207	20.0	18.0	11.0	円形	土師質土器（坏）破片。	
P-154	X233,Y208	19.0	18.5	33.5	円形	土師質土器小片。	
P-155	X233,Y208	22.0	20.0	21.0	円形	なし。	
P-156	X233,Y207	24.5	22.5	20.0	方形	なし。	
P-157	X233,Y208	34.0	29.0	32.0	円形	土師器小片。	
P-158	X233,Y207	19.5	19.0	17.0	方形	土師質土器小片。	
P-159	X230,Y207	42.0	30.0	38.0	方形	なし。	
P-160	X230,Y207	19.0	16.0	53.0	方形	なし。	
P-161	X232,Y207	34.5	29.0	38.5	円形	平瓦破片。	
P-162	X231,Y205	22.0	21.0	28.0	方形	なし。	
P-163	X231,Y208	32.0	27.0	25.5	円形	なし。	
P-164	X231,Y205	30.0	22.0	25.0	楕円形	なし。	
P-165	X231,Y205	34.5	32.0	49.0	円形	須恵器（坏）破片。	
P-166	X232,Y207	24.0	119.0	29.5	楕円形	なし。	
P-167	X233,Y206	38.0	18.0	-	楕円形	なし。	
P-168	-	-	-	-	-	-	欠番
P-169	X232,Y208	33.0	29.5	10.0	円形	なし。	
P-170	X232,Y205	28.0	26.0	13.0	円形	土師質土器小片。	
P-171	X232,Y206	31.0	21.0	23.5	円形	なし。	
P-172	X232,Y206	17.0	16.0	10.0	円形	なし。	
P-173	X232,Y207	17.5	16.0	12.5	円形	なし。	
P-174	X232,Y207	29.0	29.0	28.0	円形	土師器（坏）破片、土師質土器小片。	
P-175	X232,Y207	17.0	17.0	24.0	円形	なし。	
P-176	X233,Y206	30.0	28.0	-	円形	なし。	
P-177	X231,Y206	26.0	24.0	24.5	円形	なし。	
P-178	X233,Y204	20.0	16.0	7.5	円形	なし。	
P-179	X230,Y208	11.0	10.5	26.5	円形	なし。	

井戸跡

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
I-1	X230,Y205	218.0	69.0	-	円形	土師器（坏・甕）、須恵器（甕）、土師質土器（坏）破片	
I-2	X232,Y208	130.0	127.0	-	円形	なし。	（127）I-1

落ち込み

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
O-1	X232,233, Y207,208	315.5	292.5	23.0	円形	土師器（ての字状口縁皿）破片、土師質土器（坏・高坏・埦）破片、灰釉陶器（皿）破片、土釜破片、黒色土器（埦）破片。	

Tab.3　遺物観察表

1 号礎石建物跡（掘込地業内）

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	埴輪 人物	長さ :[8.0] 幅 :[3.8] 厚さ :[2.5] 重さ :93.8	①普通（窯窯焼成）②にぶい橙 ③角閃石・石英・白色粒・黒色粒 ④美豆良破片	人物埴輪の男子左頬から剝落した美豆良。中実造り。下端は外方向に突出する。左頬に貼付後、ナデ。	6 世紀
2	土師器 高坏	器高 :[3.7]	①普通 ②にぶい橙 / にぶい褐 ③石英・角閃石・チャート・白色粒・黒色粒 ④体部下位～脚部上位	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。内面:口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	
3	土師器 坏	口径：(10.8) 器高：[3.3]	①普通 ②橙 / 橙 ③角閃石・石英・長石・黒色粒・白色粒 ④口縁～体部 1/5	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	7 世紀後半
4	土師器 坏	口径：(11.4) 器高：[3.3]	①良好 ②にぶい橙 / 橙 ③石英・角閃石・黒色粒・白色粒 ④口縁～体部 1/4	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下半ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	7 世紀後半
5	土師器 坏	口径：(12.0) 器高：[2.8]	①良好 ②橙 / 橙 ③石英・角閃石・白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部 1/10	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	7 世紀後半
6	土師器 高坏	器高：[3.6]	①良好 ②橙 / 橙 ③石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 ④体部下位 1/10、脚部上位 1/3	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	

1 号竪穴建物跡

番号	器種	法量（㎝・g）/ 成・整形技法の特徴			備考
7	銅製鉈尾	長さ :4.5、幅 :3.8、厚さ :1.0、重さ :27.5。銙帯金具の蛇尾。烏油という銅製黒漆塗。内面 3 ヶ所に鋲。			
番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
8	土師質土器 坏	口径 :(9.4) 底径 :4.8 器高 :2.2	①普通 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③角閃石・石英・白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部 1/4、底部完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半 ～ 11 世紀
9	土釜	口径 :(27.5) 器高 :[15.8]	①普通 ②にぶい橙 / にぶい赤褐 ③角閃石・石英・白色粒 ④口縁部～胴部破片	外面：口縁部ヨコナデ。胴部上半ヘラナデ、下半ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	内外面に煤付着 10 世紀後半 ～ 11 世紀
10	土師質土器 坏	口径 :9.7 底径 :4.7 器高 :2.5	①普通 ②にぶい橙 / 浅黄橙 ③石英・白色粒・黒色粒 ④ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半 ～ 11 世紀
11	土師質土器 坏	口径 :9.6 底径 :5.6 器高 :2.6	①普通 ②にぶい橙 / 浅黄橙 ③チャート・石英・白色粒 ④ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半 ～ 11 世紀
12	土師質土器 坏	口径 :9.2 底径 :4.9 器高 :2.3	①普通 ②黄橙 / 黄橙 ③角閃石・石英・黒色粒・白色粒・褐色粒 ④完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半 ～ 11 世紀
13	白磁 碗	器高 :[1.2]	①還元焔 ②素地 : 灰白 / 釉 : 灰白 ③緻密 ④口縁部破片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	11 世紀後半 ～ 12 世紀
14	白磁 碗	器高 :[1.3]	①還元焔 ②素地 : 灰白 / 釉 : 灰白 ③緻密 ④体部破片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	11 世紀後半 ～ 12 世紀
15	白磁 碗	器高 :[2.5]	①還元焔 ②素地 : 灰白 / 釉 : 灰白 ③緻密 ④体部破片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	11 世紀後半 ～ 12 世紀
16	白磁 碗	器高 :[1.7]	①還元焔 ②素地 : 灰白 / 釉 : 灰白 ③緻密 ④口縁部破片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	11 世紀後半 ～ 12 世紀

2 号竪穴建物跡

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
17	土師器 坏	口径 :(11.8) 器高 :[2.7]	①良好 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③石英・角閃石・白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部 1/6	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	7 世紀後半
18	土師器 坏	口径 :(11.8) 器高 :[3.7]	①良好 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③石英・角閃石・白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部 1/6	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	6 世紀後半～ 7 世紀前半
19	土師器 高坏	口径 :(17.8) 器高 :[4.0]	①普通②橙 / 浅黄橙 ③石英・白色粒・褐色粒・黒色粒 ④口縁部～体部 1/4	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	内外面ともに器表面磨耗 7 世紀前半

3 号竪穴建物跡

番号	器種	法量（㎝・g）/ 成・整形技法の特徴			備考
20	石製品 臼玉	径 :1.1、孔径 :0.25、厚さ :0.65、重さ :1.5。滑石製。完形。			
番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
21	土師器 坏	口径 :(12.3) 器高 :4.0	①良好 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③石英・白色粒・黒色粒 ④ 1/4	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	内外面に煤付着 7 世紀前半
22	土師器 坏	口径 :(12.0) 器高 :[3.9]	①良好 ②にぶい赤褐 / にぶい赤褐 ③石英・角閃石・白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部 1/8	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	内外面に煤付着 6 世紀後半～ 7 世紀前半
23	土師器 坏	口径 :(15.0) 器高 :[4.2]	①良好 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③石英・黒色・褐色粒・白色粒粒 ④口縁部～体部 1/8	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	7 世紀前半

4 号竪穴建物跡

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
24	土師質土器 坏	底径 :5.4 器高 :[2.5]	①普通 ②橙 / 橙 ③白色粒・石英 ④底部完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半～ 11 世紀
26	土師器 皿	口径 :(13.7) 器高 :[2.5]	①良好 ②橙 / 橙 ③白色粒・石英 ④口縁部～体部 1/10	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	ての字状口縁皿 10 世紀後半～ 11 世紀

27	土師質土器 坏	口径 :(15.0) 器高 :[3.0]	①良好 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黒色粒・褐色粒・石英 ④口縁部～体部 1/8	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半～ 11 世紀
28	土師質土器 坏	底径 :(6.0) 器高 :[1.4]	①良好 ②灰白 / 灰白 ③黒色粒・褐白色粒・石英 ④底部 1/4	外面：轆轤整形。底部静止糸切り。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半～ 11 世紀
29	土師質土器 坏	底径 :(6.0) 器高 :[1.4]	①普通 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黒色粒･白色粒･石英･角閃石 ④底部 1/2	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半～ 11 世紀

5 号竪穴建物跡

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
25	土師質土器 埦	口径 :(14.0) 器高 :[4.8]	①普通 ②にぶい黄橙 / にぶい黄橙 ③白色粒・石英 ④口縁部 1/3、体部～底部ほぼ完形、高台欠損	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り、高台貼付後、周縁ナデ。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半
30	土師質土器 坏	口径 :10.3 底径 :5.0 器高 :2.9	①普通 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④口縁部～体部 3/4、底部完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形	10 世紀後半
31	羽釜	口径 :(22.0) 器高 :[27.0]	①酸化焔 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③チャート・白色粒・石英 ④口縁部～体部 1/4	外面：轆轤整形後、体部ヘラケズリ。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	内外面に煤付着 10 世紀後半
32	土師質土器 埦	口径 :11.1 底径 :5.8 器高 :4.9	①普通 ②淡黄 / 浅黄橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④完形	外面：轆轤整形。底部回転糸切り、高台貼付後、周縁ナデ。 内面：轆轤整形。	内外面ともに器表面磨耗 10 世紀後半
33	土師質土器 埦	口径 :(11.0) 底径 :6.0 器高 :4.9	①普通 ②淡黄 / 淡黄 ③黒色粒・石英 ④口縁部～体部 1/2、底部完形	外面：轆轤整形。底部高台貼付後、ナデ。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半
34	須恵器 高盤	器高 :[7.1]	①還元焔 ②灰白 / 灰白 ③白色粒・褐色粒 ④体部～脚部上位 1/3	外面：轆轤整形後、三方の透孔。脚部中位に凹線３条。 内面：轆轤整形。	
36	羽釜	器高 :[5.1]	①酸化焔 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③チャート・白色粒・石英 ④口縁部破片	外面：轆轤整形。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	10 世紀
番号	器種	法量（㎝・g）/ 成・整形技法の特徴			備考
35	石製品 碁石 (黒)	長さ :1.55、幅 :1.5、厚さ :0.7、重さ :2.3。粘板岩。完形。			

6 号竪穴建物跡

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
37	土師器 皿	器高 :[2.5]	①普通 ②橙 / 橙 ③白色粒・黒色粒・褐色粒・石英 ④口縁部破片	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	ての字状口縁皿 10 世紀後半～ 11 世紀
40	羽釜	器高 :[4.2]	①酸化焔 ②にぶい褐 / にぶい褐 ③チャート・白色粒・褐色粒・黒色粒・石英 ④口縁部破片	外面：轆轤整形。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	10 世紀
番号	器種	法量（㎝・g）/ 成・整形技法の特徴			備考
38	貝巣穴痕 軟質泥岩	長さ :2.45、幅 :1.45、厚さ :2.0、重さ :2.2。穿孔貝の巣穴の穿孔痕という生痕化石がみられる軟質泥岩。表面は被熱によって赤化。			
39-1	鉄滓	長さ :5.6、幅 :5.2、厚さ :2.2、重さ :113.9。丸みをもつ椀型鍛冶滓。上側と左側は破面。			
39-2	鉄滓	長さ :7.6、幅 :4.2、厚さ :2.0、重さ :78.5。底面が断面Ｕ字形の流出溝滓。上側は破面。			

10 号竪穴建物跡

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
41	土師器 坏	口径 :(14.0) 器高 :[4.8]	①良好 ②褐灰 / 黒 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁部～体部 1/8	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。口縁部黒色処理。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。黒色処理。	6 世紀後半～ 7 世紀前半
42	土師器 坏	器高 :[3.7]	①良好 ②橙 / 橙 ③褐色粒・石英 ④口縁部～体部破片	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	6 世紀後半～ 7 世紀前半
43	土師器 坏	器高 :[2.8]	①良好 ②にぶい褐 / 黒橙 ③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英 ④口縁部～体部破片	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。口縁部黒色処理。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。黒色処理。	6 世紀後半～ 7 世紀前半

11 号竪穴建物跡

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
44	土師器 坏	口径 :14.2 器高 :5.2	①良好 ②橙 / 橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④ 7/8	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7 世紀後半
45	土師器 坏	口径 :11.7 器高 :4.4	①普通 ②橙 / 黄橙 ③白色粒・褐色粒・石英・黒色粒 ④ 1/2	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7 世紀後半
46	土師器 坏	口径 :(15.0) 器高 :[5.5]	①良好焔 ②橙 / 橙 ③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英 ④口縁部～体部 1/4	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7 世紀後半
番号	器種	法量（㎝・g）/ 成・整形技法の特徴			備考
47	石製品 臼玉	径 :1.6、孔径 :0.3、厚さ :0.8、重さ :3.6。滑石製。ほぼ完形。			

12 号竪穴建物跡

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
48	土師器 坏	器高 :[2.9]	①良好 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④ほぼ完形	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ後、底部～口縁部ヘラナデ。	7 世紀
49	土師器 甕	口径 :(17.6) 底径 :(8.0) 器高 :[28.3]	①普通 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英・角閃石 ④口縁部 1/4、胴部～底部 1/8	外面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	外面に黒斑 6 世紀後半～ 7 世紀

1 号溝跡

番号	器種	法量（cm）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
50	土師器 坏	器高 :[2.9]	①良好 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④体部～底部破片	外面：体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。 内面：ヘラナデ後、体部斜方向の暗文状のヘラミガキ。	8 世紀
51	黒色土器 坏	器高 :[5.0]	①普通 ②にぶい橙 / 黒 ③白色粒・黒色粒・石英 ④体部破片	外面：体部ヘラケズリ。 内面：体部ヘラナデ。黒色処理。	8 世紀

2 号溝跡

番号	器種	法量（cm）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
52	土師器 坏	口径 :(10.8) 器高 :3.5	①良好 ②橙 / 橙 ③石英・白色粒・黒色粒・角閃石 ④口縁部～体部 1/4、底部完形	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7 世紀
53	土師器 坏	口径 :10.8 器高 :3.5	①良好 ②にぶい橙 / 橙 ③チャート・白色粒・石英・角閃石 ④ 2/3	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7 世紀
54	須恵器 鉢	口径 :(22.2) 底径 :(19.5) 器高 :[8.0]	①還元焔 ②灰白 / 灰白 ③チャート・白色粒・黒色粒 ④口縁部～底部 1/4	外面：轆轤整形。底部手持ちヘラケズリ。 内面：轆轤整形。	7 世紀後半
55	須恵器 壺	口径 :(11.5) 器高 :[7.6]	①還元焔 ②灰白 / 灰白 ③黒色粒・白色粒 ④口縁部～肩部 1/3	外面：轆轤整形。肩部平行タタキ。 内面：轆轤整形。肩部同心円の当て具痕。	7 世紀後半
56	須恵器 高盤	器高 :[7.9]	①還元焔 ②灰 / 灰 ③白色粒・石英 ④体部～台部ほぼ完形	外面：轆轤整形。体部平行タタキ。 内面：轆轤整形。体部当て具痕後、ナデ。台部貼付後、ナデ。	7 世紀後半
57	須恵器 坏	口径 :12.0 底径 :8.6 器高 :4.8	①還元焔 ②灰白 / 灰白 ③白色粒・黒色粒・石英 ④ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部手持ちヘラケズリ。 内面：轆轤整形。	7 世紀後半
58	土師器 坏	口径 :(11.5) 器高 :3.3	①良好 ②にぶい橙 / 橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④ 1/3	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7 世紀
59	土師器 坏	口径 :10.8 器高 :3.4	①良好 ②にぶい橙 / 橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④ 2/3	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7 世紀
番号	器種	法量（cm・g）/ 成・整形技法の特徴			備考
60	貝巣穴痕 軟質泥岩	長さ :3.655、幅 :2.35、厚さ :2.6、重さ :12.1。穿孔貝の巣穴の穿孔痕という生痕化石がみられる軟質泥岩。表面は被熱によって赤化。			

3 号溝跡

番号	器種	法量（cm）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
61	土師質土器 坏	底径 :6.0 器高 :[1.3]	①普通 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④底部完形	外面：轆轤整形。底部静止糸切り。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半～ 11 世紀
62	黒色土器 坏	器高 :[5.6]	①普通 ②にぶい橙 / 黒 ③白色粒・褐色粒・黒色粒・石英・角閃石 ④口縁部～体部破片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形後、ヘラミガキ。黒色処理。	10 世紀

5 号溝跡

番号	器種	法量（cm）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
63	土師質土器 埦	底径 :7.0 器高 :[3.5]	①普通 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黒色粒・褐色粒・石英 ④体部～底部ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部回転糸切り、高台貼付後、周縁ナデ。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半
64	土師質土器 埦	底径 :(6.0) 器高 :[2.2]	①普通 ②灰白 / 灰白 ③黒色粒・褐色粒・石英・角閃石 ④体部～底部 1/4	外面：轆轤整形。底部高台貼付後、周縁ナデ。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半
65	土師質土器 坏	底径 :(4.7) 器高 :[1.5]	①普通 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・石英・角閃石 ④底部 1/2	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半
番号	器種	法量（cm・g）/ 成・整形技法の特徴			備考
66	須恵器 円面硯	長さ :[6.5]、幅 :[7.5]、厚さ :1.3、重さ :27.5。 ①還元焔 ②灰 ③白色粒・石英 ④破片 無脚円面硯。平滑に磨られた硯面の外縁に浅い海部がみられる。			

6 号溝跡

番号	器種	法量（cm）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
67	土師質土器 埦	底径 :(7.2) 器高 :[3.3]	①普通 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③白色粒・石英・角閃石 ④体部～底部 1/4	外面：轆轤整形。、高台貼付後、周縁ナデ。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半

1 号落ち込み

番号	器種	法量（cm）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
68	土師質土器 坏	口径 :10.6 底径 :4.8 器高 :2.7	①普通 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黒色粒・石英・角閃石 ④完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	口唇部に煤 (油煙) 付着、燈明皿、10 世紀後半
69	土師質土器 高坏	器高 :[8.6]	①普通 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③白色粒・黒色粒・石英・角閃石 ④脚柱部ほぼ完形	外面：木製品を模倣した器種で、粘土帯を丸めて成形した脚柱部に 5 面の面取りをもつ。 内面：脚柱部下位ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	10 世紀
70	土師質土器 埦	底径 :8.8 器高 :[3.6]	①普通 ②灰白 / 灰白 ③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英・角閃石 ④底部ほ完形	外面：轆轤整形。底部高台貼付後、ナデ。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半
71	土師質土器 坏	口径 :9.9 底径 :4.8 器高 :2.9	①普通 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黒色粒・褐色粒・石英 ④ 1/2	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	口唇部に煤 (油煙) 付着、燈明皿、10 世紀後半
72	灰釉陶器 皿	口径 :(12.3) 底径 :6.0 器高 :2.4	①還元焔 ②素地 : 灰白 / 釉 : 灰白 ③緻密、白色粒 ④ 1/2	外面：轆轤整形。底部回転糸切り、高台貼付後、回転ナデ。 内面：轆轤整形。	釉浸し掛け 10 世紀後半
73	土釜	底部 :7.6 器高 :[2.3]	①普通 ②にぶい褐 / にぶい褐 ③チャート・角閃石・石英・白色粒・黒色粒 ④底部完形	外面：ヘラナデ。底部ヘラナデ。 内面：ヘラナデ。	10 世紀後半～ 11 世紀

74	黒色土器 埦	口径 :10.3 底径 :5.0 器高 :2.9	①普通 ②浅黄橙 / 黒 ③角閃石・石英・白色粒・黒色粒 ④底部ほぼ完形、高台欠損	外面：轆轤整形。底部、高台貼付後、ナデ。 内面：轆轤整形後、ヘラミガキ・黒色処理。	10 世紀後半～ 11 世紀
75	土師質土器 坏	口径 :(9.6) 底径 :4.8 器高 :2.8	①普通 ②橙 / にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁部～体部 1/3、底部完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半
76	土師器 皿	器高 :[1.1]	①良好 ②橙 / 橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④口縁部破片	外面：口縁部～体部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	ての字状口縁皿 10 世紀後半～ 11 世紀
77	土師質土器 高坏	器高 :[6.9]	①普通 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④脚柱部ほぼ完形	外面：木製品を模倣した器種で、粘土帯を丸めて成形した脚柱部に面取り的な縦方向ヘラケズリ。 内面：脚柱部下位ヘラケズリ。	10 世紀
78	土師質土器 埦	口径 :14.0 底径 :8.1 器高 :6.7	①普通 ②橙 / 橙 ③黒色粒・白色粒・石英・角閃石 ④ 3/4	外面：轆轤整形。底部高台貼付後、回転ナデ。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半～ 11 世紀
79	黒色土器 埦	底径 :6.5 器高 :[1.8]	①良好 ②橙 / 黒 ③白色粒・褐色粒・黒色粒・石英 ④底部完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り、高台貼付後、周縁ナデ。 内面：轆轤整形後、ヘラミガキ。黒色処理。	10 世紀後半～ 11 世紀
80	土師質土器 坏	口径 :9.6 底径 :5.7 器高 :2.8	①普通 ②灰白 / 灰白 ③黒色粒・白色粒・褐色粒・石英 ④完形	外面：轆轤整形。底部静止糸切り。 内面：轆轤整形。	口唇部に煤 (油煙) 付着、燈明皿、10 世紀後半
81	土師質土器 坏	口径 :9.9 底径 :5.5 器高 :2.6	①普通 ②橙 / 橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	口唇部に煤 (油煙) 付着、燈明皿、10 世紀後半
82	土師器 皿	器高 :[2.0]	①良好 ②橙 / 橙 ③黒色粒・チャート・石英 ④口縁部破片	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	ての字状口縁皿 10 世紀後半～ 11 世紀

2 号土坑

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
83	土師質土器 坏	口径 :(8.5) 底径 :5.4 器高 :2.6	①普通 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④口縁部～体部 1/3、底部ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半～ 11 世紀

7 号土坑

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
84	土師質土器 埦	口径 :(12.4) 底径 :(6.5) 器高 :5.4	①普通 ②灰白 / 淡黄 ③黒色粒・白色粒・石英 ④口縁部～体部 1/4、底部 2/3	外面：轆轤整形。高台貼付後、周縁ナデ。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半～ 11 世紀
85	土師質土器 埦	器高 :[2.6]	①普通 ②灰白 / 灰白 ③黒色粒・石英・角閃石 ④底部完形、高台欠損	外面：轆轤整形。底部高台貼付後、回転ナデ。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半～ 11 世紀
86	土師質土器 埦	器高 :[1.9]	①普通 ②橙 / 橙 ③黒色粒・白色粒・石英・角閃石 ④底部完形、高台欠損	外面：轆轤整形。底部高台貼付後、回転ナデ。 内面：轆轤整形。	10 世紀後半～ 11 世紀

59 号ピット

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
87	緑釉陶器 埦	底径 :(8.0) 器高 :[2.3]	①還元焔 ②素地 : 灰オリーブ / 釉 : 暗オリーブ ③緻密 ④底部 1/3	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	見込み・底面に重ね焼き痕跡の三叉トチン痕 10 世紀

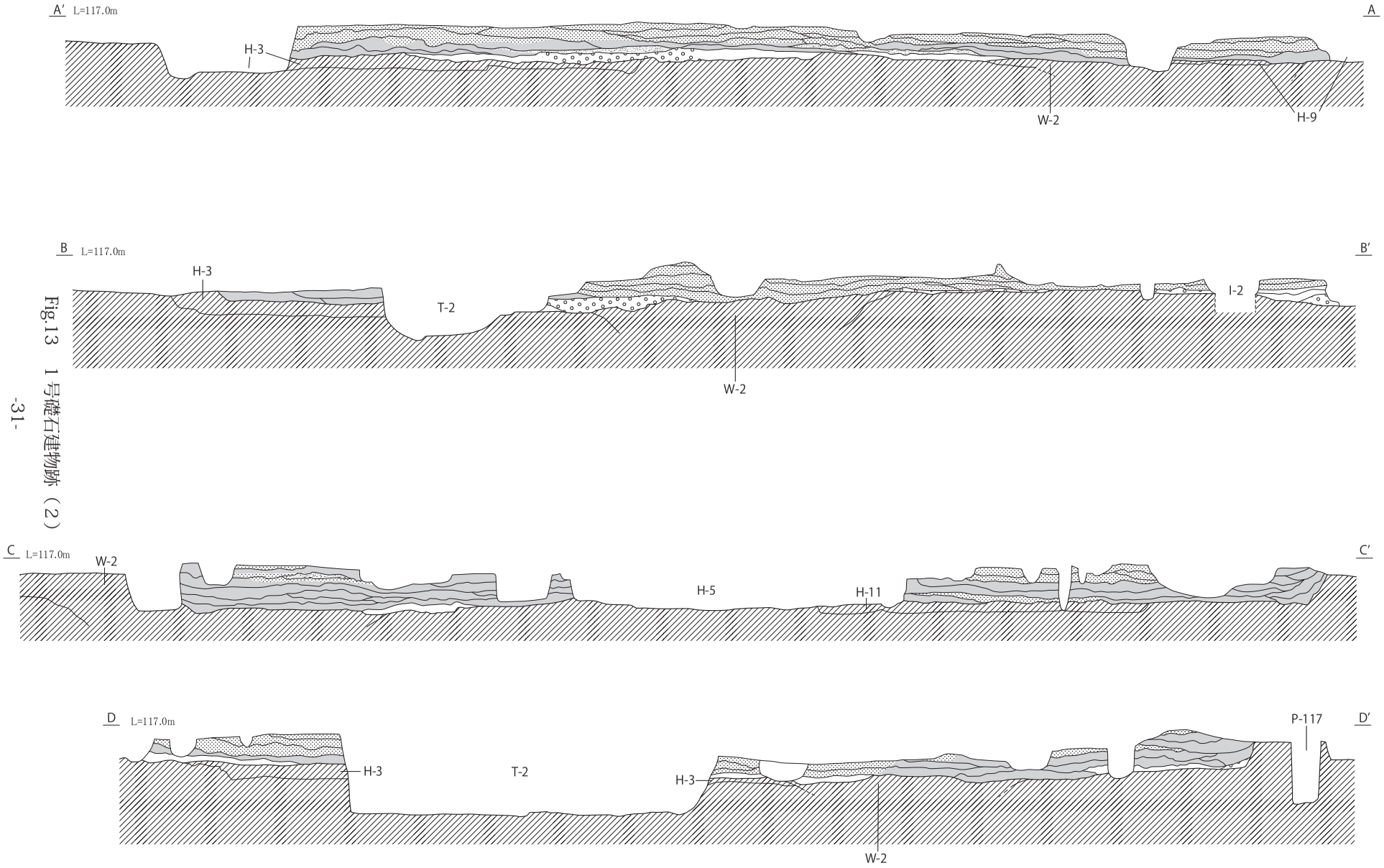
グリッド

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
88	緑釉陶器 埦	器高 :[1.5]	①還元焔 ②素地 : 灰オリーブ / 釉 : 暗オリーブ ③緻密 ④体部破片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	10 世紀

表採

番号	器種	法量（㎝）	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
89	灰釉陶器 埦	底径 :6.6 器高 :[1.3]	①還元焔 ②素地 : 灰白 ③緻密 ④底部ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部左回転糸切り、高台貼付後、周縁ナデ。 内面：轆轤整形。	底面に墨書「仟」 10 世紀後半

Fig.12　1号礎石建物跡（1）



※土層注記の凡例は Fig.14 に記載

Fig.13　1号礎石建物跡（2）

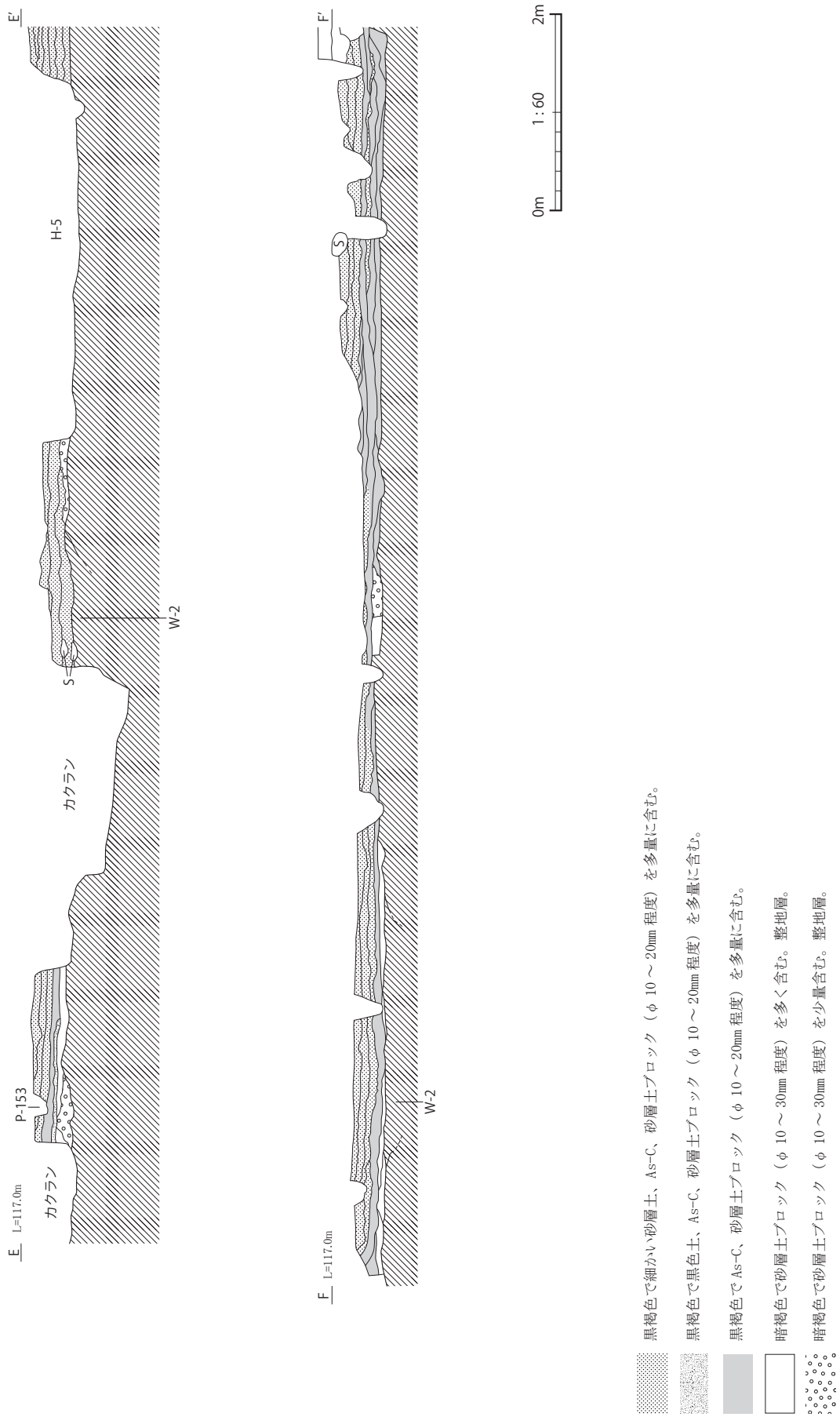


Fig.14　1 号礎石建物跡（3）

1号掘立柱建物跡　P_2 層序説明（B-B'）
1　黒褐　As-C 少量含む。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
2　にぶい黄褐　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 30mm 程度）多量。
3　暗褐　As-C 少量。
4　黒褐　細粒。

1号掘立柱建物跡　P_1 層序説明（A-A'）
1　黒褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
2　黒褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
3　黒褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
4　暗褐　砂層土多量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 30mm 程度）少量。
5　暗褐　砂層土多量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。

1号掘立柱建物跡　P_3 層序説明（C-C'）
1　黒褐　As-C 少量。灰褐色強め。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
2　黒褐　As-C 少量。暗褐色強め。砂層土ブロック（φ 20mm 程度）極少量。
3　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
4　にぶい黄褐　締り・粘性なし。
5　硬化層。

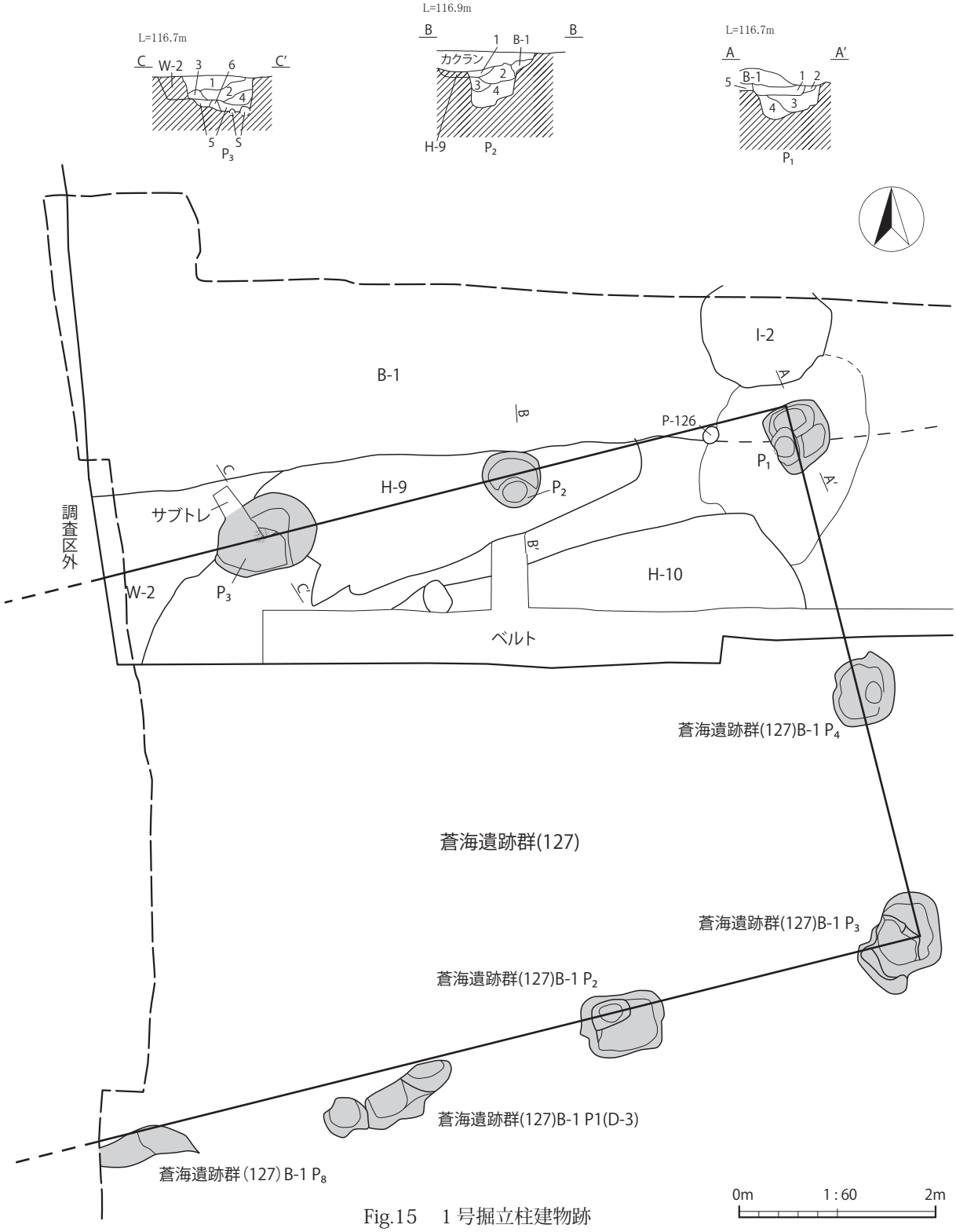
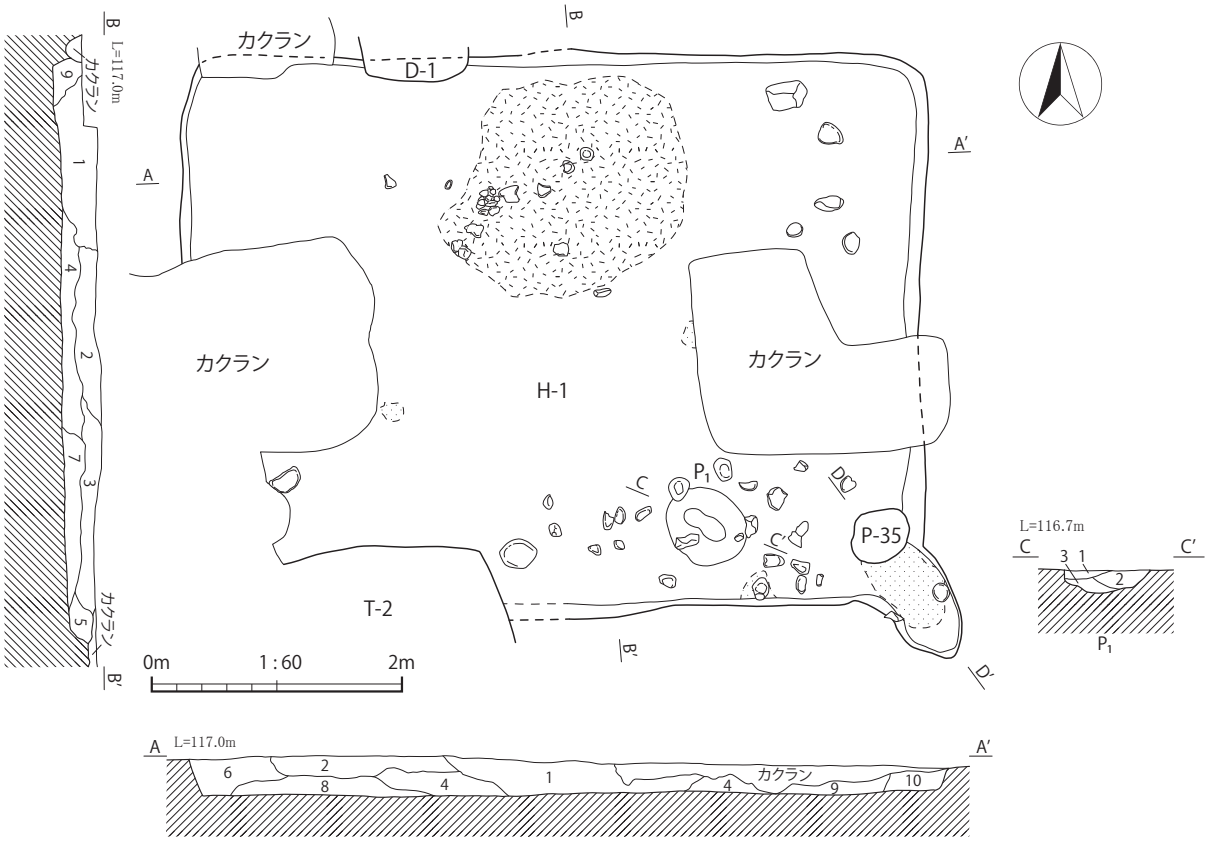
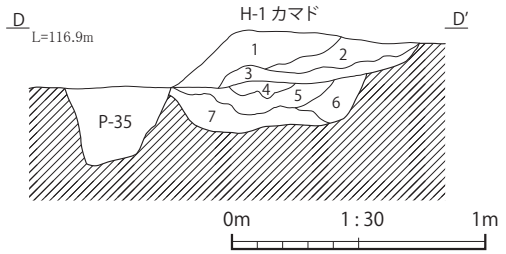


Fig.15　1号掘立柱建物跡

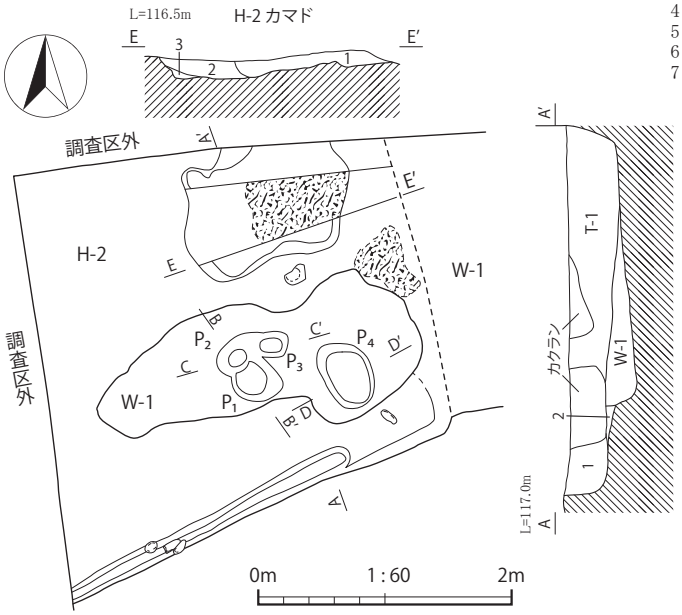


1 号竪穴建物跡　層序説明（A-A'）(B-B'）
1　黒　　灰多量。As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
2　黒褐　As-B 極少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）若干。
3　黒褐　As-C 少量。
4　黒褐　As-C 少量。炭化物極少量。
5　黒褐　As-C 極少量。細かい砂層土少量。
6　黒褐　As-C 多量。炭化物若干。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
7　暗褐　As-C 極少量。
8　黒褐　As-C 多量。炭化物極少量。
9　暗褐　砂層土に黒色土の混入土。砂礫若干。
10 暗褐　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。

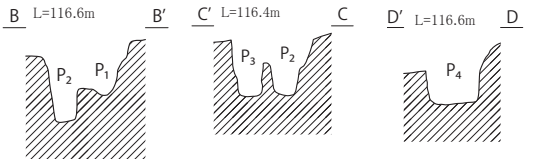
1 号竪穴建物跡 P_1 層序説明　　(C-C'）
1　黒褐　砂層土ブロック（φ 20mm 程度）極少量。締り強い。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。締り強い。
3　黒褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 20mm 程度）極少量。締りややあり。



1 号竪穴建物跡　竈層序説明（D-D'）
1　黒褐　As-C 多量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。炭化物極少量。
2　黒褐　As-C 極少量。炭化物若干。
3　黒褐　灰・焼土多量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
4　焼土層
5　黒褐　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）若干。
6　黒褐　As-C 若干。
7　黒褐　As-C 若干。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。



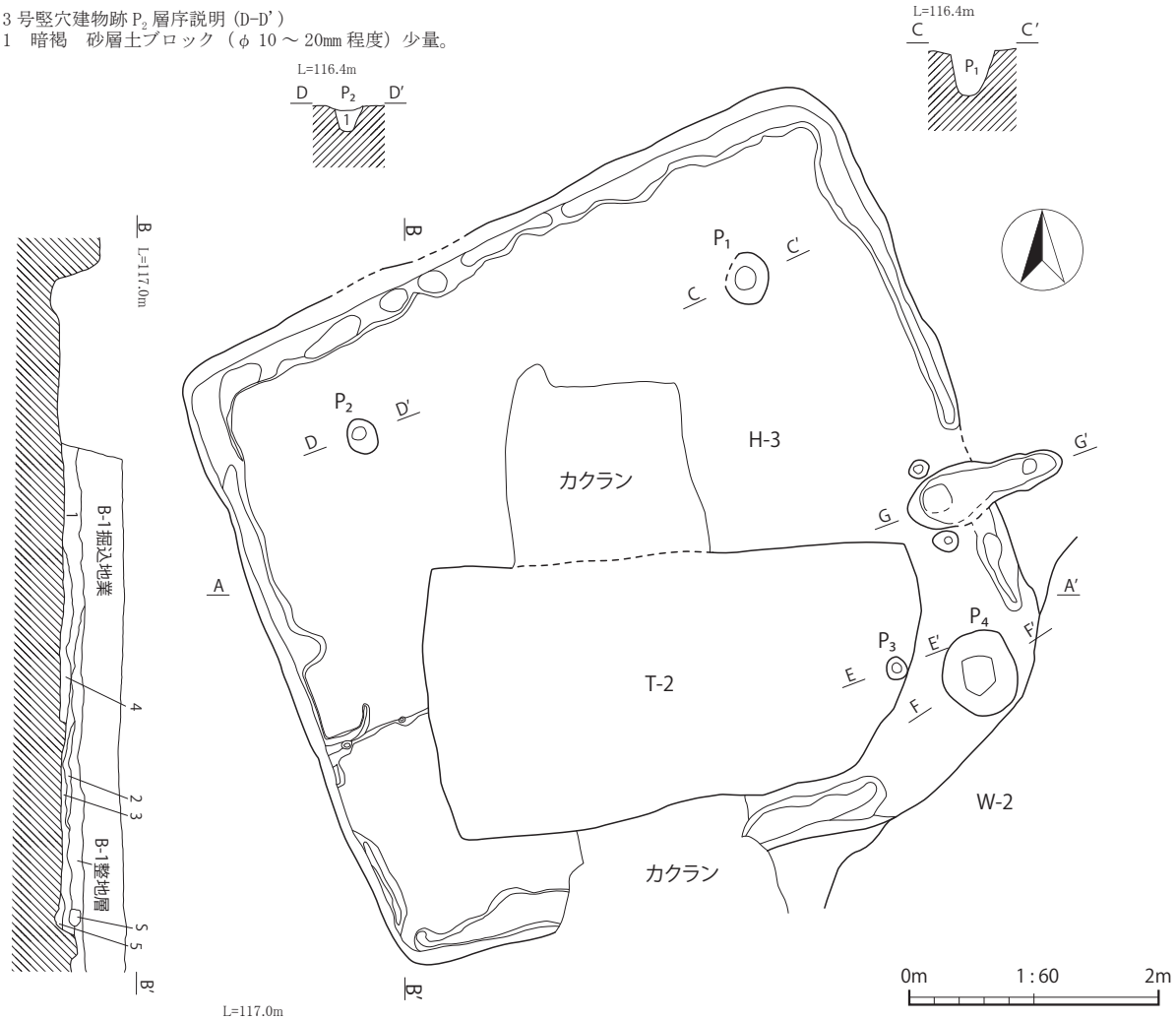
2 号竪穴建物跡竈層序説明（E-E'）
1　暗褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 20mm）少量。
　　焼土ブロック若干。
2　黒褐　砂層土少量。As-C 少量。
3　黒褐　砂層土多量。As-C 少量。

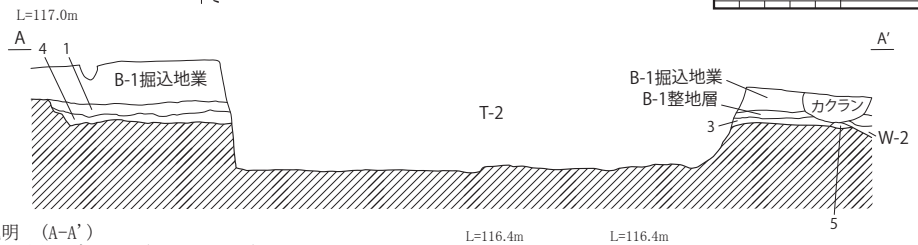


2 号竪穴建物跡層序説明（A-A'）
1　にぶい黄褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20mm 程度）少量。締り強い。
2　にぶい黄褐　砂層土少量。締りややあり。

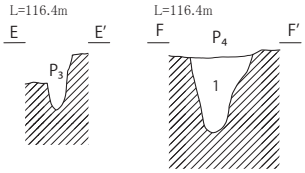
Fig.16　1・2 号竪穴建物跡

3 号竪穴建物跡 P_2 層序説明 (D-D')
1　暗褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜ 程度）少量。

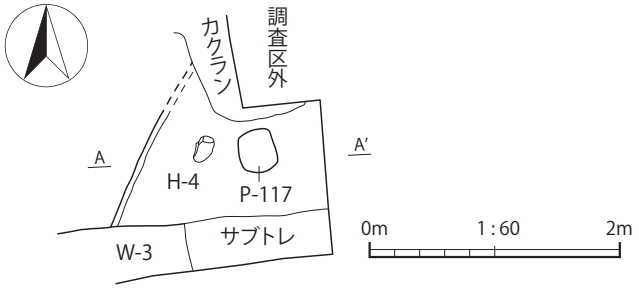


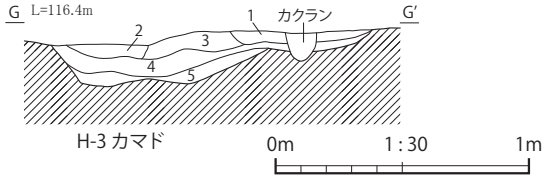


3 号竪穴建物跡層序説明　(A-A')
1　黒褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜）少量。
2　黒褐　黒色土多量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜）少量。
3　黒褐　細かい砂層土少量。
4　黒褐　細粒。
5　暗褐　砂層土多量。

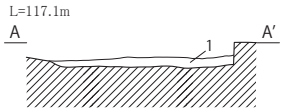


3 号竪穴建物跡 P_4 層序説明　(F-F')
1　暗褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 30㎜ 程度）少量。



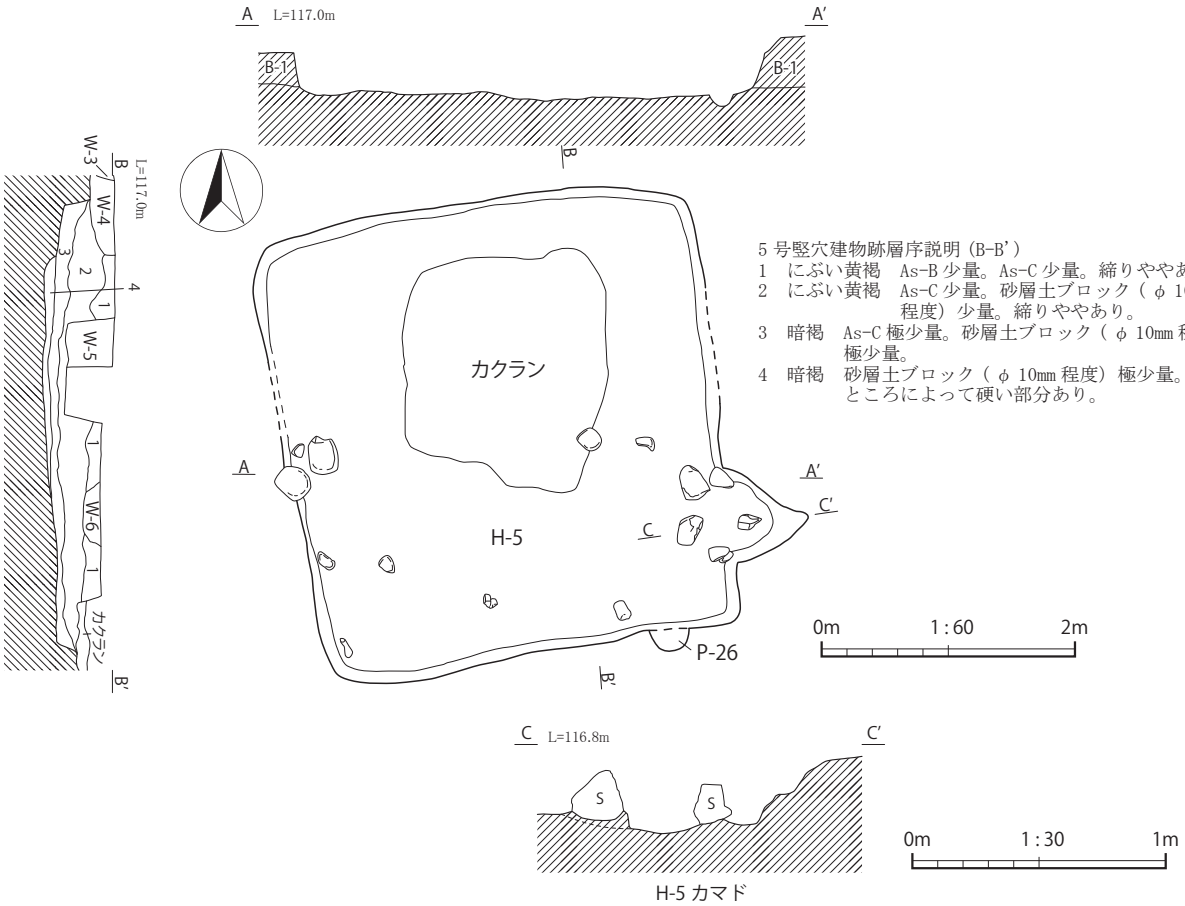


3 号竪穴建物跡竈層序説明 (G-G')
1　黒褐　砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）極少量。締り強い。
2　焼土層
3　暗褐　粘土ブロック（φ 10 ～ 20㎜ 程度）少量。締り強い。
　　焼土ブロック（φ 20㎜ 程度）少量。
4　暗褐　砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）少量。締りやや強い。
5　暗褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 30㎜ 程度）多量。締り強い。

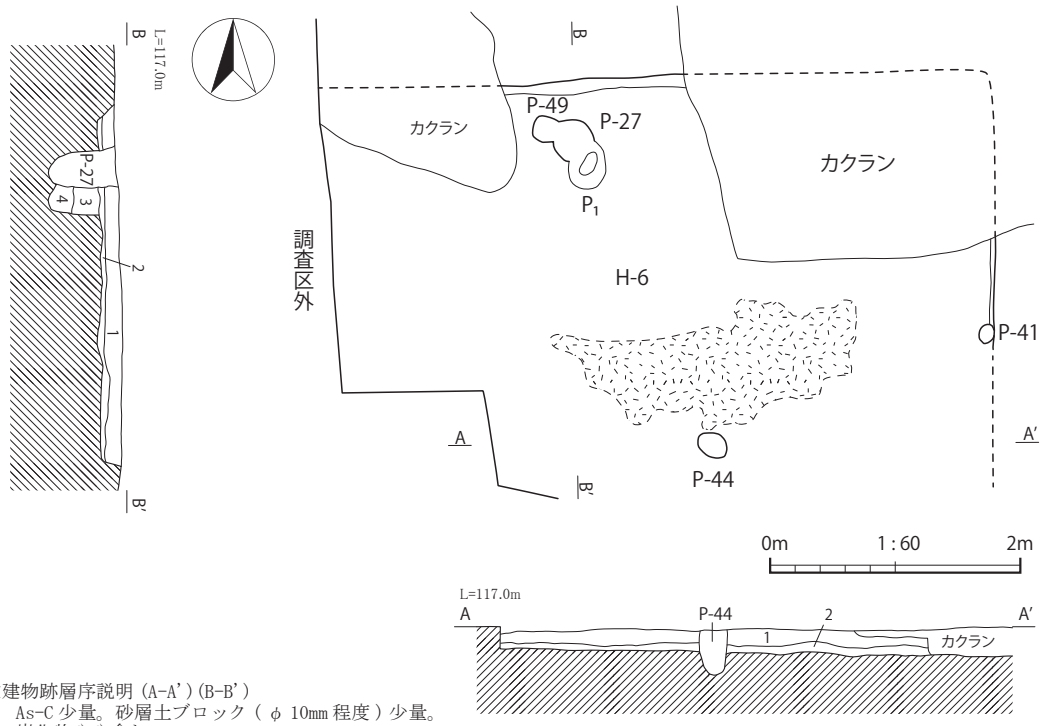


4 号竪穴建物跡層序説明 (A-A')
1　黒褐　As-C 少量。炭化物多量。

Fig.17　3・4 号竪穴建物跡

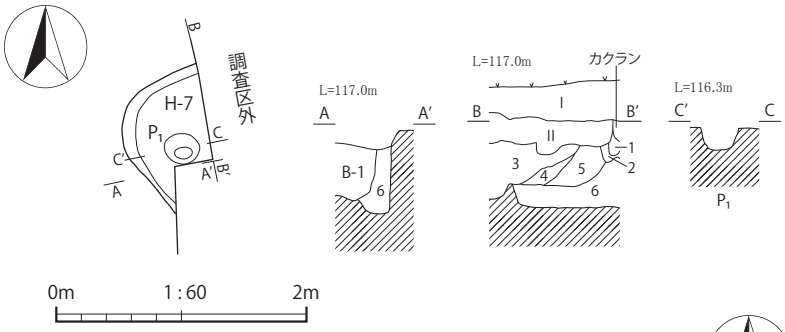


5 号竪穴建物跡層序説明（B-B′）
1　にぶい黄褐　As-B 少量。As-C 少量。締りややあり。
2　にぶい黄褐　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。締りややあり。
3　暗褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
4　暗褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。ところによって硬い部分あり。

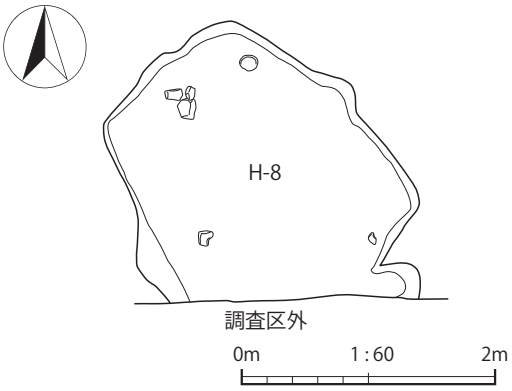


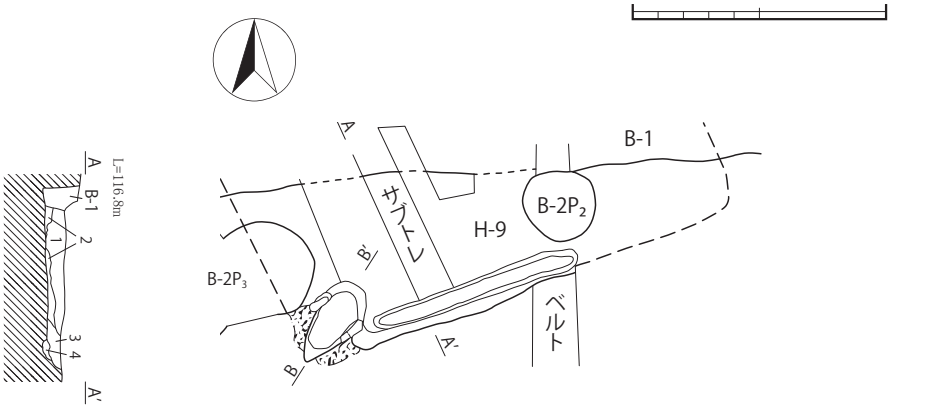
6 号竪穴建物跡層序説明（A-A′）（B-B′）
1　暗褐　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。炭化物やや含む。
2　暗褐　As-C 極少量。炭化物やや含む。
3　にぶい黄褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。締りややあり。
4　褐　砂層土ブロック（φ 10mm　程度）多量。締りややあり。

Fig.18　5・6 号竪穴建物跡

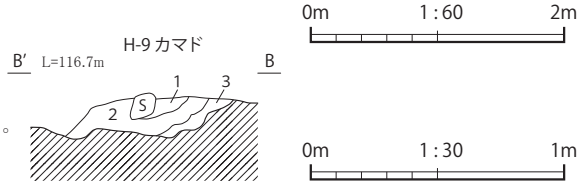


7 号竪穴建物跡層序説明（A-A'）(B-B'）
1　暗褐　As-C 極少量。
2　暗褐　As-C 少量。締り強い。
3　暗褐　As-C 極少量。炭化物極少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）極少量。
　　締りやや強い。
4　黒褐　As-B 極少量。
5　黒褐　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）極少量。
6　黒褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜ 程度）少量。炭化物少量。As-C 多量。

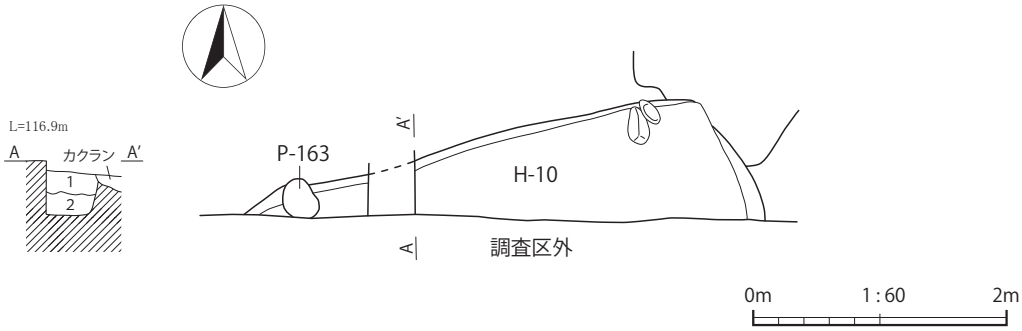




9 号竪穴建物跡層序説明（A-A'）
1　黒褐　As-C 少量。
2　黒褐　As-C 少量。
3　黒褐　細かい砂層土少量。
4　暗褐　細かい砂層土多量。



9 号竪穴建物跡竈層序説明（B-B'）
1　黒褐　粘土ブロック（φ 10㎜ 程度）多量。粘性ややあり。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）少量。
3　黒褐　砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）やや多い。

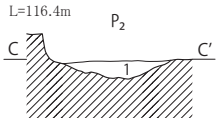


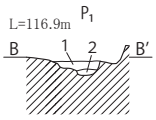
10 号竪穴建物跡層序説明（A-A'）
1　黒褐　As-C 多量。礫少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）極少量。締り強い。
2　黒褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 30㎜ 程度）極少量。

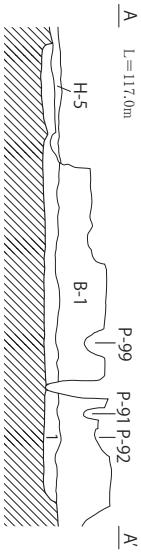
Fig.19　7・8・9・10 号竪穴建物跡

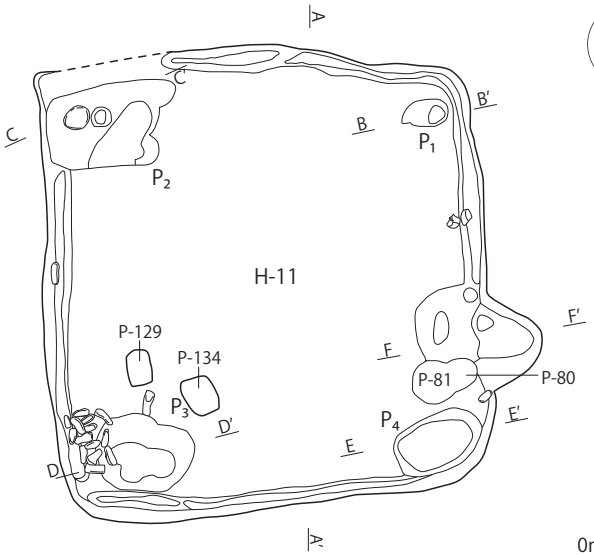
11 号竪穴建物跡 P_2 層序説（C-C'）
1　黒褐　As-C 極少量。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）少量。締りややあり。

11 号竪穴建物跡 P_1 層序説明（B-B'）
1　黒褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 30㎜ 程度）多量。



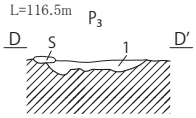




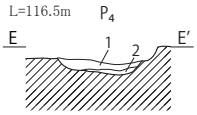


0m　1:60　2m

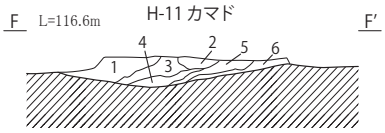
11 号竪穴建物跡層序説明（A-A'）
1　黒褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10 ㎜程度）少量。



11 号竪穴建物跡 P_3 層序説明
1　黒褐　As-C 少量。

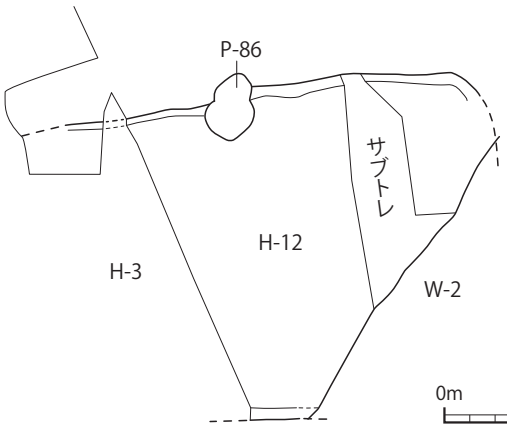


11 号竪穴建物跡 P_4 層序説明
1　暗褐　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）少量。
2　褐　　砂層土主体。



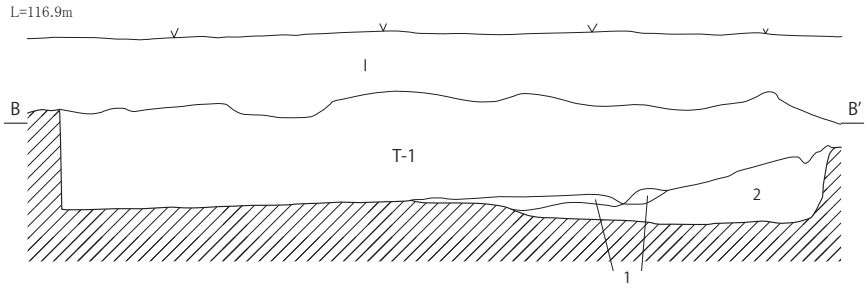
0m　1:30　1m

11 号竪穴建物跡　竈層序説明
1　黒褐　炭化物少量。
2　黒褐　細かい焼土極少量。
3　赤褐　焼土主体。
4　灰層
5　黒褐　焼土ブロック（φ 10㎜ 程度）多量。
6　黒褐　細かい焼土少量。

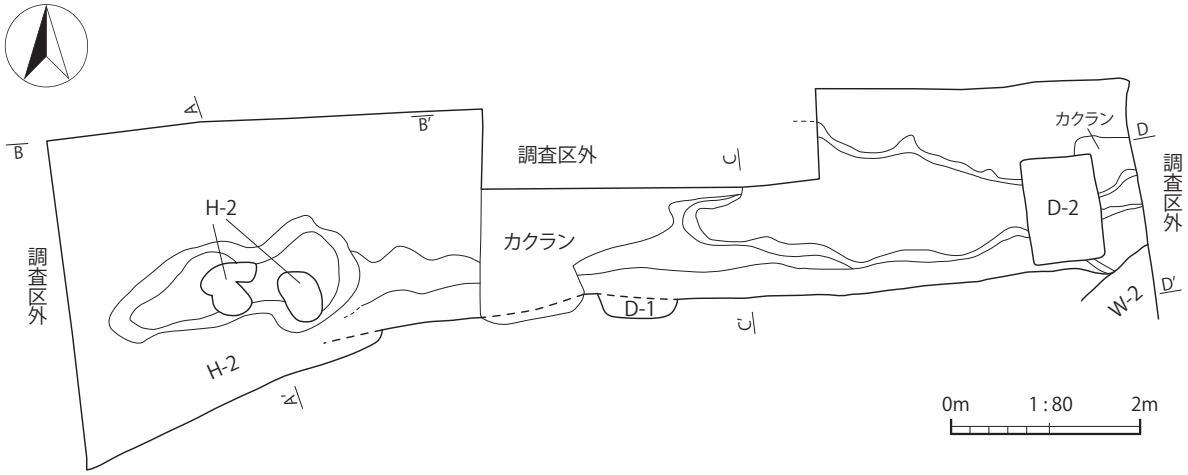


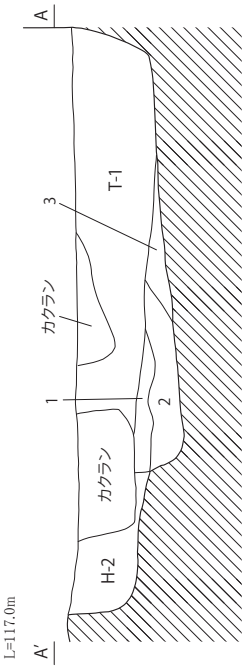
0m　1:60　2m

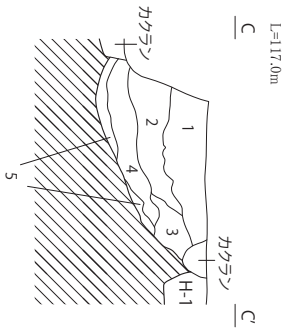
Fig.20　11・12 号竪穴建物跡

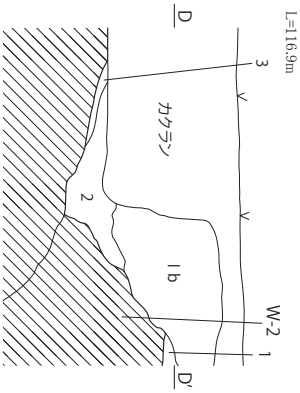


1 号溝跡層序説明（B-B’）
1　暗褐　砂層土少量。締り強い。
2　暗褐　砂層土少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 30㎜ 程度）少量。









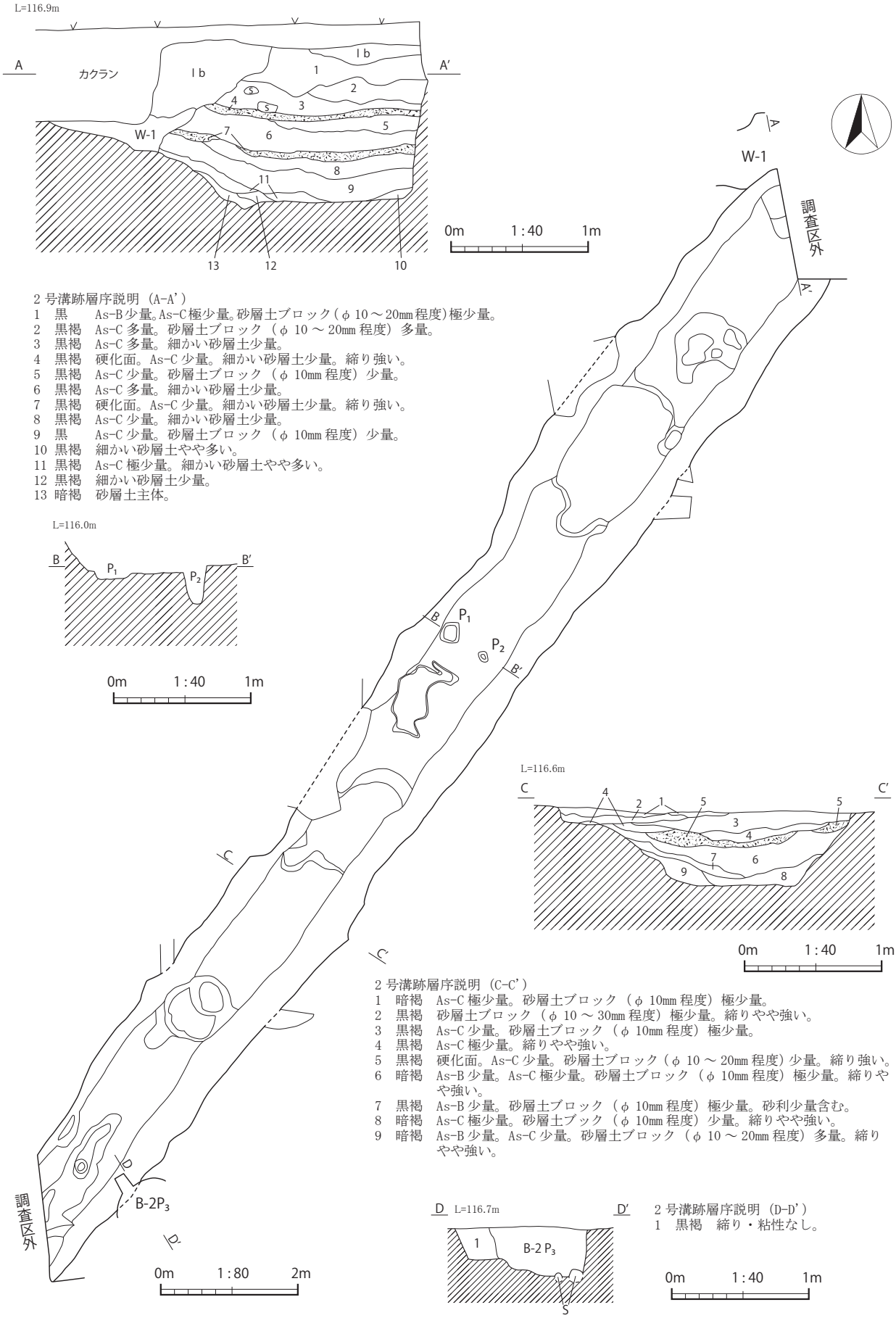
1 号溝跡層序説明（C-C’）
1　暗褐　As-C 少量。砂層ブロック（φ 10㎜ 程度）極少量。
2　暗褐　砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）若干。
3　にぶい黄褐　As-C 極少量。砂層土少量。
4　黒褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜ 程度）少量。
5　黒褐　砂層土ブロック（φ 20 ～ 30㎜ 程度）少量。

0m　1:40　1m

1 号溝跡層序説明（D-D’）
1　黒　　As-B 少量。As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜ 程度）極少量。
2　黒褐　As-C 多量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜ 程度）多量。
3　黒褐　細粒。細かい砂層土極少量。

1 号溝跡層序説明（A-A’）
1　黒褐　As-C 少量。
2　黒褐　As-C 少量。砂層土少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 30㎜ 程度）少量。締りややあり。
3　黒褐　As-C 少量。

Fig.21　1 号溝跡

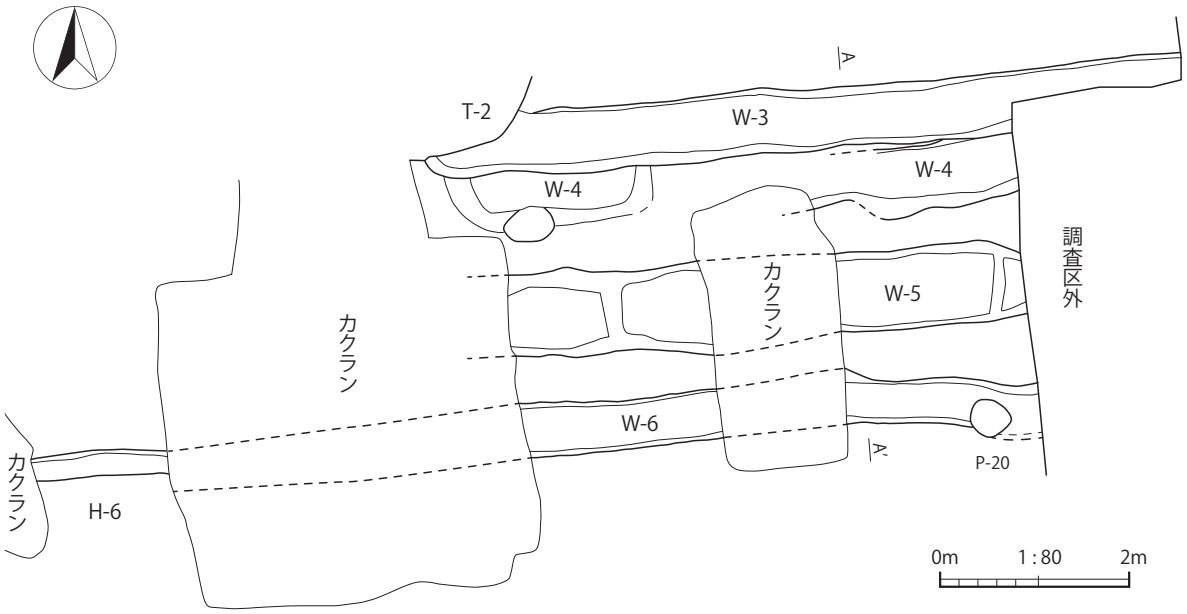


2 号溝跡層序説明（A-A’）
1　黒　　As-B 少量。As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜程度）極少量。
2　黒褐　As-C 多量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜ 程度）多量。
3　黒褐　As-C 多量。細かい砂層土少量。
4　黒褐　硬化面。As-C 少量。細かい砂層土少量。締り強い。
5　黒褐　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）少量。
6　黒褐　As-C 多量。細かい砂層土少量。
7　黒褐　硬化面。As-C 少量。細かい砂層土少量。締り強い。
8　黒褐　As-C 少量。細かい砂層土少量。
9　黒　　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）少量。
10 黒褐　細かい砂層土やや多い。
11 黒褐　As-C 極少量。細かい砂層土やや多い。
12 黒褐　細かい砂層土少量。
13 暗褐　砂層土主体。

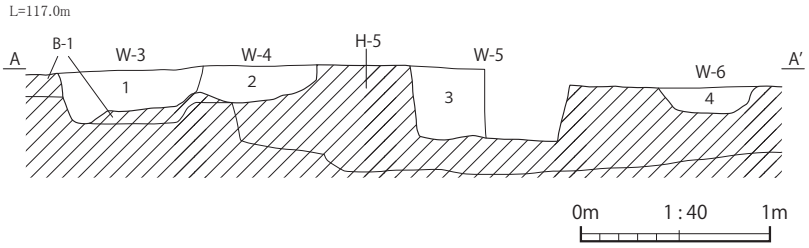
2 号溝跡層序説明（C-C’）
1　暗褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）極少量。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 30㎜ 程度）極少量。締りやや強い。
3　黒褐　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）極少量。
4　黒褐　As-C 極少量。締りやや強い。
5　黒褐　硬化面。As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜ 程度）少量。締り強い。
6　暗褐　As-B 少量。As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）極少量。締りやや強い。
7　黒褐　As-B 少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）極少量。砂利少量含む。
8　暗褐　As-C 極少量。砂層土ブック（φ 10㎜ 程度）少量。締りやや強い。
9　暗褐　As-B 少量。As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜ 程度）多量。締りやや強い。

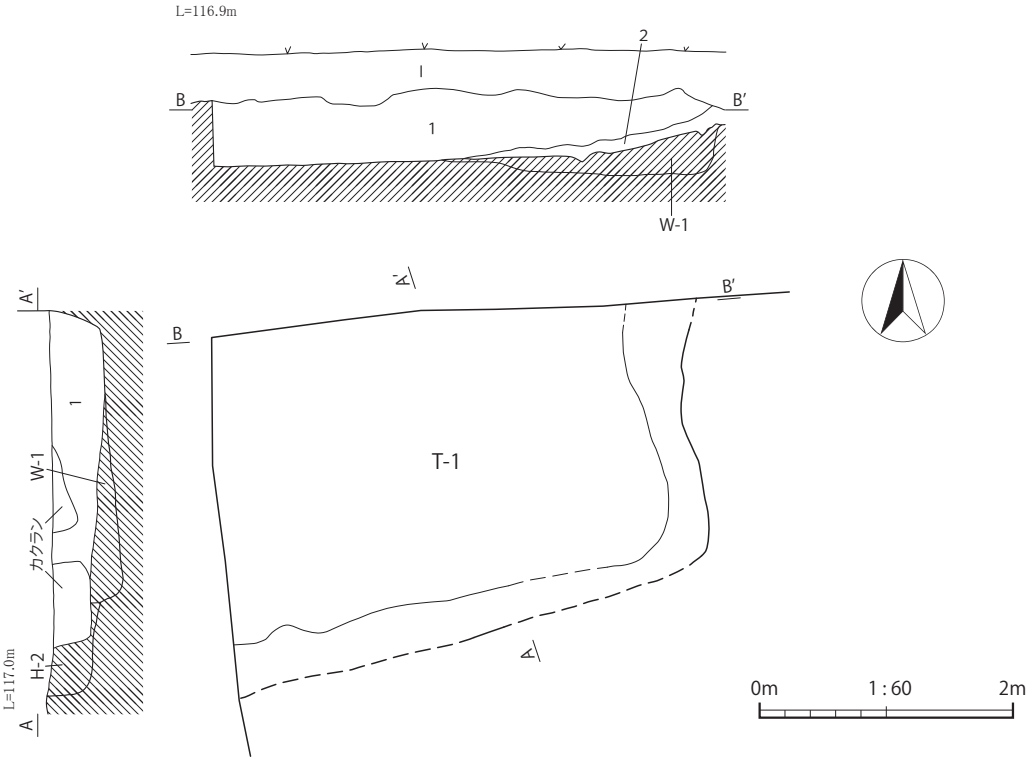
2 号溝跡層序説明（D-D’）
1　黒褐　締り・粘性なし。

Fig.22　2 号溝跡



3・4・5・6 号溝跡層序説明（A-A'）
1　黒褐　　As-B 多量。As-C 少量。
2　黒褐　　As-B 多量。As-C 少量。
3　黒褐　　As-B 多量。As-C 極少量。
4　灰黄褐 As-B 多量。As-C 極少量。



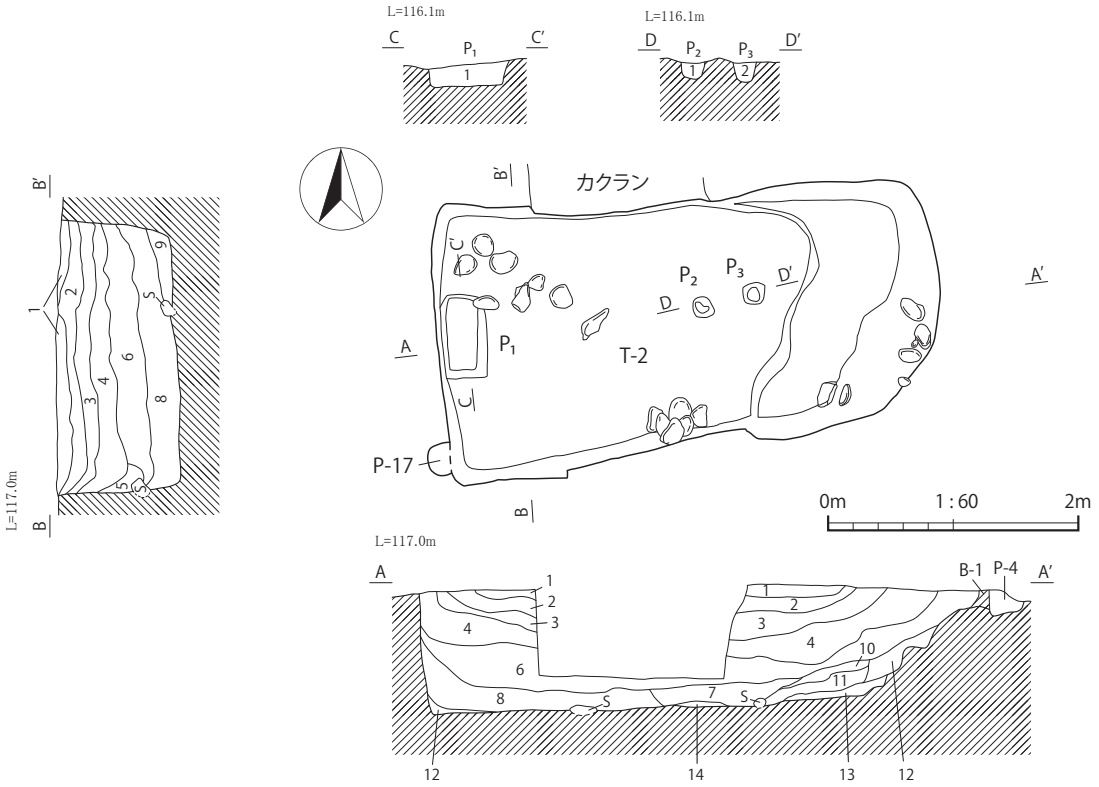


1 号竪穴状遺構層序説明（A-A'）（B-B'）
1　黒褐　As-B 少量。As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
2　黒褐　As-B 少量。

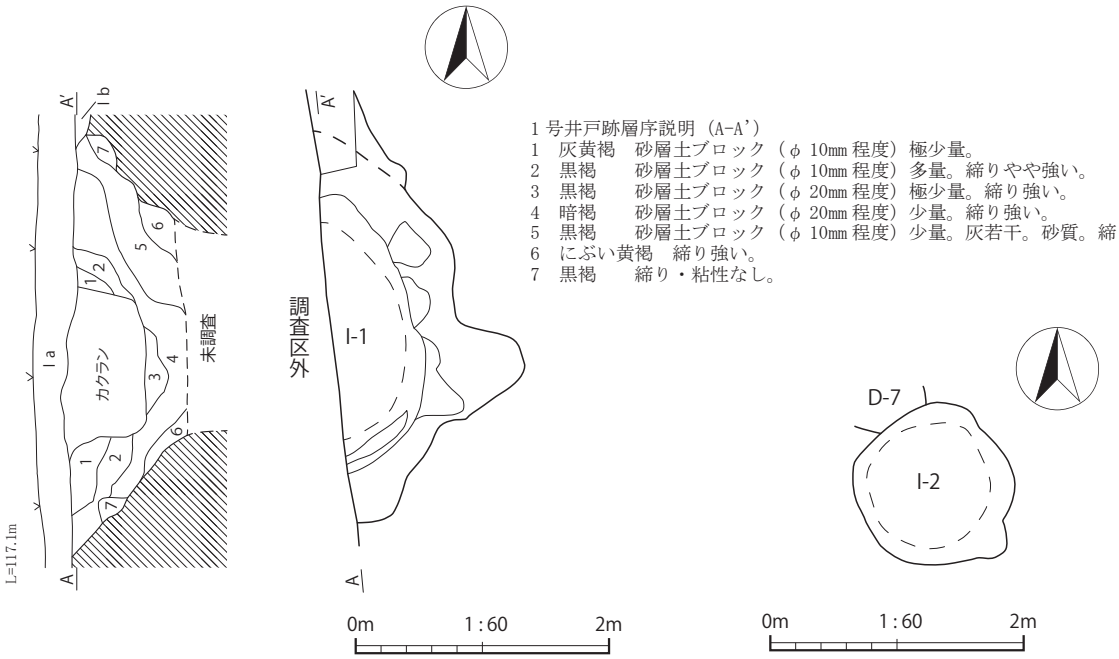
Fig.23　3・4・5・6 号溝跡、1 号竪穴状遺構

2 号竪穴状遺構 P_1 層序説明（C-C'）
1　褐　砂層土主体。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20mm 程度）多量。

2 号竪穴状遺構　P_2・P_3 層序説明（D-D'）
1　褐　砂層土主体。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。
2　褐　砂層土主体。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。



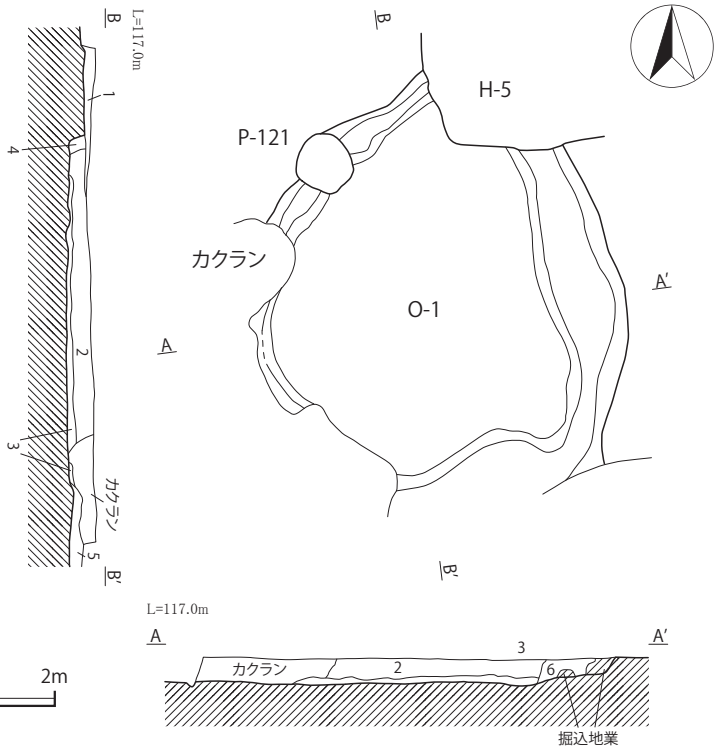
2 号竪穴状遺構層序説明（A-A'）（B-B'）
1　黒褐　As-B 少量。砂層ブロック（φ 10mm 程度）含む。
2　灰黄褐　As-B 少量。
3　黒褐　As-B 多量。
4　黒褐　As-B 少量。
5　灰黄褐　As-B 少量。
6　黒褐　As-B 多量（ブロック状）。締りややあり。
7　黒褐　As-B 少量。炭化物若干。
8　黒褐　As-B 少量。炭化物若干。
9　黒褐　砂質。
10　黒褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 30mm 程度）多量。締りややあり。
11　黒褐　砂層土多量。締り・粘性なし。
12　黒褐　砂層土極少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20mm）極少量。As-B 少量。
13　黒褐　As-B 少量。締り強い。
14　暗褐　砂層土多量。締り強い。

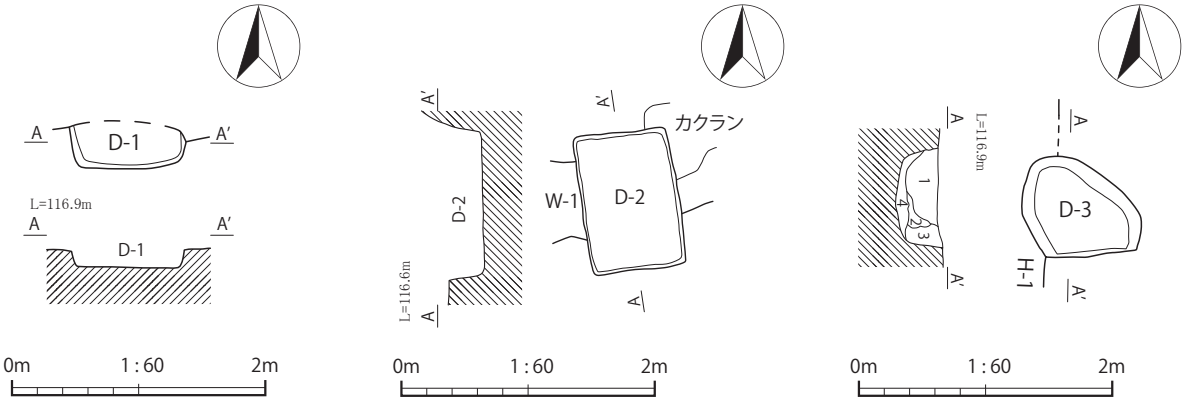


1 号井戸跡層序説明（A-A'）
1　灰黄褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）多量。締りやや強い。
3　黒褐　砂層土ブロック（φ 20mm 程度）極少量。締り強い。
4　暗褐　砂層土ブロック（φ 20mm 程度）少量。締り強い。
5　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。灰若干。砂質。締り強い。
6　にぶい黄褐　締り強い。
7　黒褐　締り・粘性なし。

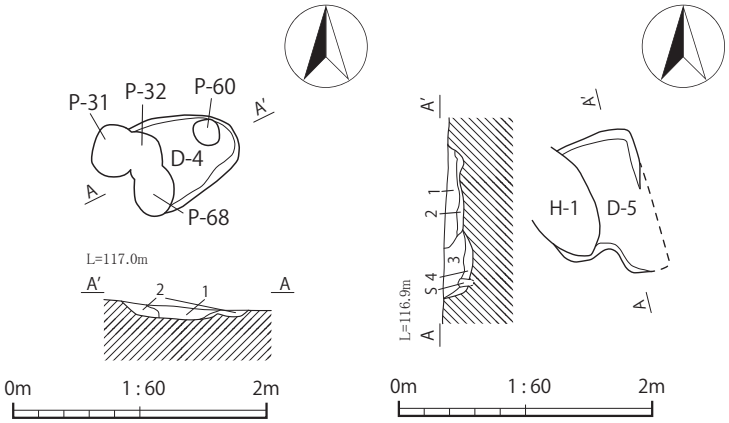
Fig.24　２号竪穴状遺構、１・２号井戸跡

1 号落ち込み層序説明
1　暗褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜ 程度）少量。
　　炭化物含む。締りややあり。
2　黒褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）
　　極少量。炭化物極少量。
3　黒褐　As-B 極少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）
　　少量。締りややあり。
4　黒褐　As-B 少量。
5　黒褐　As-B 少量。
6　暗褐　s-C 極少量。炭化物少量。





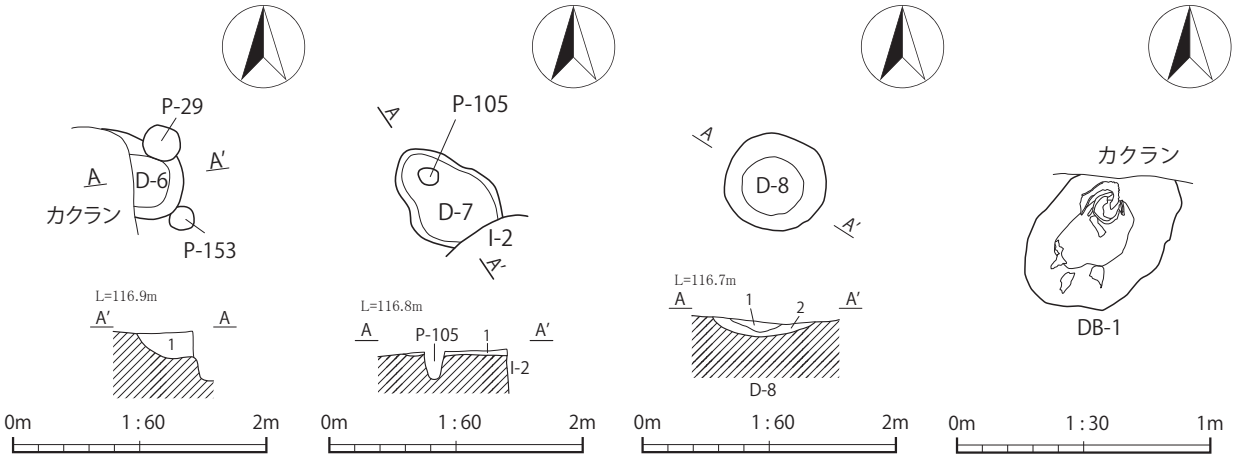
3 号土坑層序説明（A-A'）
1　黒褐　As-C 多量。炭化物・砂層土ブロック（φ 5㎜ 程度）
　　極少量。
2　黒褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）若干。
3　黒褐　As-C 極少量。
4　黒褐　As-C 極少量。



4 号土坑層序説明（A-A'）
1　暗褐　As-C 少量。砂層ブロック（φ 10㎜ 程度）極少量。
　　締りややあり。
2　褐　　As-C 少量。砂層ブロック（φ 10㎜ 程度）少量。
　　締りややあり。

5 号土坑層序説明（A-A'）
1　黒褐　砂層土ブロック（φ 10㎜ 程度）少量。As-C 少量。
　　締り強い。
2　黒褐　As-C 極少量。締り強い。
3　暗褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 20㎜ 程度）多量。締り強い。
　　As-C 多量。
4　黒褐　As-C 少量。締りやや強い。

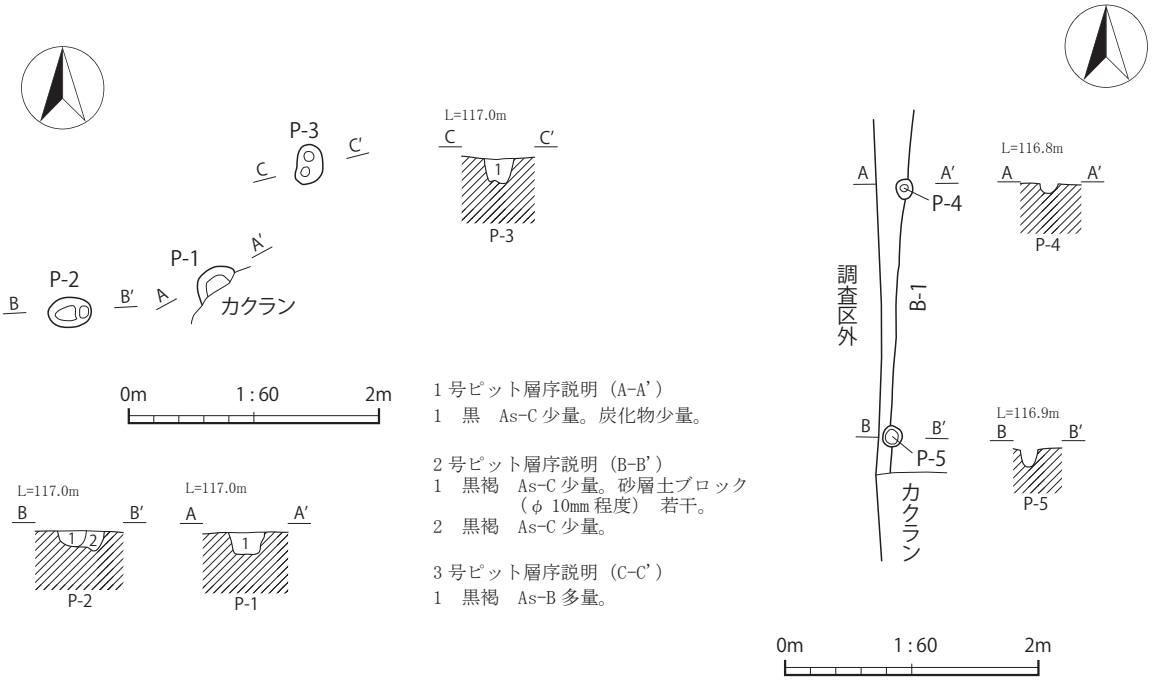
Fig.25　1 号落ち込み、1 ～ 5 号土坑



6 号土坑層序説明（A-A'）
1　黒褐　As-C 少量。炭化物少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。

7 号土坑層序説明（A-A'）
1　黒褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20mm 程度）少量。締りややあり。

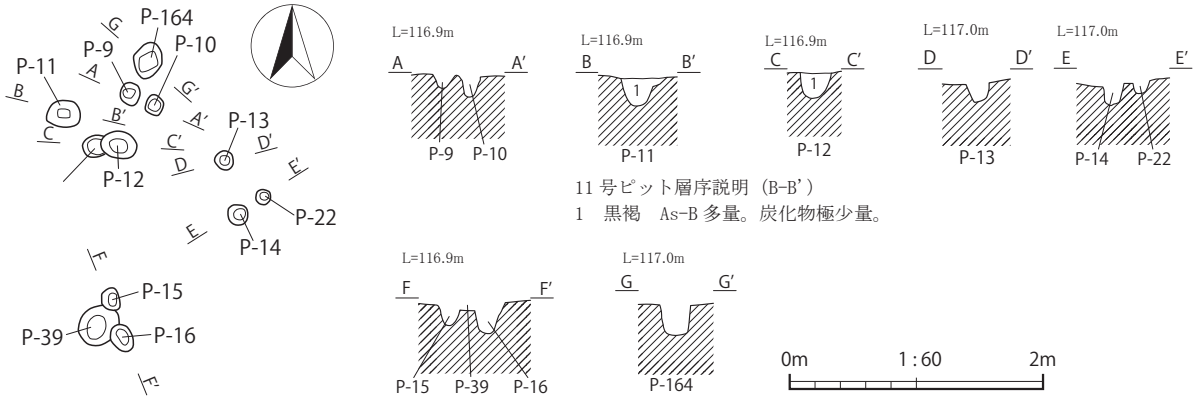
8 号土坑層序説明（A-A'）
1　黒褐　　As-B 極少量。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。



1 号ピット層序説明（A-A'）
1　黒　As-C 少量。炭化物少量。

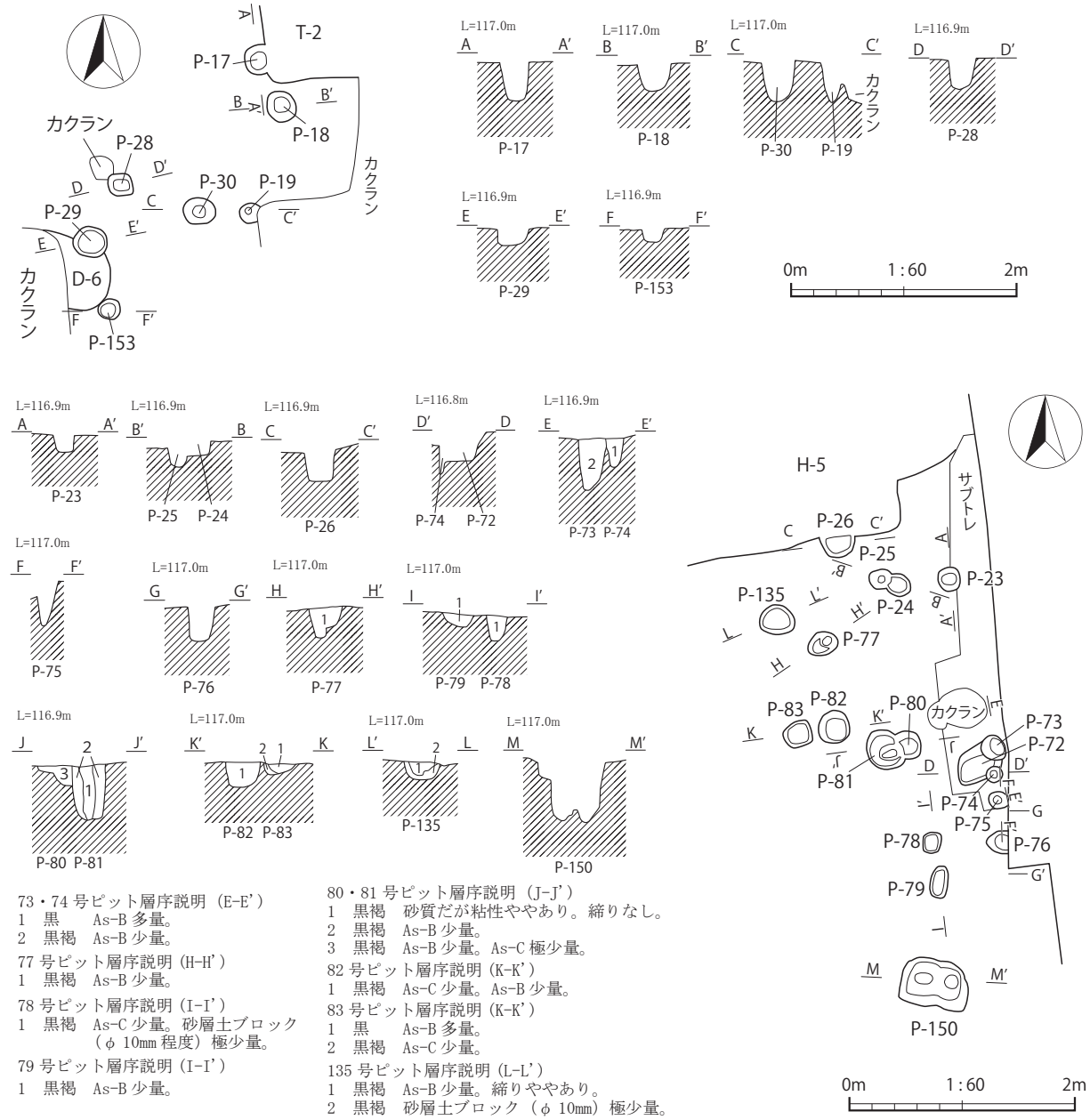
2 号ピット層序説明（B-B'）
1　黒褐　As-C 少量。砂層土ブロック
（φ 10mm 程度）　若干。
2　黒褐　As-C 少量。

3 号ピット層序説明（C-C'）
1　黒褐　As-B 多量。



11 号ピット層序説明（B-B'）
1　黒褐　As-B 多量。炭化物極少量。

Fig.26　6 ～ 8 号土坑、1 号土壙墓、1 ～ 5・9 ～ 16・22・39・164 号ピット



73・74 号ピット層序説明（E-E'）
1　黒　　As-B 多量。
2　黒褐　As-B 少量。

77 号ピット層序説明（H-H'）
1　黒褐　As-B 少量。

78 号ピット層序説明（I-I'）
1　黒褐　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。

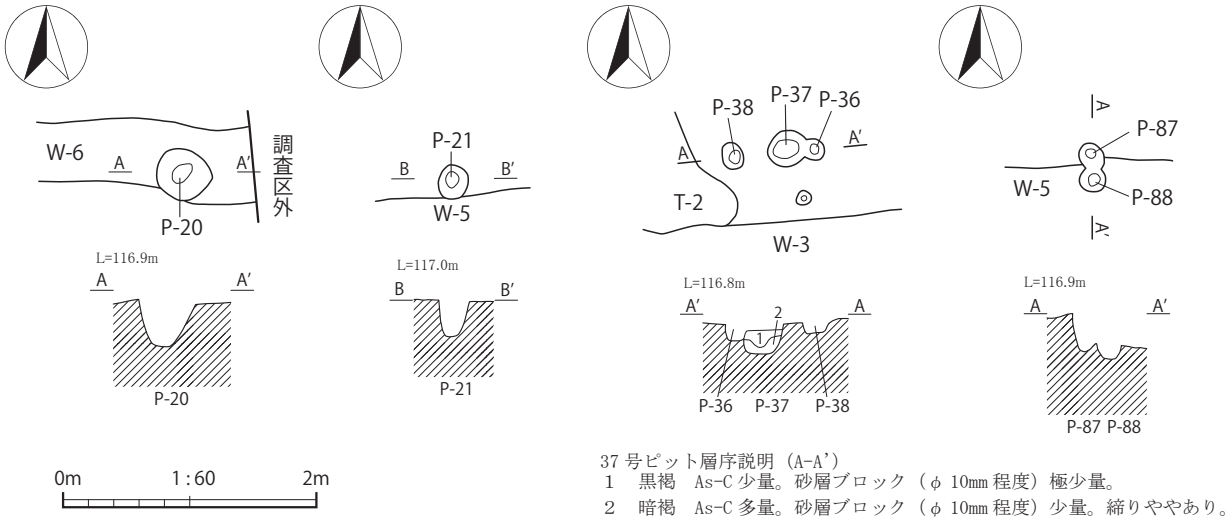
79 号ピット層序説明（I-I'）
1　黒褐　As-B 少量。

80・81 号ピット層序説明（J-J'）
1　黒褐　砂質だが粘性ややあり。締りなし。
2　黒褐　As-B 少量。
3　黒褐　As-B 少量。As-C 極少量。

82 号ピット層序説明（K-K'）
1　黒褐　As-C 少量。As-B 少量。

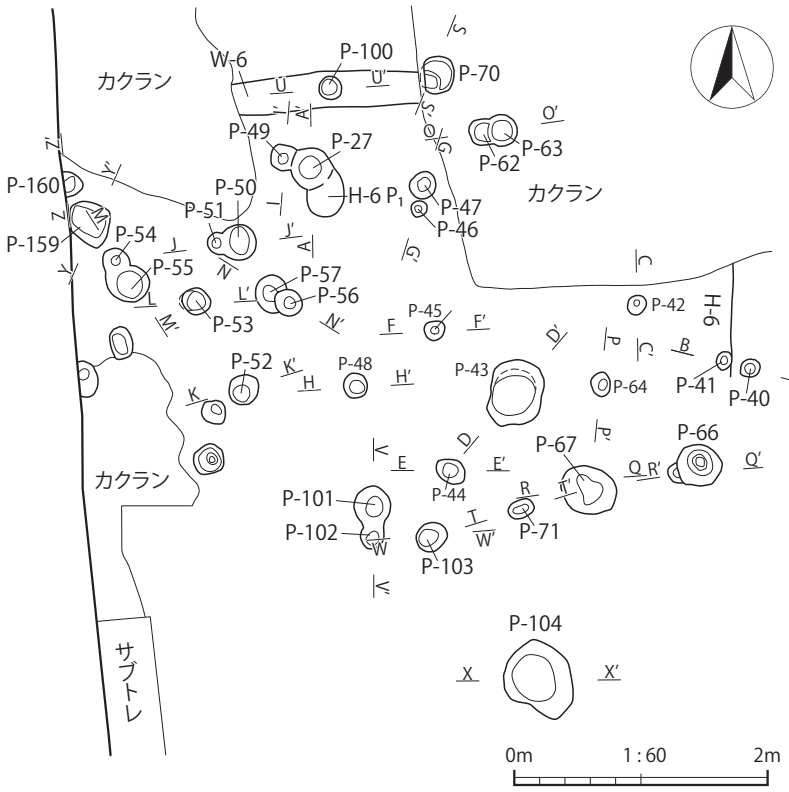
83 号ピット層序説明（K-K'）
1　黒　　As-B 多量。
2　黒褐　As-C 少量。

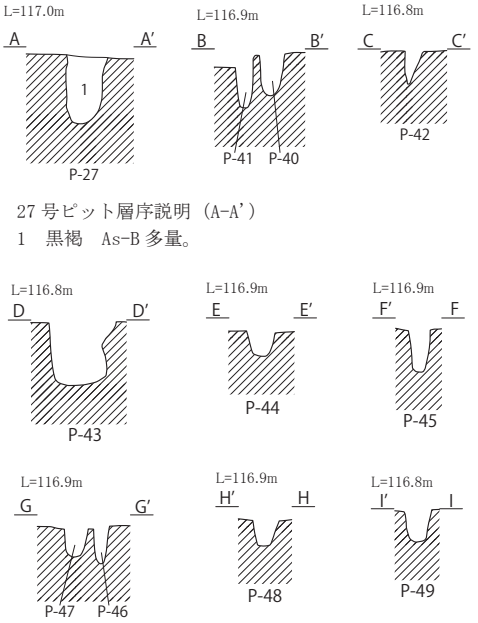
135 号ピット層序説明（L-L'）
1　黒褐　As-B 少量。締りややあり。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm）極少量。



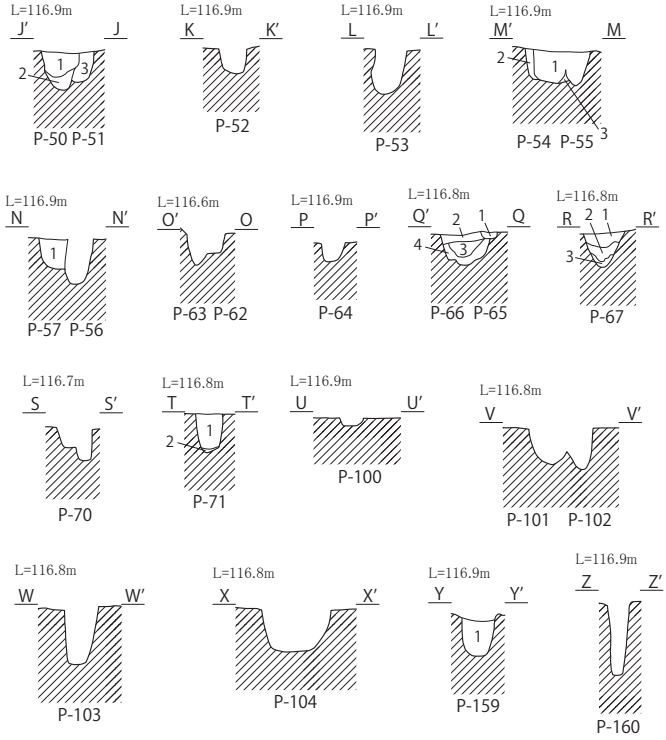
37 号ピット層序説明（A-A'）
1　黒褐　As-C 少量。砂層ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
2　暗褐　As-C 多量。砂層ブロック（φ 10mm 程度）少量。締りややあり。

Fig.27　17 ～ 21・23 ～ 26・28 ～ 30・36 ～ 38・72 ～ 83・87・88・135・150・153 号ピット





27 号ピット層序説明（A-A’）
1　黒褐　As-B 多量。



50、51 号ピット層序説明（J-J’）
1　黒褐　As-B 多量。
2　黒褐　砂層ブロック（φ 10mm）少量。締りややあり。
3　黒褐　As-C 少量。

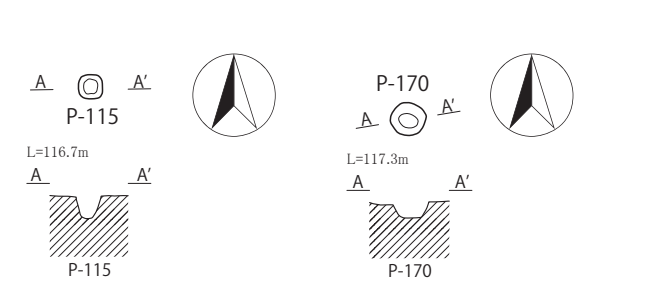
54、55 号ピット層序説明（M-M’）
1　　As-B 主体（二次堆積）。
2　黒褐　砂層ブロック極少量。締りややあり。
3　黒褐　砂層土多量。締りややあり。

57 号ピット層序説明（N-N’）
1　黒褐　As-B 少量。締りややあり。

65、66 号ピット層序説明（Q-Q’）
1　　As-B 純層。二次堆積。
2　暗褐　As-C 多量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。締りややあり。
3　黒褐　As-C 極少量。
4　暗褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 20mm 程度）少量。締りややあり。

67 号ピット層序説明（R-R’）
1　黒褐　As-C 極少量。
2　黒褐　締り・粘性なし。
3　暗褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）多量。

71 号ピット層序説明（T-T’）
1　黒褐　As-B 少量。締りややあり。
2　褐　　締り・粘性なし。



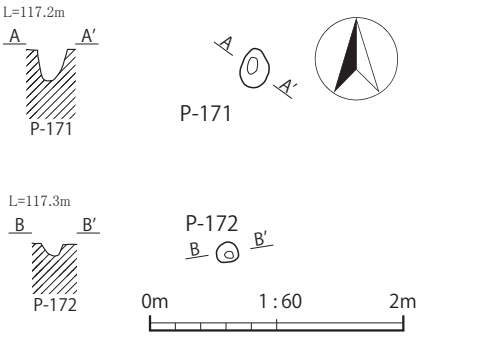
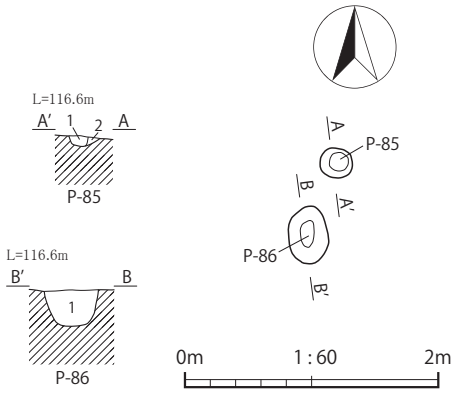
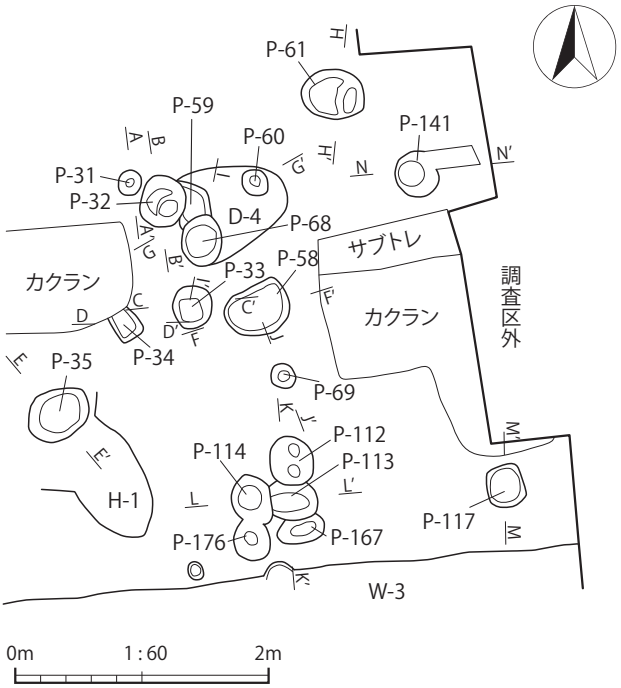


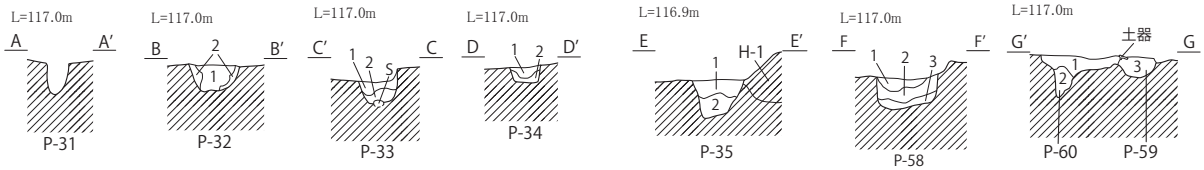
Fig.28　27・40 ～ 57・62 ～ 67・70・71・100 ～ 104・115・159・160・170 ～ 172 号ピット





85 号ピット層序説明（A-A’）
1　黒　　灰多量。
2　黒褐　As-C 少量。砂層土少量。

86 号ピット層序説明（B-B’）
1　黒褐　炭化物極少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20mm 程度）少量。



32 号ピット層序説明（B-B’）
1　黒褐　As-B 多量。As-C 少量。
2　暗褐　As-C 少量。砂層ブロック（φ 10mm 程度）少量。

33 号ピット層序説明（C-C’）
1　黒褐　砂層ブロック（φ 10mm 程度）少量。
2　暗褐　砂層ブロック（φ 10mm 程度）極少量。

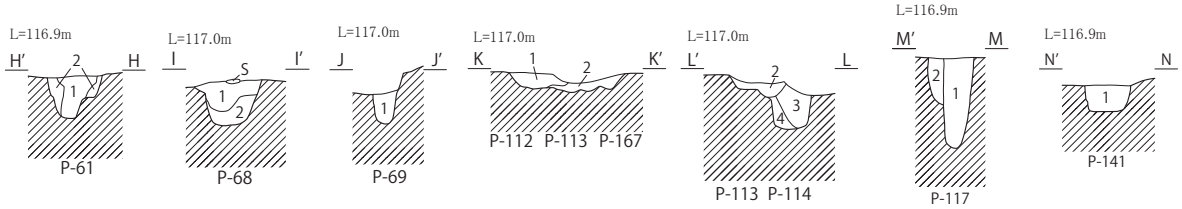
34 号ピット層序説明（D-D’
1　黒褐　砂層ブロック（φ 10mm 程度）少量。As-C 少量。
2　暗褐　砂層ブロック（φ 10mm 程度）少量。As-C 少量。

35 号ピット層序説明（E-E’）
1　黒　　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
2　黒褐　As-C 極少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）若干。

58 号ピット層序説明（F-F’）
1　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
2　暗褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。
3　灰黄褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。

59 号ピット、60 号ピット層序説明（G-G’）
1　黒褐　As-C 少量。砂層土ブロック（φ 10 ～ 20mm 程度）少量。締りややあり。
2　黒褐　締り・粘性なし。
3　暗褐　As-C 極少量。締りややあり。（P-59 覆土）

61 号ピット層序説明（H-H’）
1　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。締りややあり。As-C 極少量。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。締り強い。



68 号ピット層序説明（I-I’）
1　黒褐　As-C 少量。
2　黒褐　締り・粘性なし。

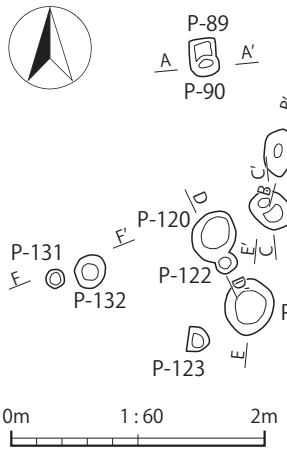
69 号ピット層序説明（J-J’）
1　暗褐　締り・粘性なし。

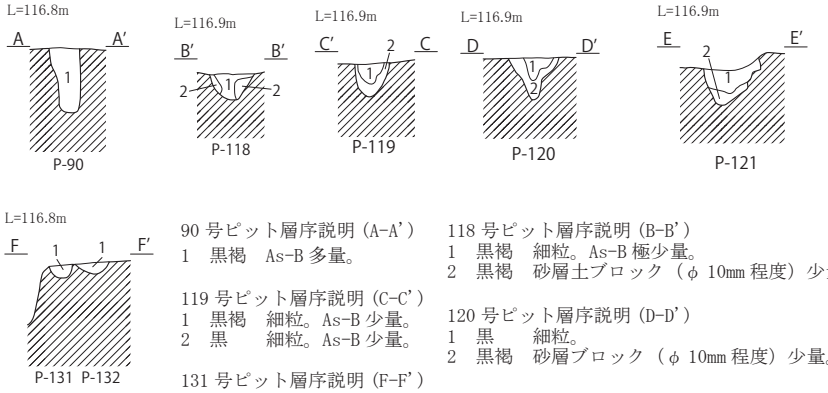
112・113・114・167 号ピット層序説明（K-K’）（L-L’）
1　黒　　As-B 多量。
2　黒褐　As-C 少量。砂層土少量。
3　黒褐　As-C 少量。炭化物少量。
4　黒褐　砂層土少量。

117 号ピット層序説明（M-M’）
1　黒褐　細粒。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。炭化物極少量。
2　黒褐　砂層土多量。締りややあり。

141 号ピット層序説明（N-N’）
1　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。

Fig.29　31 ～ 35・58 ～ 61・68・69・85・86・112 ～ 114・117・141・167 号ピット





90 号ピット層序説明（A-A'）
1　黒褐　As-B 多量。

118 号ピット層序説明（B-B'）
1　黒褐　細粒。As-B 極少量。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。

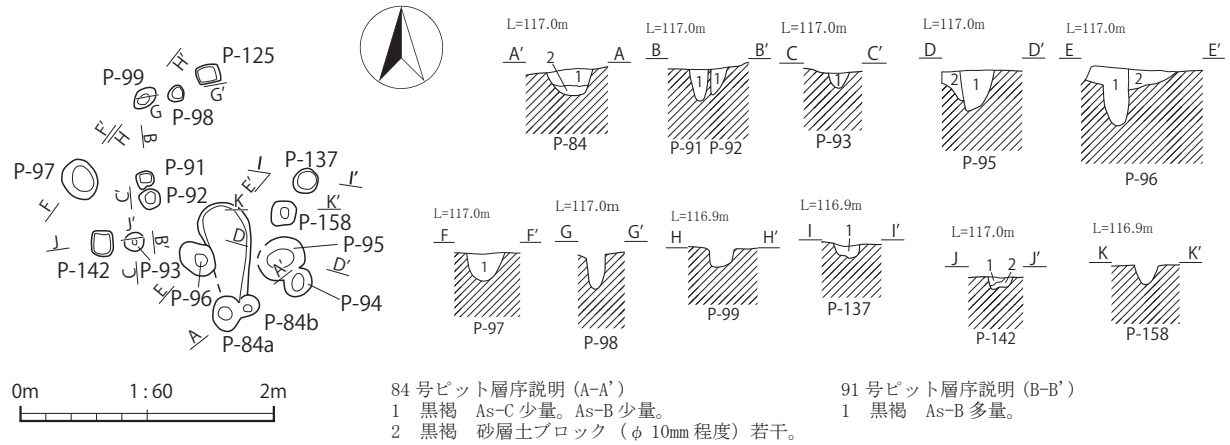
119 号ピット層序説明（C-C'）
1　黒褐　細粒。As-B 少量。
2　黒　　細粒。As-B 少量。

120 号ピット層序説明（D-D'）
1　黒　　細粒。
2　黒褐　砂層ブロック（φ 10mm 程度）少量。

131 号ピット層序説明（F-F'）
1　灰黄褐　砂層ブロック（φ 10 ～ 20mm 程度）少量。As-C 極少量。締り強い。

132 号ピット層序説明（F-F'）
1　灰黄褐　砂層ブロック（φ 10 ～ 30mm 程度）多量。As-C 少量。締り強い。

121 号ピット層序説明（E-E'）
1　黒褐　砂礫少量。細粒。
2　黒褐　細粒。



84 号ピット層序説明（A-A'）
1　黒褐　As-C 少量。As-B 少量。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）若干。

91 号ピット層序説明（B-B'）
1　黒褐　As-B 多量。

92 号ピット層序説明（C-C'）
1　黒褐　As-B 多量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。

93 号ピット層序説明（C-C'）
1　黒褐　As-B 少量。締りややあり。

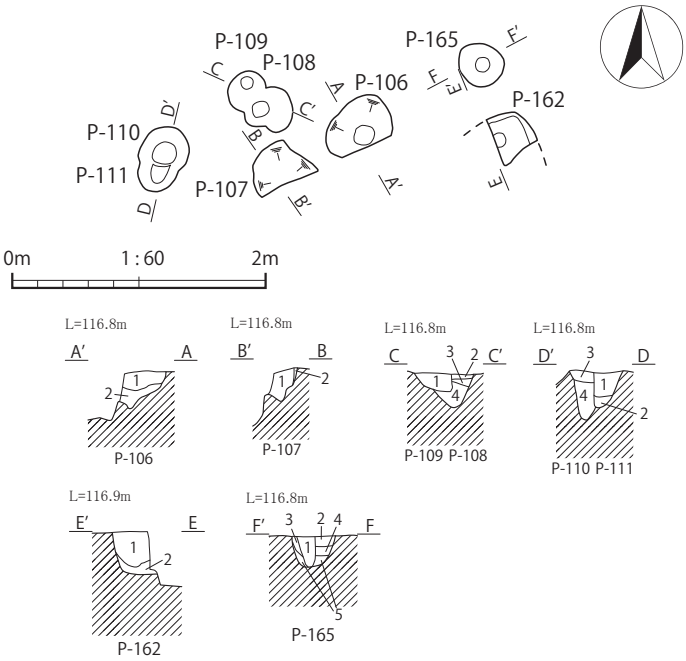
95 号ピット層序説明（D-D'）
1　黒　　As-B 多量。炭化物少量。
2　黒褐　砂層土少量。As-B 少量。

96 号ピット層序説明（E-E'）
1　黒褐　As-C 極少量。As-B 少量。
2　暗褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 20mm 程度）少量。As-C 少量。締りややあり。

137 号ピット層序説明（I-I'）
1　暗褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。締りややあり。

97 号ピット層序説明（F-F'）
1　黒褐　As-B 少量。締りややあり。

142 号ピット層序説明（J-J'）
1　黒褐　細粒。
2　黒褐　砂層土ブロック若干。締りややあり。



106 号ピット層序説明（A-A'）
1　黒褐　As-C 少量。As-B 極少量。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。

107 号ピット層序説明（B-B'）
1　暗褐　As-B 極少量。
2　暗褐　As-B 極少量。砂層土少量。

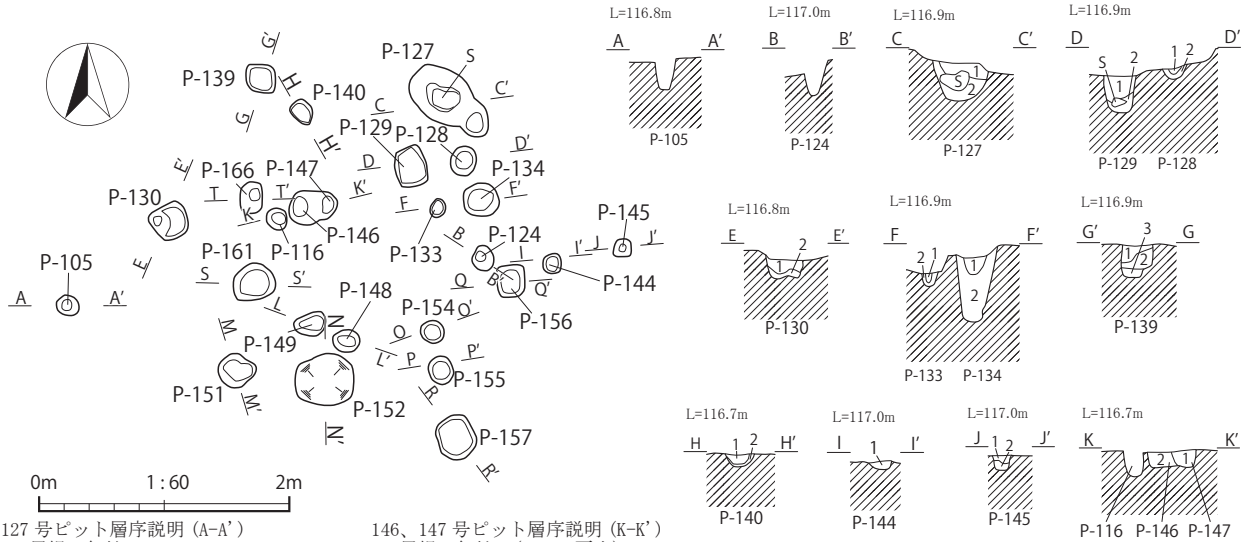
108、109 号ピット層序説明（C-C'）
1　黒褐　砂層土ブロック多量。締りややあり。P-109 覆土。
2　黒褐　細粒。P-108 覆土。
3　暗褐　砂層土主体。P-108 覆土。
4　黒褐　砂層土多量。P-108 覆土。

110、111 号ピット層序説明（D-D'）
1　黒褐　細粒。中位に薄い灰層。
2　黒褐　砂層土多量。
3　黒褐　細粒。
4　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。

162 号ピット層序説明（E-E'）
1 暗褐 As-C 多量。
2 黒褐 As-C 多量。締り強い。

165 号ピット層序説明（F-F'）
1　黒褐　細粒。締り・粘性なし。
2　黒褐　As-B 極少量。
3　黒褐　砂層ブロック（φ 10mm 程度）少量。締りややあり。
4　黒褐　細粒。締り・粘性なし。
5　黒褐　細粒。砂層土極少量。締りあり。

Fig.30　84・89 ～ 99・106 ～ 111・118 ～ 123・131・132・137・142・158・162・165 号ピット



127 号ピット層序説明（A-A'）
1　黒褐　細粒。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10 ～ 20mm）少量。

128 号ピット層序説明（B-B'）
1　黒　細粒。
2　黒　砂層土ブロック少量。締りややあり。

129 号ピット層序説明（B-B'）
1　黒　細粒。砂礫少量。
2　黒褐　砂礫少量。締りややあり。

130 号ピット層序説明（E-E'）
1　黒褐　As-B 少量。
2　黒褐　砂層土若干。

133 号ピット層序説明（F-F'）
1　黒　細粒。
2　黒褐　砂層土ブロック少量。締りあり。

134 号ピット層序説明（F-F'）
1　黒褐　As-C 少量。
2　黒褐　細粒。

139 号ピット層序説明（G-G'）
1　黒褐　砂層土多量。
2　黒褐　As-B 少量。
3　黒褐　締り・粘性なし。

140 号ピット層序説明（H-H'）
1　黒　細粒。As-B 少量。
2　黒褐　細粒。

144 号ピット層序説明（I-I'）
1　黒褐　B-1 覆土か。

145 号ピット層序説明（J-J'）
1　黒　細粒。As-B 少量。
2　黒褐　細粒。As-B 少量。

146、147 号ピット層序説明（K-K'）
1　黒褐　細粒。（P-147 覆土）
2　黒褐　細粒。（P-146 覆土）

148 号ピット層序説明（L-L'）
1　黒褐　細粒。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10 mm 程度）極少量。

149 号ピット層序説明（L-L'）
1　黒褐　As-C 少量。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。締りややあり。

151 号ピット層序説明（M-M'）
1　黒褐　細粒。
2　黒褐　やや細粒。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。

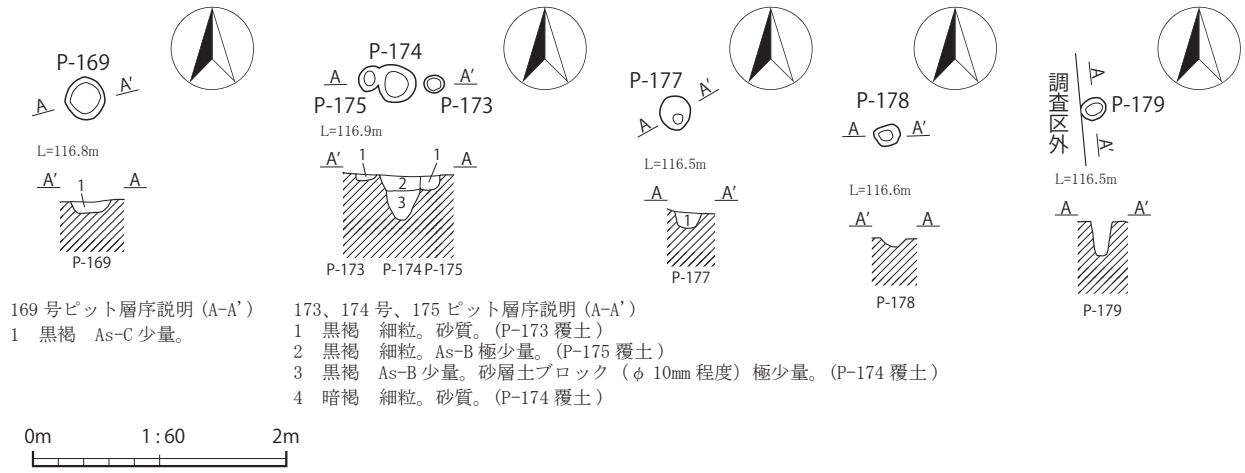
152 号ピット層序説明（N-N'）
1　黒褐　細粒。
2　黒褐　細かい砂層土少量。

155 号ピット層序説明（P-P'）
1　黒褐　細粒。As-B 少量。
2　黒褐　As-B 少量。

156 号ピット層序説明（Q-Q'）
1　黒褐　細粒。
2　黒褐　As-B 少量。

157 号ピット層序説明（R-R'）
1　黒褐　As-B 少量。
2　黒褐　As-B 少量。細粒。

161 号ピット層序説明（S-S'）
1　黒褐　As-C 極少量。
2　黒褐　細かい砂層土少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。
3　黒褐　砂層土ブロック（φ 10mm 程度）少量。締りややあり。
4　暗褐　砂層土多量。



169 号ピット層序説明（A-A'）
1　黒褐　As-C 少量。

173、174 号、175 ピット層序説明（A-A'）
1　黒褐　細粒。砂質。（P-173 覆土）
2　黒褐　細粒。As-B 極少量。（P-175 覆土）
3　黒褐　As-B 少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。（P-174 覆土）
4　暗褐　細粒。砂質。（P-174 覆土）

Fig.31　105・116・124・127 ～ 130・133・134・139・140・144 ～ 149・151・152・154 ～ 157・161・166・169・173 ～ 175・177 ～ 179 号ピット

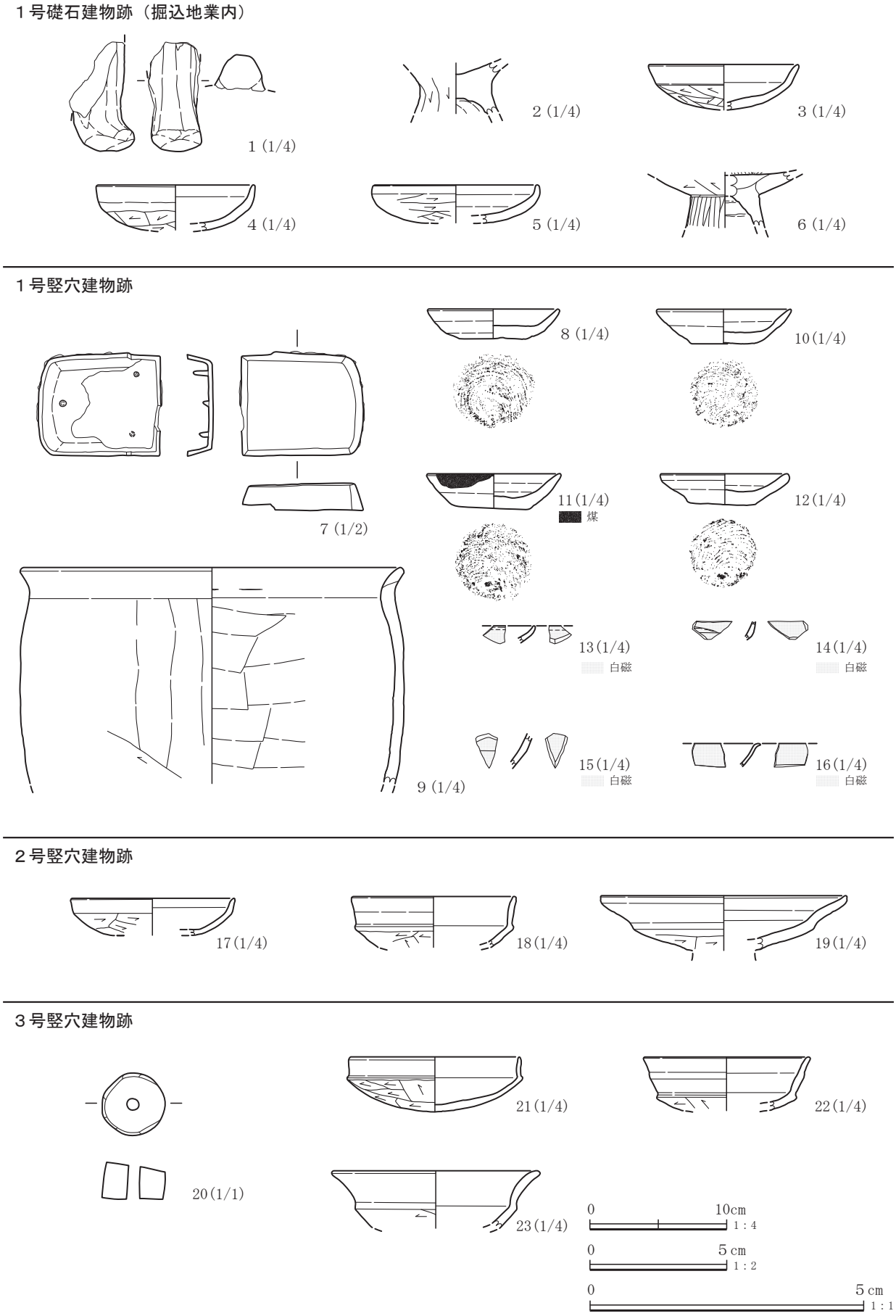


Fig.32　出土遺物（1号礎石建物跡、1～3号竪穴建物跡）

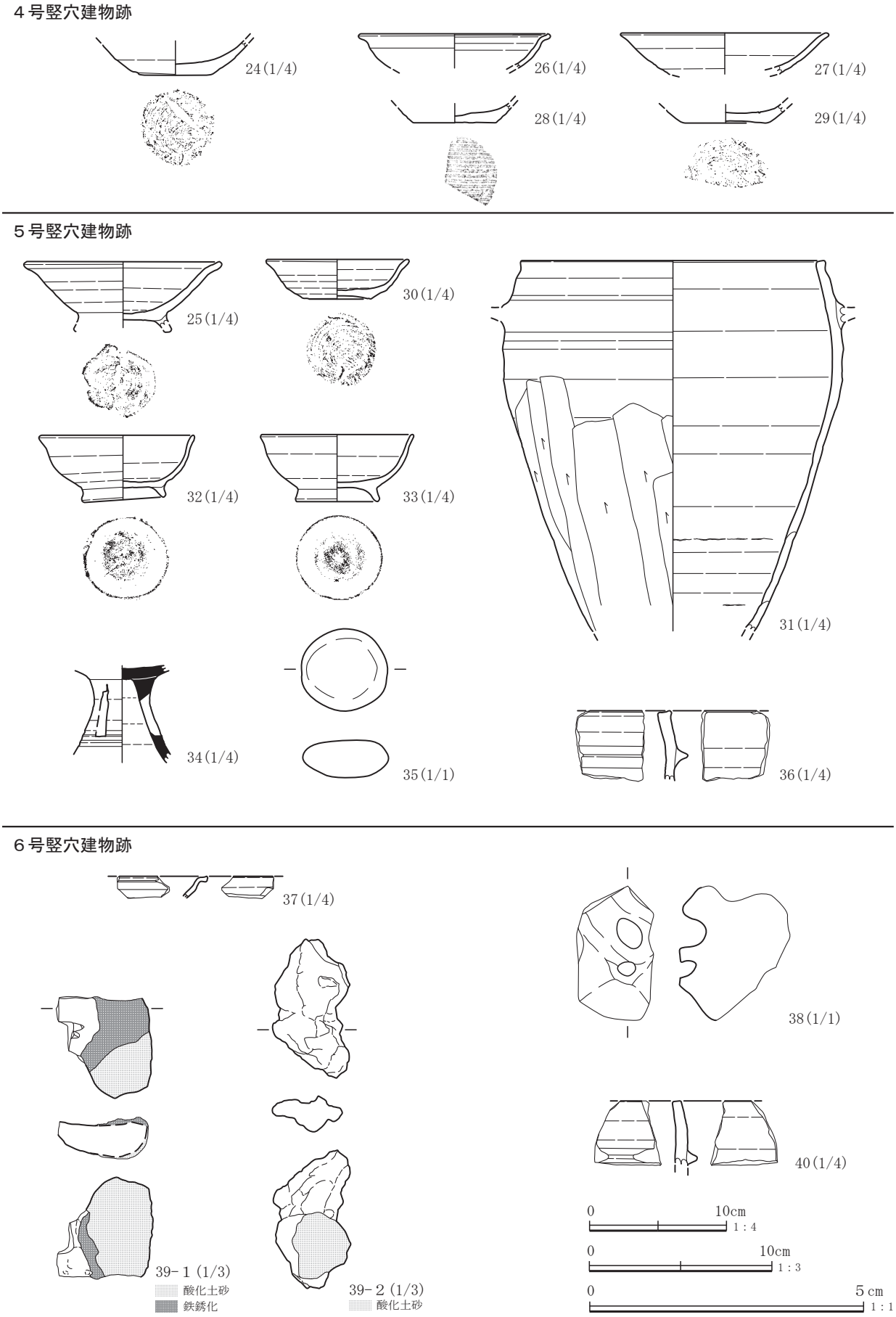


Fig.33　出土遺物（４～６号竪穴建物跡）

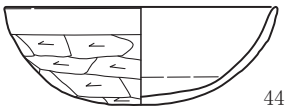
10 号竪穴建物跡

41(1/4)
黒色処理

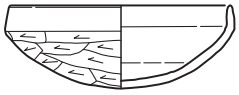
42(1/4)

43(1/4)
黒色処理

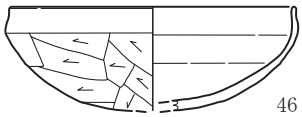
11 号竪穴建物跡



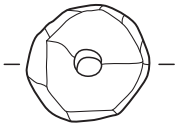
44(1/4)



45(1/4)

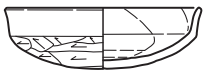


46(1/4)

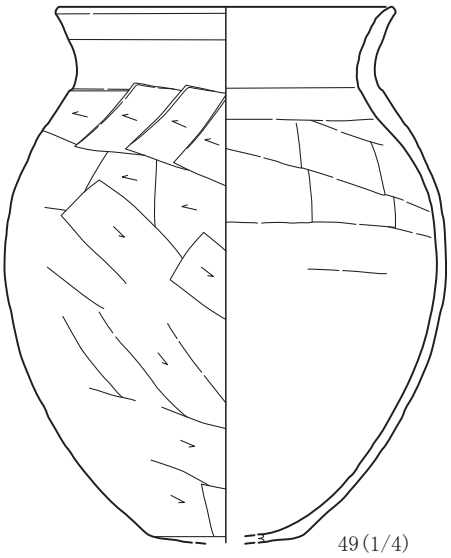


47(1/1)

12 号竪穴建物跡

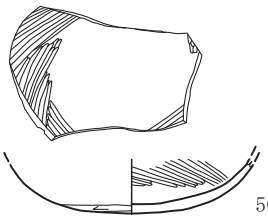


48(1/4)

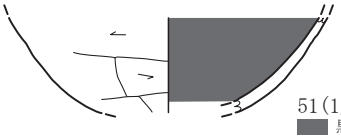


49(1/4)

1 号溝跡



50(1/4)

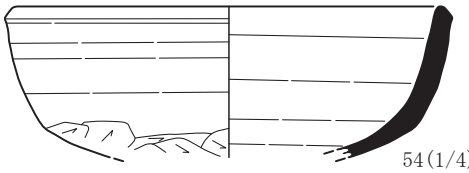


51(1/4)
黒色処理

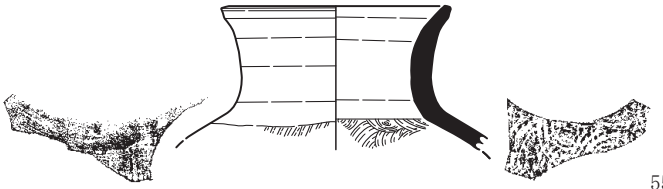
2 号溝跡

52(1/4)

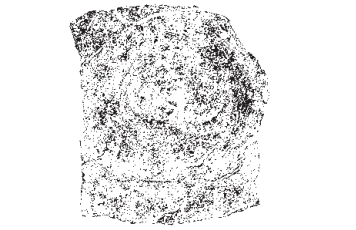
53(1/4)



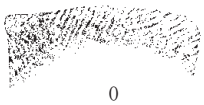
54(1/4)



55(1/4)



56(1/4)



0 10cm
1 : 4

Fig.34　出土遺物（10・11 号竪穴建物跡、１・２号溝跡）

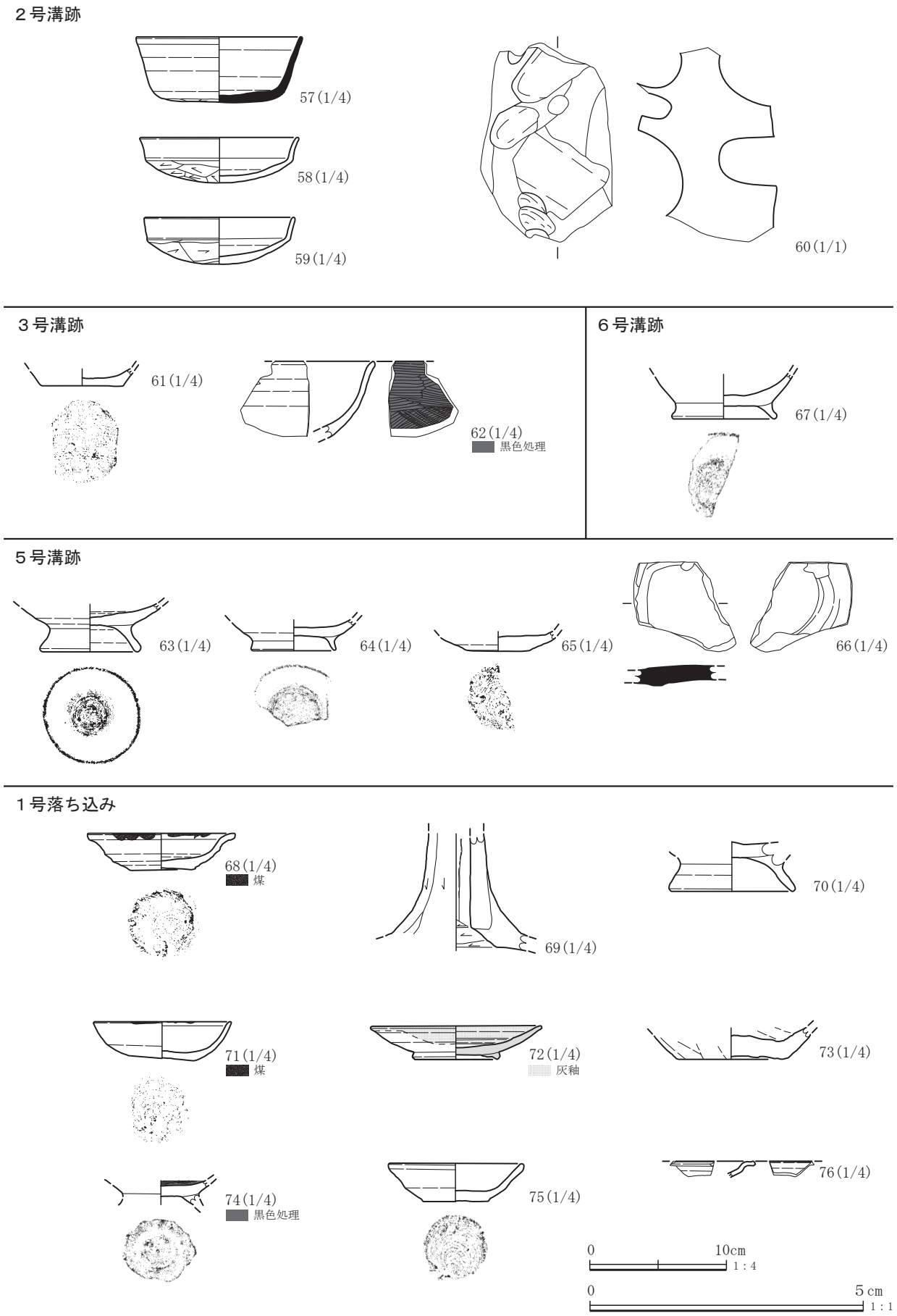


Fig.35　出土遺物（２・３・５・６号溝跡、１号落ち込み）

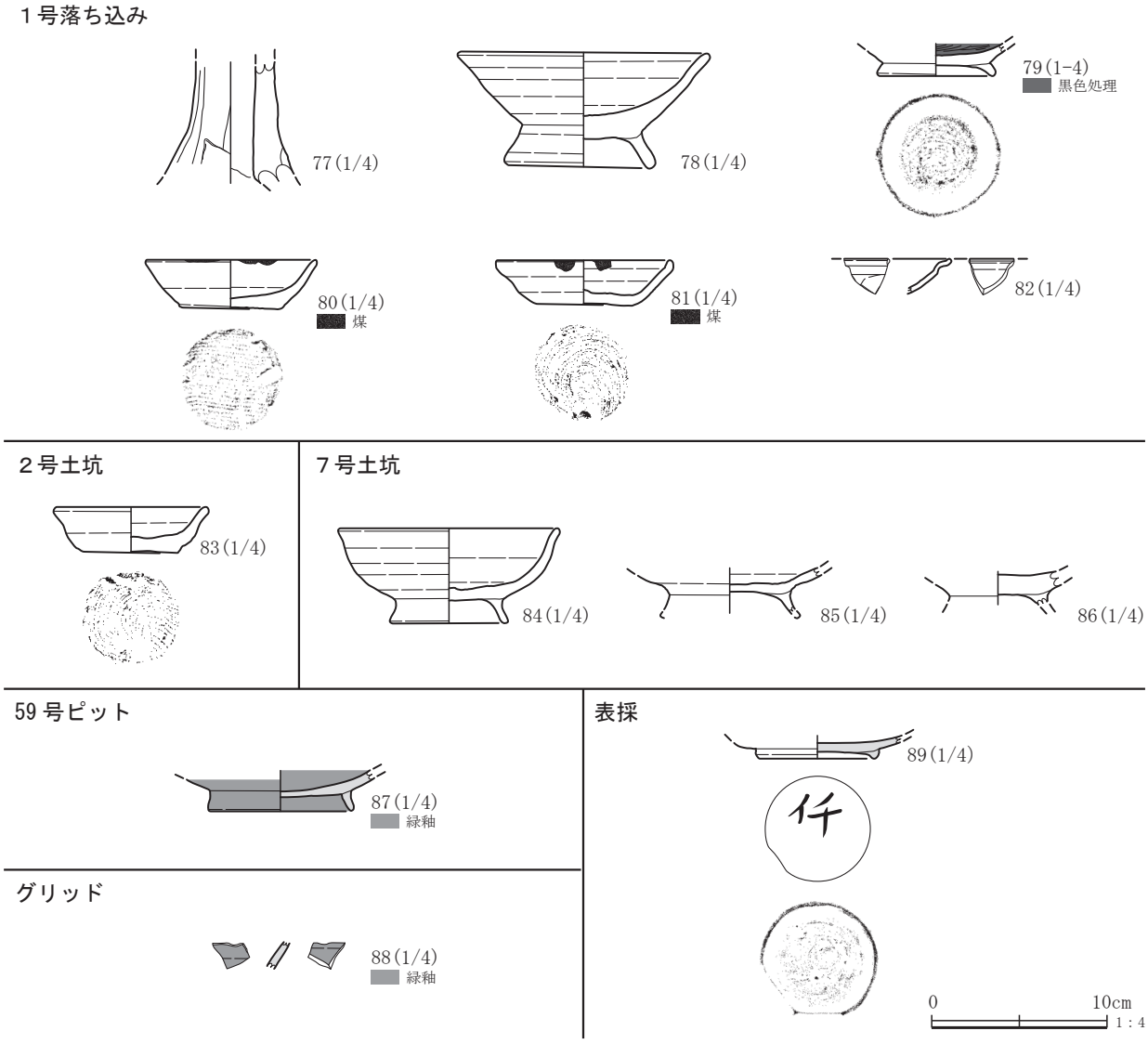


Fig.36　出土遺物（1号落ち込み、2・7号土坑、59号ピット、グリッド、表採）

Ⅵ　まとめ

（１）検出された遺構について

元総社蒼海遺跡群（133）は、調査区内で１号礎石建物跡の掘込地業のほぼ全体を確認することができた。さらに、その上層、下層にも遺構が認められる濃密な遺構分布状態となっていた。遺構の時期を大きく分けると、６～７世紀代の竪穴建物跡や溝跡、８世紀代の礎石建物跡、掘立柱建物跡及び溝跡、10～11世紀代の竪穴建物跡、中世以降のピットや竪穴状遺構となる。本章では、特筆すべき遺構である礎石建物跡を中心に、検出遺構について総括を述べる。

（２）総地業を伴う礎石建物跡について

今回検出した１号礎石建物跡（Fig.11）は掘込地業による総地業が施され、その規模は１辺約13ｍで、西に2°程傾くもののほぼ正方位を採っている。遺構確認面から約40cmの深さまで掘込地業が確認できたが、礎石や、根石等の据え付け痕、柱穴等は確認できなかった。しかし、隣接する元総社蒼海遺跡群（127）（以下蒼海（○○）と略）で礎石と考えられる大きな石が３号井戸跡へ落とし込まれたように出土しているほか、南に約60ｍの地点にある上野国府等範囲内容確認調査73・75トレンチ(1)（以下上野国府○○トレンチと略）でも同様の石が出土している。総地業が施されていることや、付近で複数の礎石と考えられる石が出土していることから、１号建物跡は礎石建物跡であったと推定される。特に蒼海（127）３号井戸跡から出土した石は１号礎石建物跡の礎石である可能性が高い。また、蒼海（133）では表土直下で掘込地業面を確認しているため、本来は40cm以上掘り込んで地業が行われたことが推定でき、本来存在した基壇部分は削平されてしまったと考えられる。

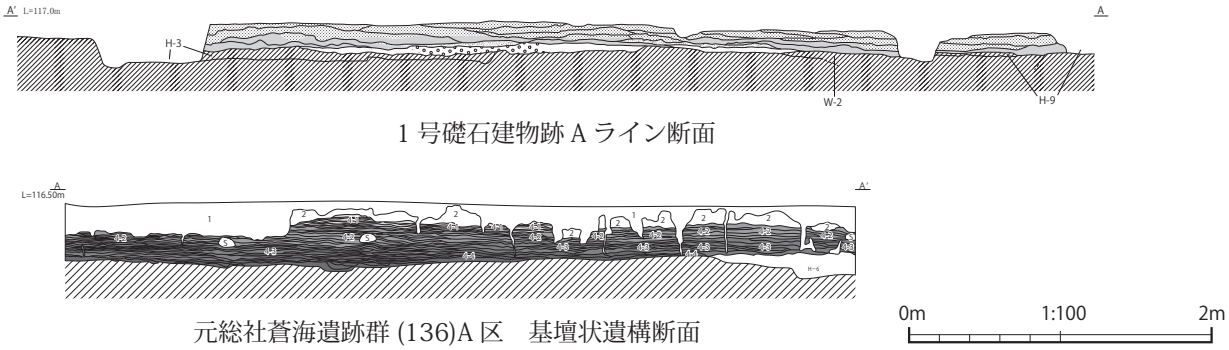
近年、元総社地区の宮鍋神社周辺では官衙関連遺構が相次いで検出されており、本遺構も同種の遺構と考えて良いだろう。総地業の礎石建物跡は付近の蒼海（99）、（136）でも確認されているが、いずれも全体を把握できておらず、元総社地区において全体を確認できた総地業の礎石建物跡は今回が初めてとなる。ここで、今回検出した礎石建物跡と、蒼海（99）、（136）等で検出された総地業の礎石建物跡を初めとする官衙関連遺構とを比較していきたい。

まず、各遺構の方位について見ると、蒼海（99）の礎石建物跡は西へ９°、蒼海（136）のものは不明瞭ではあるものの西へ13°傾き、１号礎石建物跡の持つ傾きとは異なっている。周辺で検出した布地業の礎石建物跡でも、蒼海（99）および蒼海（136）の布地業の礎石建物跡がともに西へ11°、上野国府28トレンチの布地業の礎石建物跡は西へ13°と、いずれも10°前後西へ偏した方位を採っている。類似した方位のこれらの建物群は同一の時期が考えられるが、これらと傾きの異なる本遺構は時期を違えていると考えるべきか。

また、周辺の掘立柱建物跡にも目を向けてみると、蒼海（95）１号掘立柱建物は西へ19°、同じく蒼海（95）２号掘立柱建物跡は西へ13°、蒼海（133）１号掘立柱建物跡（Fig.14）は西へ20°傾いており、本遺構とはやはり傾きを異にしている。加えて、蒼海（133）１号礎石建物跡と１号掘立柱建物跡の重複関係では、１号礎石建物跡の方が新しい事と確認している。したがって、10°～20°傾きを持つ建物群と比較して、正方位で配置された建物跡はより新しい時期のものといえるだろう。現時点では１号礎石建物跡と類似した方位の建物跡は他に検出されていないが、本遺構の発見は上野国府域の建物群の性格や時期差について、考察の余地を新たに与える成果となり得たと考えている。

次に、１号礎石建物跡の掘込地業について触れたい。蒼海（133）１号礎石建物跡の掘込地業層を構成する土は、（１）地山の総社砂層に由来する黄褐色の細かい砂層土とそのブロックを多く含んだ層、（２）As-C軽石や黒色土を多く含んだ層、（３）黄褐色砂層土のブロックを多く含んだ層の三種類に分けられる。そして下層では整地層として砂層土のブロックを含んだ暗褐色の層が観察できた。それぞれの層が互層となって堆積している版

築特有の構造を見てとれるものの、蒼海（136）で検出された基壇状遺構の掘込地業と比較すると、やや不完全な互層となっている箇所が散見される。蒼海（136）では各層が数 cm ごとに細分化され非常に緻密な構造となっていたが、本遺構では各層の厚さを目視でそこまで細分することができなかった。その上、各層の土が均一な状態で堆積しておらず、土の入れ方に斑（むら）を感じる状態となっている。これは検出面が整地層と近いためであるのか、この掘込地業自体が精密な版築を必要としなかったためであるのか、判然としない。



1 号礎石建物跡 A ライン断面

元総社蒼海遺跡群 (136)A 区　基壇状遺構断面

Fig.37　総地業の土層比較

1 号礎石建物跡の建物の性格は、官衙関連の建物であることは言えるものの、その性格については断言し難い。まず、瓦の出土数は極めて少なかったため、瓦葺きの建物であった可能性は非常に低いことが言える。後世の遺構から円面硯の破片（Fig.35）が出土しているが、筆記具に関わる遺物もほとんど見られず、本遺構で使用されていた道具と思しき遺物もない。総地業が施されていることから考えて、ある程度の重量に耐え得ることを想定して建てられたものであることは確かであるため、何らかの物品を収蔵していた倉庫と考えられる。

さて、蒼海（133）1 号礎石建物跡の礎石やその据え付け痕が確認できなかったことは既に述べたが、礎石を据え付けた根石と考えられる石は、調査区内から多数出土している。1 号建物跡の上層に構築された 1 号竪穴建物跡（Fig.16）や 5 号竪穴建物跡（Fig.18）、2 号竪穴状遺構（Fig.24）の床面や覆土内から、直径 20 ～ 30cm 程の扁平な円礫が多数出土しており、5 号竪穴建物跡に至っては竈の袖石や支柱としても同様の石が使用されていた。これらの石はいずれも河川由来の所謂川原石であり、何らかの人為的な意図を伴って持ち込まれたものと考えられる。加えて、これらの石が 1 号礎石建物跡の下層遺構からは検出されていないことから、礎石建物が廃絶した後、使用されていた根石が後世の竪穴建物の構築材に転用されたり、埋没時に混入したと考えられる。

（3）1 号溝跡について

1 号溝跡（Fig.21）は 1 号礎石建物跡とほぼ同時期の遺構と考えられ、走向も掘込地業の北辺と並行する。類似した溝跡が蒼海（127）で検出されており、蒼海（127）6 号溝跡は、蒼海（133）1 号礎石建物跡の南辺と平行している。この溝跡は 1 号礎石建物跡の南東隅付近で東方向と北方向へ丁字に分岐する。この丁字から分岐して北方向に続く溝は、1 号礎石建物跡の東辺と平行するように続くことを蒼海（132）3 区の調査で確認している。1 号礎石建物跡の西辺では、上野国府 9 トレンチで確認した南北方向の蒼海城堀跡により古代の遺構は滅失した可能性が考えられるが、1 号溝跡及び蒼海（127）6 号溝跡の位置から、1 号礎石建物跡を囲むように溝が掘られていた可能性が考えられる。その場合、1 号溝跡は 1 号礎石建物跡の周囲を廻るように掘られた溝の一条である可能性が示唆される。

（4）礎石建物跡の上層遺構（10 ～ 11 世紀）について

1 号礎石建物跡の廃絶後、重複して竪穴建物が複数構築されている。それら上層の遺構の中に、特徴的な竪穴建物跡が見られたため、ここに記す。1 号竪穴建物跡や 6 号竪穴建物跡（Fig.18）において床面に焼土や灰の分

布が見られ、竈以外の場所で火の使用が認められる箇所が検出されている。当初は工房等の可能性も考慮したが、炉と思しき部分は見つからず、1号竪穴建物跡から数点の鉄滓が出土したものの、それ以外に製鉄や鋳造等の鍛冶に関連する遺物は検出されなかった。目的は明らかにできていないが、何らかの火の使用を試みたものと考えられ、これは本調査区における古墳時代の住居の床面からは検出されなかった特徴である。10～11世紀の住居の一つの傾向として注目したい。

（5）上野国府で特徴的な遺物

宮鍋神社周辺では、屡々（しばしば）特徴的な土器が出土する。本調査でもその一部を確認している。1号落ち込み（Fig.25）では、酸化焔焼成須恵器が多数出土しており、その中に白色で土師質の高坏脚部が出土している（Fig.35,Fig.36）。同種の土器が蒼海（99）で出土しており、また、元総社小学校保管の、同校出土と思われる資料にも同様の遺物が見られる。この土師質の高坏は坏部の底面に穴が穿かれるという、特徴的な造りをしている。この土師質の高坏は現時点で県内では元総社地区の総社神社周辺でのみ確認されており、上野国府域で特徴的に出土する遺物と考えられる。

また、同遺構と4号竪穴建物跡、6号竪穴建物跡より、「ての字状口縁皿」の小破片（Fig.33,Fig.35）が出土している。平安京域で特徴的な土師器皿を模して製造されたものと考えられ、市内では調査区南隣の蒼海（127）のみで出土している。これらの遺物は官衙関連遺構に付随するものと考えられ、礎石建物が廃絶した後の本調査区周辺が官衙域であることを裏付ける一端となるだろう。

（6）まとめ

上記のことを踏まえ、この地域の変遷を考える。古墳時代には集落として竪穴建物が多数構築され、8世紀代には倉庫と考えられる礎石建物が建てられるようになったため、この間集落は断絶する。そして、その後、礎石建物が廃絶したことに、再び集落として使用されるようになったと考えられるが、その際の集落は国府に隷下するような性格を持っていたと考えられる。

今回検出した総地業が施された礎石建物跡が倉庫跡であると仮定すると、倉庫が一棟のみとは考えにくい。恐らく近辺に同種の倉庫が設けられていたはずであり、本調査区一帯は倉庫群が存在していたと考えられる。したがって、今後も宮鍋神社周辺における建物跡の検出は相次ぐことが予想される。本遺構と関連する倉庫跡の検出や、本遺構と同種の建物群の性質の解明については今後の調査成果を期待するとともに、検討を重ねていきたい。

（1）上野国府等範囲内容確認調査75トレンチは本稿執筆時点で2021年度調査途中にあり、未報告。

【主要参考文献】

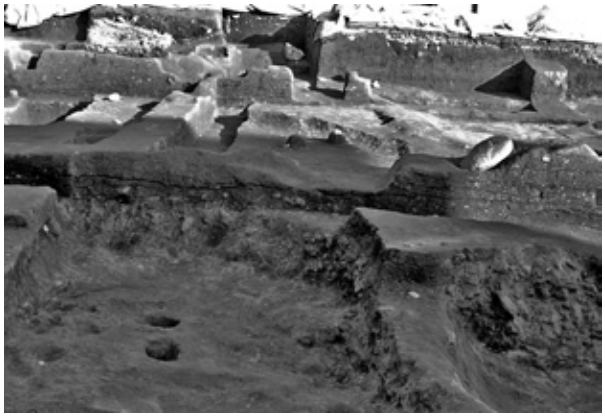
前橋市教育委員会　2015『元総社蒼海遺跡群（91）（95）（102）』
前橋市教育委員会　2016『元総社蒼海遺跡群（99）』
前橋市教育委員会　2019『元総社蒼海遺跡群（127）』
前橋市教育委員会　2020『元総社蒼海遺跡群（136）』
前橋市教育委員会　2013『推定上野国府～平成24年度発掘調査報告書』
前橋市教育委員会　2016『推定上野国府～平成26年度発掘調査報告書』
前橋市教育委員会　2017『推定上野国府～平成27年度発掘調査報告書』
奈良文化財研究所　2003　『古代の官衙遺跡』〈Ⅰ 遺構編〉

写真図版

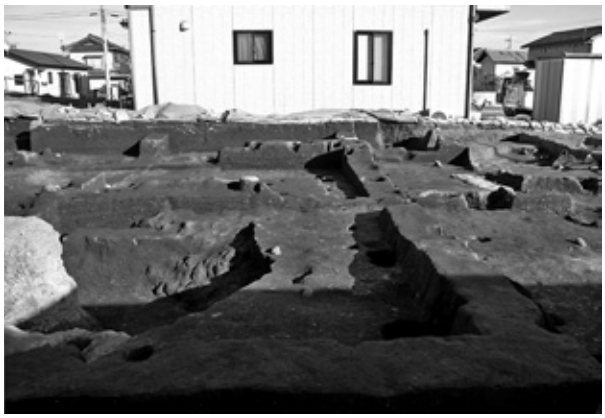
1　１号礎石建物跡Ａライン北半掘込地業

2　１号礎石建物跡Ａライン南半掘込地業

3　１号礎石建物跡Ｂライン北半掘込地業



4　１号礎石建物跡Ｂライン中央部掘込地業



5　１号礎石建物跡Ｂライン南半掘込地業

6　１号礎石建物跡Ｃライン北半掘込地業

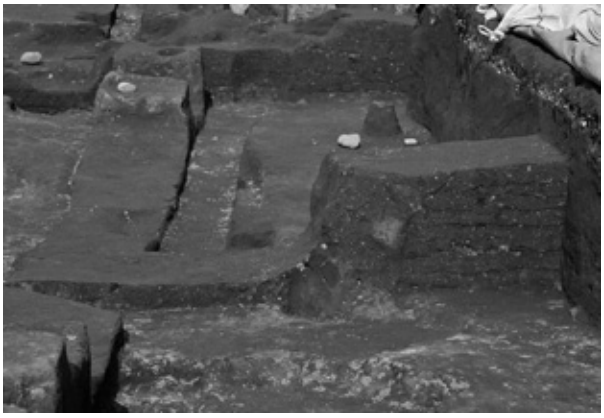
7　１号礎石建物跡Ｃライン南半掘込地業

8　１号礎石建物跡Ｄライン西半掘込地業

1　１号礎石建物跡Ｄライン東半掘込地業

2　１号礎石建物跡Ｅライン西半掘込地業

3　１号礎石建物跡Ｅライン中央部掘込地業

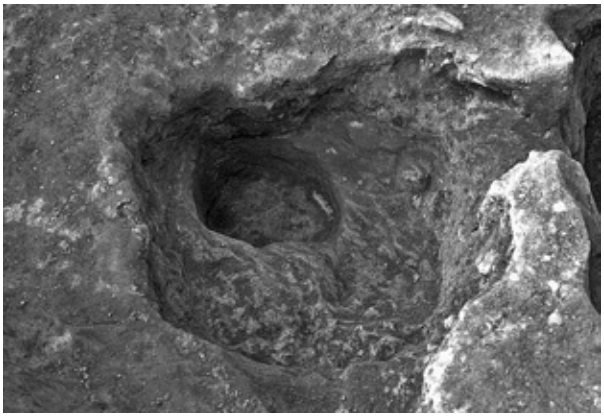


4　１号礎石建物跡Ｅライン東半掘込地業

5　１号礎石建物跡Ｆライン西半掘込地業

6　１号礎石建物跡Ｆライン中央部掘込地業

7　１号礎石建物跡Ｆライン東半掘込地業

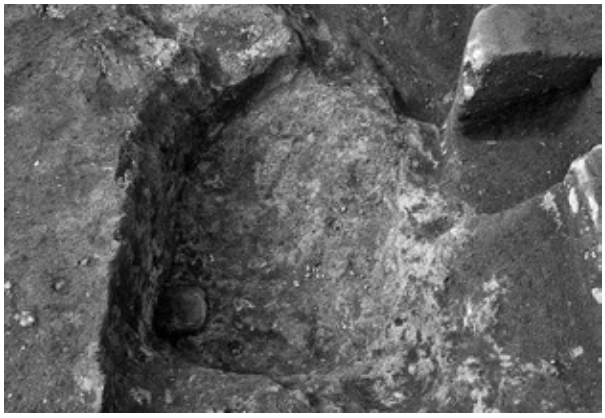


8　１号掘立柱建物跡 P_1 全景（東から）

1　1号掘立柱建物跡 P_1 土層堆積

2　1号掘立柱建物跡 P_2 全景（東から）

3　1号掘立柱建物跡 P_2 土層堆積



4　1号掘立柱建物跡 P_3 全景（東から）

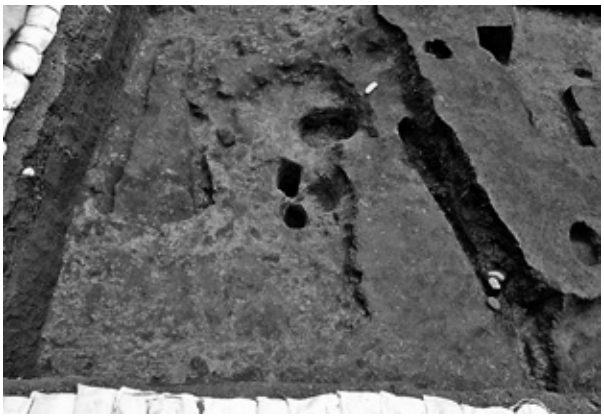
5　1号掘立柱建物跡 P_3 土層堆積

6　1号竪穴建物跡全景（南から）

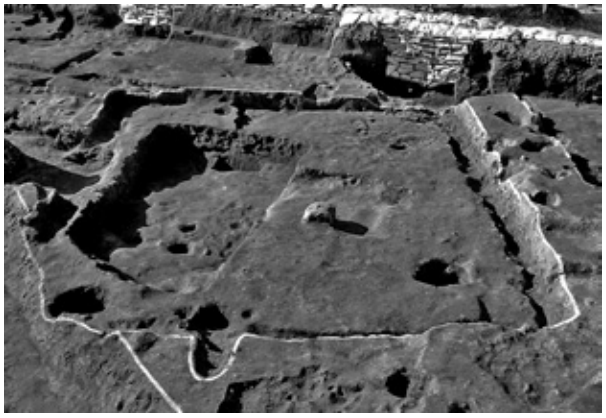
7　1号竪穴建物跡礫出土状態（南から）

8　1号竪穴建物跡鉈尾出土状態（西から）

1　１号竪穴建物跡竈全景（北西から）



2　２号竪穴建物跡全景（西から）



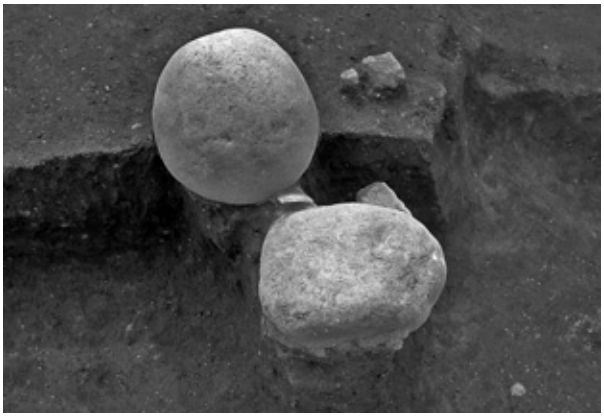
3　３号竪穴建物跡全景（北東から）

4　３号竪穴建物跡竈全景（南西から）

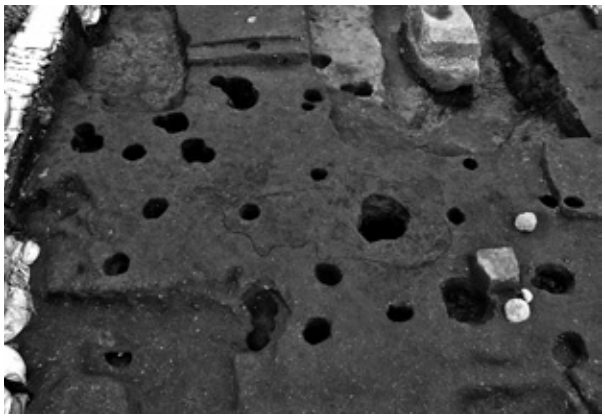
5　４号竪穴建物跡全景（北西から）

6　５号竪穴建物跡全景（西から）

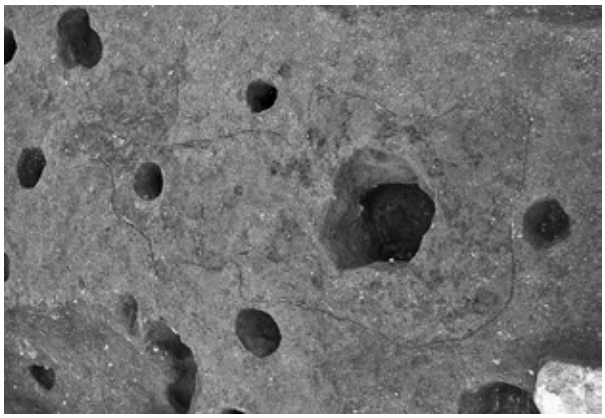
7　５号竪穴建物跡竈全景（西から）



8　５号竪穴建物跡礫出土状態（東から）



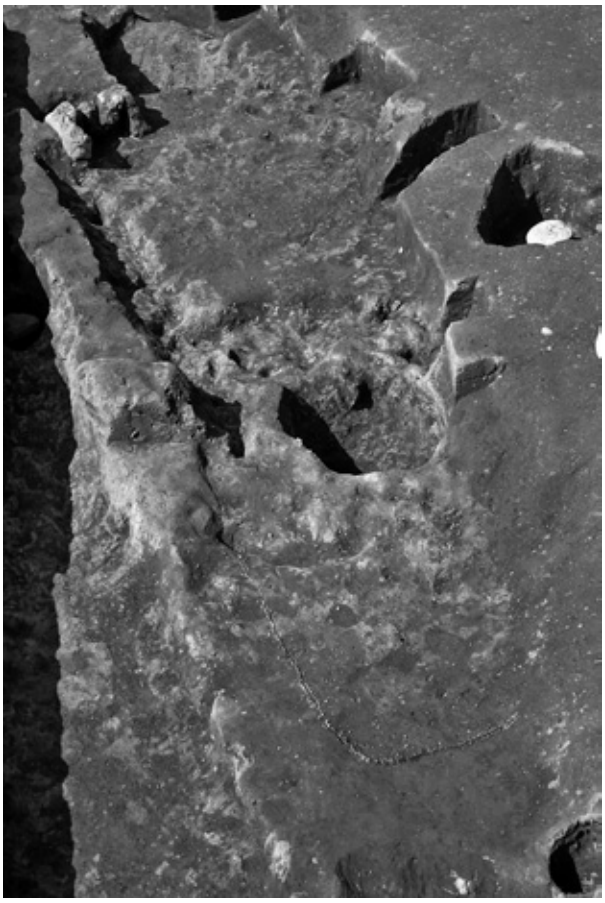
1　６号竪穴建物跡全景（南から）



2　６号竪穴建物跡灰検出状態（上が北）

3　７号竪穴建物跡全景（東から）

4　９号竪穴建物跡竈全景（東から）

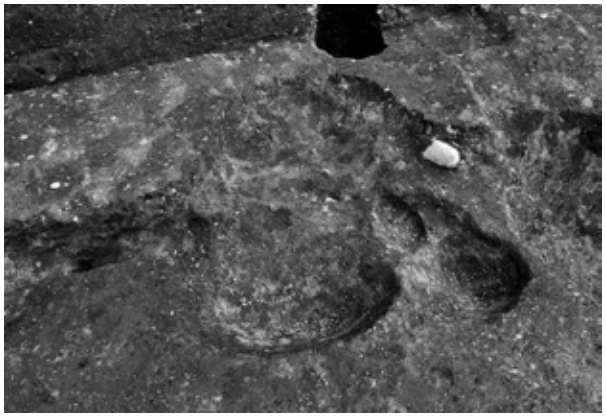


5　９号竪穴建物跡全景（東から）

6　10 号竪穴建物跡全景（東から）

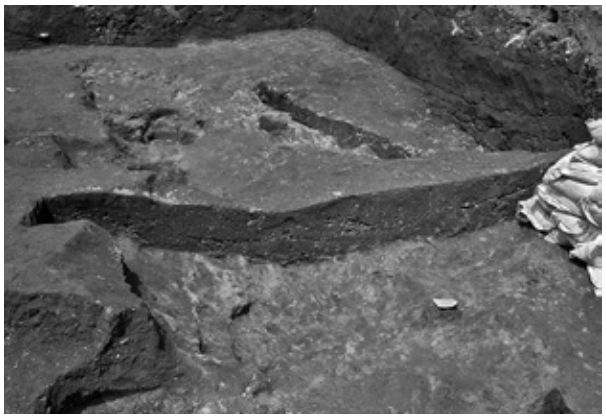
1　10 号竪穴建物跡礫出土状態（西から）

2　11 号竪穴建物跡全景（西から）

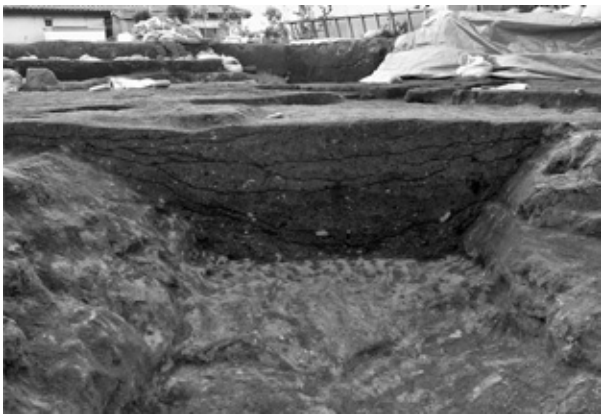


3　1 号竪穴建物跡竈全景（西から）

4　12 号竪穴建物跡遺物出土状態（南から）

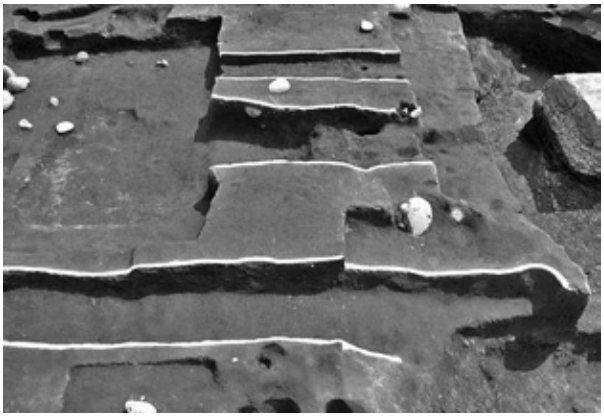


5　1 号溝跡土層堆積状態（東から）



6　2 号溝跡土層堆積状態（北東から）

7　3～6 号溝跡全景（東半）（北から）

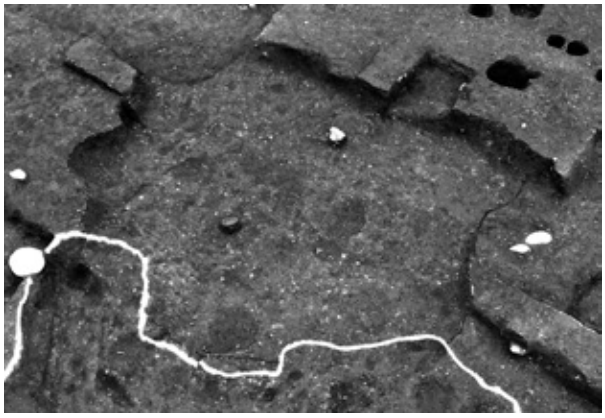


8　3～6 号溝跡全景（西半）（西から）

1　1号竪穴状遺構全景（南から）

2　2号竪穴状遺構全景（北から）

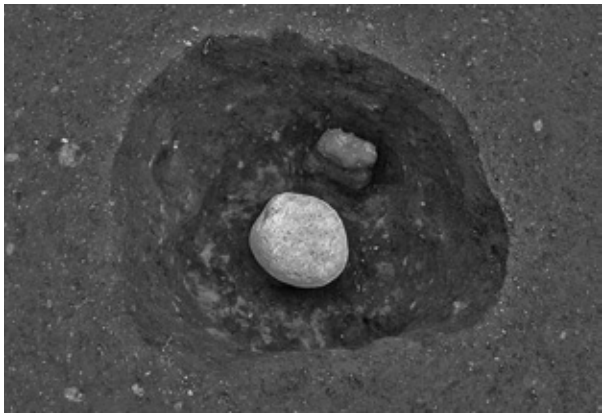
3　1号井戸跡全景（南から）



4　1号落ち込み全景（南から）

5　1号落ち込み遺物出土状態（南から）

6　1号土壙墓全景（北西から）



7　104号ピット全景（南西から）

8　168号ピット全景（北から）

１号礎石建物跡（掘込地業内）

1

2

3

4

5

6

１号竪穴建物跡

7

8

10

11

12

13

14

15

16

２号竪穴建物跡

19

３号竪穴建物跡

20

21

４号竪穴建物跡

24

26

５号竪穴建物跡

25

30

32

33

31

34

35

６号竪穴建物跡

37

38

39- 1

39- 2

11 号竪穴建物跡

44

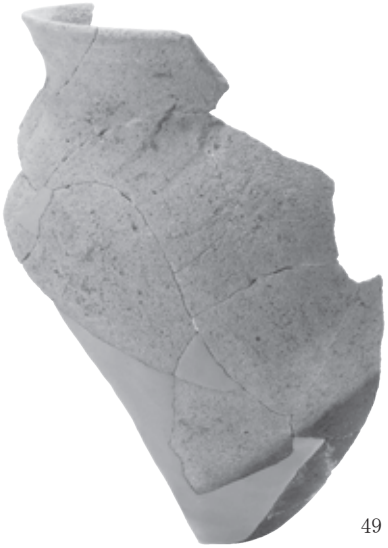
45

46

47

12 号竪穴建物跡

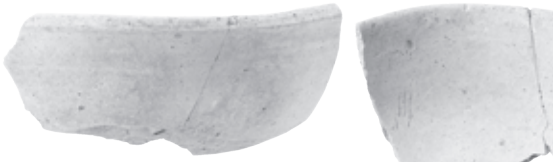
48


49

２号溝

52

53


54

55

56

57

58

59

60

３号溝

61

62

５号溝

63

66

１号落ち込み

68

69

70

71

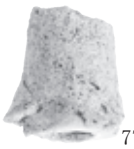
72

73

74

75

76


77

78

80

81

82

２号土坑

83

７号土坑

84

59 号ピット

87

表採

89

抄　　録

フ リ ガ ナ	モトソウジャオウミイセキグン（133）
書　　名	元総社蒼海遺跡群（133）
副 書 名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	―
シリーズ番号	―
編 著 者 名	齋藤颯・梅澤克典・阿久澤智和
編 集 機 関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒 317-0853　群馬県前橋市総社町三丁目 11 番地 4
発 行 年 月 日	20220318

フリガナ	フリガナ	コ　ー　ド		位　　置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北　緯	東　経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 （133）	前橋市元総社町 2107-1	10201	1A242	36° 23'11	139° 02'20	20190614 ～ 20191220	204㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 （133）	集落	古墳時代	竪穴建物跡、ピット	土師器、須恵器	牛池川右岸に立地する古墳時代の集落の一部を検出。
	官衙、集落	奈良時代 平安時代	竪穴建物跡、建物跡、ピット、土坑、落ち込み	土師器、須恵器、土師質土器、黒色土器、白磁、石製品	８世紀頃と推定される掘込地業（総地業）を持つ礎石建物跡を検出。 礎石建物が廃絶した10世紀代以降に竪穴建物が複数造られる。
	城館	中世	ピット群	在地産土器類	掘立柱建物の柱穴の可能性があるピットを検出。

元総社蒼海遺跡群（133）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2022 年 3 月 15 日　印刷
2022 年 3 月 18 日　発行
編集・発行／前橋市教育委員会文化財保護課
印刷／朝日印刷工業株式会社